

県内遺跡発掘調査報告書IX

令和元・2年度県内遺跡試掘・確認調査

2021

新潟県教育委員会

# **県内遺跡発掘調査報告書IX**

**令和元・2年度県内遺跡試掘・確認調査**

**2021**

**新潟県教育委員会**

## 序

新潟県教育委員会では、平成 25 年度から国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査を直営の体制で行っており、本書は令和元年度及び令和 2 年度に実施した調査成果をまとめたものです。

本書には 47 か所で実施した試掘・確認調査の結果を掲載しました。国土交通省が新直轄道路として村上市朝日から山形県鶴岡市まで建設する一般国道 7 号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）の試掘・確認調査が平成 27 年度から本格化しており、当該年度においては縄文時代の上野遺跡・法妙遺跡、中世の大川城跡や、新たに発見した古代・中世の竹ノ下遺跡等の調査を行いました。また、一般国道 17 号神立待避所建設事業では縄文時代の宮林 B 遺跡、一般国道 253 号八箇崎道路建設事業では古代の金屋遺跡・六日町藤塚遺跡の広がりを確認し、一般国道 17 号川口待避所建設事業では新たにササラ西遺跡を発見しました。

本書が県内の埋蔵文化財保護行政の基礎資料となり、地域の歴史に興味を持つ多くの方に活用されることを願っています。

最後になりますが、調査に際して多大な御協力と御援助を賜りました地元市町村教育委員会、近隣住民各位、国土交通省北陸地方整備局及び各国道事務所に対し、厚くお礼申し上げます。

令和 3 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長 稲 荷 善 之

## 例　　言

- 1 本書は、新潟県教育委員会が令和元年度及び令和2年度に実施した埋蔵文化財の事前調査（試掘・確認調査、詳細分布調査）の記録である。
- 2 本事業は、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、新潟県教育委員会が主体となって実施した。
- 3 出土遺物の注記は、調査年度と略号を用い、トレンチ番号・層位等を記載した。略号は次のとおりである。

【一般国道7号朝日温泉道路】 上野遺跡：R2カミノ 竹ノ下遺跡：R2タケノ

早稻田地区：R2ワセダ

【一般国道49号阿賀野バイパス】 薩木遺跡：R2カフキ

【一般国道8号曾地デーン着脱所】 曾地地区：R2ソチ

【一般国道17号川口待避所】 サラサ西遺跡：R2ササラ

【一般国道17号神立待避所】 宮林B遺跡：R2ミヤB

【一般国道253号八箇崎道路】 金屋遺跡：R2カナヤ 六日町麻塚遺跡：R2ムイカ

余川地区：R2八カ

- 4 出土品及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して新潟県教育委員会が保管・管理している。
- 5 本事業に係る重機・作業員等の調査支援業務は、株式会社島田組（令和元年度）、株式会社吉田建設（令和2年度）に委託した。
- 6 各事業の図版の構成は、第1図 位置図、第2図 トレンチ位置図、第3図 土層性状図、第4図 遺構図面を基本とし、複数ある場合は枝番を付した。それ以降を写真図版とし、遺構図面が無い場合は第4図から1点ごとに連番を付した。
- 7 土層性状図は分層を行ったものの、同一層名を付したトレンチがある。各トレンチ内で分層できるが、相対的に同じ層として捉えられると判断した場合、そのように記載した。
- 8 本書の執筆は、加藤学・高橋保雄・塙野寛人・工藤祐大が行った。
- 9 図書館等（著作権法第31条第1項に規定する図書館等をいう。）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

凡例

	令和元・2年度 調査対象範囲		調査トレンチ (遺構検出)
	前年度以前 調査対象範囲		調査トレンチ (中世以前の遺物出土)
	調査トレンチ (遺構・遺物出土)		調査トレンチ (遺構・遺物なし)
	本調査必要範囲		判断保留範囲

# 目 次

## 第Ⅰ章 事業の概要

1 調査に至る経緯と体制	1
2 調査の概要	1

## 第Ⅱ章 令和元年度調査

1 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地24」(村上市堀ノ内地区) 試掘調査	5
2 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地19」(村上市勝木地区) 試掘調査	11
3 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地17」(村上市立島地区) 試掘調査	14
4 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地13」(村上市北川川地区) 試掘調査	16
5 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地11」(村上市北中地区) 試掘調査	18
6 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地7(センター杭No.679+50~681+00)」(村上市大須戸地区) 試掘調査	20
7 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地7(センター杭No.673+85~675+90)」(村上市大須戸地区) 試掘調査	22
8 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地7(センター杭No.671+60~673+00)」(村上市大須戸地区) 試掘調査	25
9 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地6(センター杭No.667+11~667+38)」(村上市大須戸地区) 試掘調査	27
10 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地6(センター杭No.656+40~665+60)」(村上市大須戸地区) 試掘調査	29
11 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地5」(村上市塙野町地区) 試掘調査	32
12 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地2」(村上市檜原地区) 試掘調査	34
13 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「上野遺跡」(村上市檜原地区) 確認調査	37
14 一般国道7号朝日温海道路事業関係 「上野遺跡」(村上市猿沢地区) 確認調査	40

15	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地1」(村上市猿沢地区) 試掘調査	43
16	一般国道7号新発田拡幅事業関係 新発田市小舟町～城北町地区 試掘調査	45
17	一般国道7号栗ノ木道路事業関係 新潟市中央区長瀬地区～JR地区 試掘調査	48
18	一般国道7号紫竹山道路事業関係 新潟市中央区紫竹山地区～東区紫竹地区 試掘調査	50
19	一般国道8号福島新田交差点事故対策事業関係 三条市一ツ屋敷新田地区 試掘調査	52
20	一般国道17号和南津改良事業関係 長岡市と南津地区 試掘調査	53
21	一般国道17号浦佐バイパス事業関係 南魚沼市浦佐地区 試掘調査	55
22	一般国道253号八箭崎道路事業関係 南魚沼市余川地区 試掘調査	56
23	一般国道17号六日町バイパス事業関係 南魚沼市竹俣地区 試掘調査	59
24	一般国道253号上越三和道路事業関係 「館遺跡」(上越市駒林地区) 確認調査	62

### 第III章 令和2年度調査

1	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「法妙遺跡」(村上市中浜地区) 確認調査	65
2	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地25」(村上市中浜地区) 試掘調査	68
3	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地24」(村上市堀之内地区・寺沢地区) 確認調査	70
4	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「大川城跡」(村上市府屋地区) 確認調査	74
5	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地23」(村上市府屋地区) 試掘調査	78
6	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地21」(村上市碁石地区) 試掘調査	80
7	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地19」(村上市勝木地区) 試掘調査	82
8	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地15」(村上市中津原地区) 試掘調査	83
9	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地13」(村上市北黒川地区) 試掘調査	85
10	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地10」(村上市大每地区) 試掘調査	88
11	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地9_①」(村上市大每地区) 試掘調査	91

12	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地9_②」(村上市大毎地区) 試掘調査	95
13	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地3」(村上市早稲田地区) 試掘調査	97
14	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「上野遺跡」(村上市檜原地区) 確認調査	100
15	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地1」(村上市猿沢地区) 試掘調査	103
16	一般国道7号朝日温海道路事業関係 「推定地1」(村上市川端地区) 試掘調査	105
17	一般国道49号野村待避所事業関係 「野田原館跡」(阿賀町野村地区) 確認調査	106
18	一般国道8号曾地チェーン着脱場事業関係 柏崎市曾地地区 試掘調査	110
19	一般国道17号川口待避所事業関係 長岡市川口地区 試掘調査	113
20	一般国道253号八箇崎道路事業関係 南魚沼市余川地区 試掘調査	117
21	一般国道17号神立待避所事業関係 湯沢町神立地区 試掘調査	126
22	一般国道8号大潟除雪基地事業関係 上越市大潟区波柿浜地区 試掘調査	131
23	一般国道49号阿賀野バイパス事業関係 「熊木遺跡」(阿賀野市堀越地先) 確認調査	133

# 第Ⅰ章 事業の概要

## 1 調査に至る経緯と体制

新潟県教育委員会(以下、県教委)では、文化庁国庫補助金(県内遺跡発掘調査等)を受けて、主に国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査(試掘・確認調査、詳細分布調査)を平成 25 年度から県教委が直営で行っている。調査に係る体制は以下のとおりである。

### 【令和元年度】

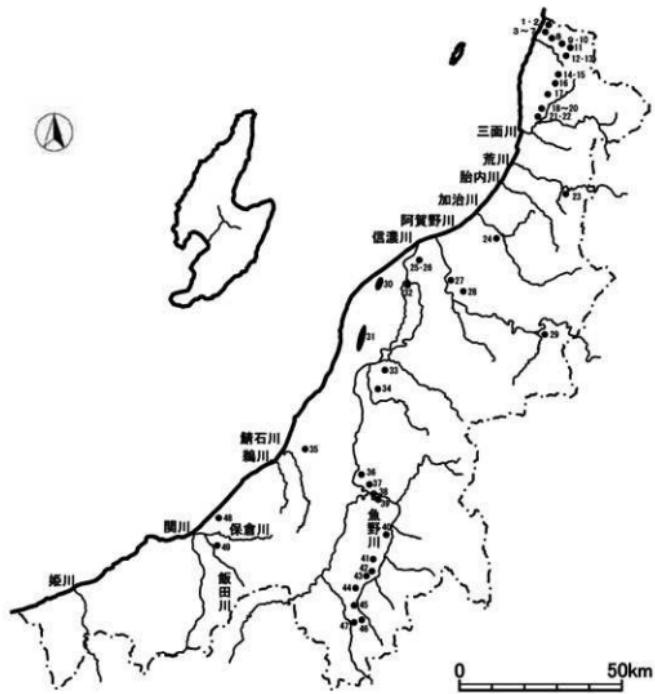
總括 佐藤美由紀（新潟県教育庁文化行政課長）  
管理 桶山 光英（新潟県教育庁文化行政課長補佐）  
調査指導 滝沢 規朗（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長）  
調査員 高橋 保雄（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）  
工藤 祐大（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）

### 【令和2年度】

總括 佐藤美由紀（新潟県教育庁文化行政課長）  
管理 桶山 光英（新潟県教育庁文化行政課長補佐）  
調査指導 渡邊 裕之（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長）  
調査員 加藤 学（新潟県教育庁文化行政課専門調査員）  
渡邊 祐司（新潟県教育庁文化行政課主任調査員）  
塩野 寛人（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）

## 2 調査の概要

令和元年 5 月から令和 2 年 12 月まで行った調査は、第 1 ~ 4 表、調査箇所は第 1 図のとおりである。本書では、試掘・確認調査の主な成果について報告する。



第1図 試掘・確認調査、分布調査位置図

※番号は第1・2表「位置番号」と一致する。

年度	事業者	調査 種別	事業名	位置 番号	所在地・地区名	調査期間	調査結果		調査結果		
							当初 面積	実績 面積	調査 面積	本調査 未記載 面積	時代
令和元年夏期	国土交通省	試験	3 村上市中野内地区		6月下旬～6月30日、 7月20日～7月17日、 8月20日～8月28日	25,383 314 2,046 古代 中世 竹ノ下					1
		試験	7 村上市上原木地区		9月20日～9月28日	16,800 286 —					
		試験	8 村上市上原木地区		9月10日～9月13日	16,496 173 —					
		試験	10 村上市上原木地区		7月18日～19日	16,426 117 —					
		試験	11 村上市上原木地区		7月28日	6,056 9 —					
		試験	12 村上市上原木地区	STA No. 879 + 880 + 881	9月23日～29日	13,800 223 —					
		試験	14 一般国道7号 朝日橋南詰事業	STA No. 873 + 874 + 875 + 876	8月3日～5日	11,760 147 —					
		試験	15 一般国道7号 朝日橋南詰事業	STA No. 873 + 874 + 875 + 876	9月30日～11月1日	8,309 18 —					
		試験	16 村上市中野内地区	(種定番号873a, 887 + 11+607+30)	7月2日	3,122 39 —					
		試験	17 一般国道7号 朝日橋南詰事業	(種定番号873a, 886 + 10+605+60)	9月16日～18日、 10月3日	23,300 41 —					
		試験	18 村上市中野内地区	8月6日	1,306 33 —						
		試験	19 村上市中野内地区	(種定番号2)	9月6日～9月13日	18,400 220 —					
		試験	21 村上市中野内地区	(種定番号1)	11月14日～18日	2,306 93 —					
		試験	24 一般国道7号 朝日橋南詰事業	8月2日～8月6日	7,480 7,483 113 —						
		試験	25 一般国道7号 朝日橋南詰事業	8月10日～11日	2,934 2,934 44 —						
		試験	26 一般国道7号 朝日橋南詰事業	8月27日～28日	1,990 1,995 47 —						
		実施	4件18小所		-D	183,999 148,198 11,297 8,250					
令和元年秋期	国土交通省	試験	32 二条市一ノ瀬賀御御田地区	8月23日	300 300 9 —						
		試験	38 長岡市石舟御津原地区	8月12日～13日	4,192 4,192 147 —						
		試験	40 一般国道317号 八日井バイパス事業	8月14日～17日	6,199 6,199 41 —						
		試験	41 長岡市前谷余地区	11月25日～26日	3,090 3,090 66 1,600 古代 奈良	1					
		試験	42 一般国道317号 八日井バイパス事業	8月18日～8月21日	8,246 8,246 190 —						
		実施	3件11小所		小計	22,686 22,686 460 1,000					
		実施	49 一般国道317号 上越市新潟事業	9月19日	2,077 2,077 82 2,077 古代 奈良	1					
		実施	50 一般国道317号 上越市新潟事業		2,077 2,077 82 2,077						
		実施	合計：10件24小所		合計	208,361 192,751 2,954 11,936					

第1表 令和元年度 試験・確認調査一覧

※1：「当初」は事業者からの要望対象面積、「実績」は取り扱い判断した面積。「調査」はトレンチ面積を示す。

年度	事業者	調査 種別	事業名	位置 番号	所在地・地区名	調査期間	調査結果			
							分布 面積	分布 面積	分布 面積	
令和元年冬期	国土交通省	試験	6 一般国道7号 八日井バイパス事業		10月15日		試験調査不要			
		試験	20 村上市中野内地区		11月13日		試験調査不要			
		試験	23 一般国道113号 栗原市尾崎野地区		8月23日		試験調査不要			
		試験	27 木古内ババヌカ事業		8月29日		試験調査不要			
		試験	34 丸岡市上断新町地区		12月23日		試験調査不確			
		試験	35 初崎市曾池地区		12月23日		試験調査必要			
		試験	36 小千谷市O牛生地区		12月28日		試験調査必要			
		試験	37 長岡市東川口地区		12月29日		試験調査不要			
		試験	38 芳賀郡山口山地区		12月29日		試験調査必要			
		試験	42 丸岡市石舟地区		10月24日		試験調査必要			
		試験	43 丸岡市石舟地区		12月9日		試験調査不要			
		試験	44 丸岡市上一ノ瀬地区～下 一ノ瀬地区		12月9日		試験調査不要			
		試験	45 源治町源治地区		12月17日		試験調査不要			
		試験	46 源治町神立地区		12月17日		試験調査必要			
		試験	47 源治町三保地区～神立地区		11月5日		試験調査必要			
		試験	48 上越市御園地区伴高地区		12月16日		試験調査必要			

第2表 令和元年度 分布調査一覧

年度	事業者	調査 機関	事業名	位置 番号	所在地・地区名	調査期間	調査面積		面積結果				
							当初 実施 面積	実施 面積	本調査 必要 面積	時代	測研名等	測植 面積	
日 本 川  令 和 2 年 度	日本川 試験 農業 研究 事業	試験	一般国道7号 横江福浦道路事業	1	村上市大内地区(大内沙原郷)	6月1日～6月4日	4,300	4,300	100	—	調査 課	330	
		試験		2	村上市大内地区(大内沙原郷)	6月8日～10月7日	2,100	2,100	80	—			
		試験		3	村上市大内地区(内引郷)・ 横江福浦道路事業	4月22日～6月3日・ 8月8日～8月24日	6,000	6,000	231	900	古代 中世	竹ノ下	
		試験		4	村上市大内地区(大内郷)	6月26日～6月31日	7,200	7,200	91	1,000	中世	大内郷跡	
		試験		5	村上市大内地区(横江郷)	5月28日～6月28日	8,100	8,100	93	—			
		試験		6	村上市大内地区(横江郷)	6月20日～21日	1,300	1,300	13	—			
		試験		7	村上市大内地区(横江郷)	6月28日	1,100	1,100	11	—			
実施：1作7.2ヘク							小計	29,000	28,940	100	2,400		
國 土 交 通 省  令 和 2 年 度	一般国道7号 横江福浦道路事業	試験		9	村上市大内地区(横江郷)	10月7日～10月9日		2,300	87	—			
		試験		10	村上市大内地区(横江郷) (横江郷)	7月20日～7月23日		6,100	81	—			
		試験		11	村上市大内地区(横江郷) (横江郷)	7月7日～7月9日		9,300	113	—			
		試験		12	村上市大内地区(横江郷) (横江郷)	9月7日～9月10日		16,500	125	—			
		試験		13	村上市大内地区(横江郷) (横江郷)	9月8日～9月10日		88,907	960	—			
		試験		14	村上市大内地区(横江郷) (横江郷)	7月10日～14日～15日		13,700	237	—			
		試験		15	村上市大内地区(横江郷)	7月14日		800	21	—	調査 課	上野	
		試験		16	村上市大内地区(横江郷)	7月20日		2,300	19	—			
		試験		17	村上市大内地区(横江郷)	7月17日		874	23	—			
		試験		18	村上市大内地区(横江郷)	7月18日		800	21	—	調査 課	上野	
実施：2作11.0ヘ							小計	74,177	67,087	1,000			
農 業 省  令 和 2 年 度	一般国道4号 官房野バイパス事業	試験		20	朝日町地区	12月1日～2日		4,012	4,012	30	—		
		試験		21	朝日町地区	12月18日～20日		4,470	4,470	90	1,000	調査 課	サザン
		試験		22	朝日町地区	6月29日～30日		4,470	4,470	90	1,000	調査 課	サザン
		試験		23	朝日町地区	11月18日～11月20日～ 11月24日～26日		11,000	11,000	178	4,000	古墳 古墳	内吉澤塚
		試験		24	朝日町地区	6月23日～6月26日		14,000	14,000	272	—	不明	野田原跡
		試験		25	朝日町地区	6月27日～6月28日		14,000	14,000	272	—		
		試験		26	朝日町地区	8月3日～4日		4,213	4,213	109	200	調査 課	宮原田
		試験		27	朝日町地区	8月3日～4日		4,213	4,213	109	200	調査 課	宮原田
		試験		28	朝日町地区	8月10日～11日		7,000	7,000	123	—		
		試験		29	朝日町地区	8月10日～11日		7,000	7,000	123	—		
実施：1作1.0ヘ							小計	7,000	7,000	123			
実施：2作23.0ヘ							合計	134,304	127,304	2,130	10,000		

第3表 令和2年度 試掘・確認調査一覧

表1：「当初」は事業者からの要望対象面積、「実施」は取り扱い判断した面積。「調査」はトレンチ面積を示す。

年度	事業者	調査 機関	事業名	位置 番号	所在地・地区名	調査期間	調査結果			
							本調査 必要 面積	時代	測研名等	測植 面積
合 計 2 年 度	国土交通省 一般国道 新規開拓事業	試験	一般国道11号 新規開拓事業	30	新潟市西区明治地区～西区 新潟市西区明治地区	12月9日			試験調査必美	
		試験	一般国道11号 新規開拓事業	31	新潟市西区～新潟市西蒲区 新潟市西区～新潟市西蒲区	12月8日～9日			試験調査必美	
		試験	一般国道8号 新規開拓事業	32	新潟市西区大通地区	12月10日			試験調査必美	
		試験	一般国道17号 新規開拓事業	33	小千谷市舟生地区	4月27日 6月18日			試験調査不確	

第4表 令和2年度 分布調査一覧

## 第Ⅱ章 令和元年度調査

### 1 一般国道7号朝日温海道路事業関係

#### 「推定地24」(村上市堀ノ内地区) 試掘調査

##### (1) 立地

日本海から約1km内陸に位置する。調査対象地は、大川右岸の沖積地及び段丘上と、これに連続する寺沢川の谷間の緩斜面に立地する。現況は水田・畑・荒地・山林で、標高は沖積地が6.8~8.9m、段丘上が14.2~23.2mである。周辺には東100mに巻貝形土製品(国指定重要文化財)で著名な上山遺跡、大川を挟んで対岸に大川城跡・大川館跡が存在する。

##### (2) 調査の概要

26か所のトレンチを設定して試掘調査を行なった。段丘下の沖積地と段丘上から寺沢川の谷間まで間では堆積状況が異なる。段丘下では大川から供給される砂礫が含まれるに対し、段丘上では寺沢川から供給される泥岩が多く含まれる。

##### (3) 層序

###### 【段丘上～寺沢川谷間】 1T～6T・12T～18T

寺沢川が主な供給源であり、上方は泥岩主体の土石流の礫が大きく、段丘崖近くでは礫の粒径が小さい。安定した時期に堆積したと思われる土層も見られる。

I 層：褐色～暗褐色シルト(耕作土)

I b層：褐灰色シルト(I層とII層の混合土)

I c層：褐色シルト(旧耕作土か?) 炭化粒を少量含む。

II 層：褐灰色砂礫(ほ場整備時の整地土) 下部に酸化鉄分・マンガンが沈着するトレンチもある。

III 層：褐灰色～暗褐色シルト(遺物包含層) 炭化粒やや多く混入する。

IV 層：褐色～青灰色シルト(遺構検出面) 泥岩主体の砂礫が多く混入する。

V 層：褐色～暗青灰色砂礫 泥岩主体の砂礫土。

###### 【段丘下】 7T～11T・19T～26T

大川右岸の沖積地であり、一部の微高地を除き、多くは氾濫原と推定される。

I 層：暗褐色シルト(水田耕作土)

II 層：暗褐色砂礫(ほ場整備時の整地土)

III 層：灰色シルト～粘土(遺物包含層) 炭化粒がやや多く見られる。

IV 層：灰色砂(洪水堆積層) 炭化粒は含まれない。

IV b層：灰色シルト～粘土(遺構検出面) 炭化粒は含まれない。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成2年「温海」 1:50,000原図)

V 層：褐色砂礫土（大川氾濫原）

VI 層：II層とIII層間に介在する砂礫層（洪水層堆積） 24Tのみに見られた。

#### （4）遺構

段丘上では、段丘崖近くの15Tで土坑1基、ピット1基、18Tでピット1基を検出した。いずれも遺構検出面はIV層上面である。15T-SK1は長軸90cm・短軸70cmの隅丸方形を呈し、深さ10cmを測る。覆土は泥岩の小礫が混入する暗褐色シルトである。炭化粒がやや多く見られた。15T-P1は径40×35cm・深さ6cmを測る。覆土は暗褐色シルトで、炭化粒が少量見られた。遺物は出土していないが、周辺からは製塙土器、黒色土器を含む土師器の細片が出土している。18T-P1は径50×45cmの円形を呈し、深さ10cmを測る。覆土には炭化物が極めて多く含まれていた。

段丘下では、21Tで3基のピットを検出した。いずれも遺構検出面はIVb層上面である。21T-P1は径25cmを測り、ピット内から4点の鉄滓が出土した。鉄滓はいずれも椀形滓である。21T-P2は径15cm、21T-P3は径35cmを測る。21T-P3は東壁にかかり、断面を見る限りIVb層上面から掘り込まれている。覆土はすべてのピットで同じで、暗灰色シルトで炭化粒をやや多く含んでいる。

放射性炭素年代測定の結果は15T-SK1は $105 \pm 20$ BP (calAD1,687~1,927)、18T-P1は $775 \pm 20$ BP (calAD1,222~1,276)である。18T-P1は、おおむね妥当な年代が得られているが、15T-SK1は予想に反して新しい年代である。周辺からは黒色土器や製塙土器が出土していることや遺構検出面がIV層であることから今後検討する必要がある。

#### （5）遺物

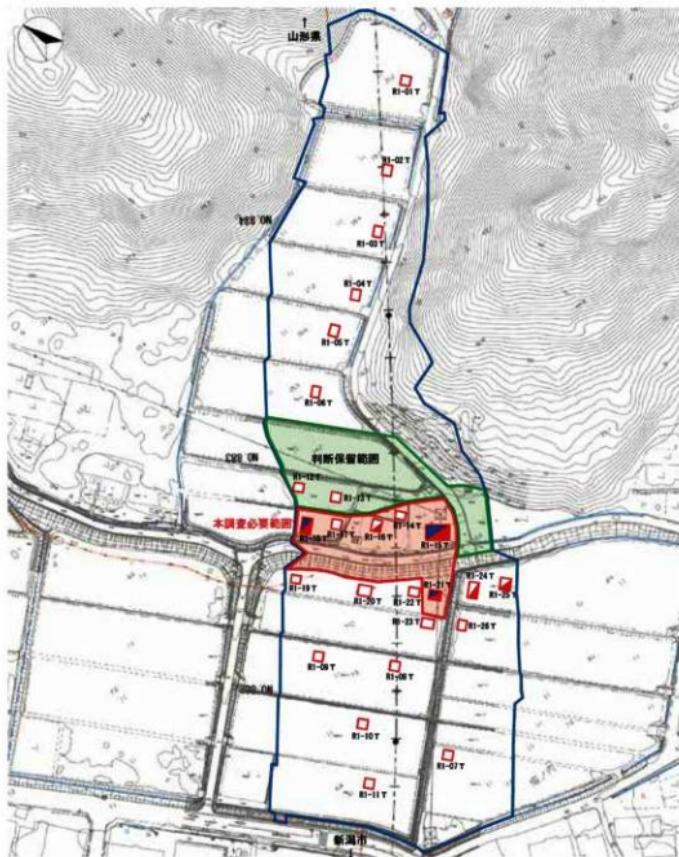
段丘上では、段丘崖近くの15T・16T・18TのII層・III層で土師器・須恵器・珠洲焼・青磁が少量出土した。III層は炭化粒が多く見られ、遺物包含層と推定される。II層はほ場整備時の整地土で、遺物は分布調査時のものも含め原位置を保っていない。遺物は細片が多く所属時期がはっきりしないが、黒色土器柄、製塙土器から9世紀頃と推定され、珠洲焼、米色青磁は中世に所属する。

段丘下では、21T・24T・25TのII・III・V層から土師器・須恵器・鉄滓が出土した。III層は炭化粒が多く見られ、遺物包含層と推定される。II層はほ場整備時の整地土、V層は洪水堆積層からの出土であり、原位置を保っていない。21T-P1からは椀形滓が4点出土し、意図的に入れたものと思われる。

製塙土器、椀形滓の出土から周辺地域で製塙や製鉄が行われたことが推定される。遺物の所属時期は製塙土器から9世紀ころと考えられる。

#### （6）調査の結果と取扱い

調査の結果、試掘対象地の一部を新発見遺跡「竹ノ下遺跡」とした。遺物・遺構の検出状況、地形の観察から段丘上、段丘崖、段丘下の2,080m<sup>2</sup>を本調査必要範囲とした。なお、未買収地で今回試掘調査ができなかった範囲を含め北側は判断保留とした。今後、未買収地の試掘調査を実施し、北側の本調査範囲を確定する必要がある。



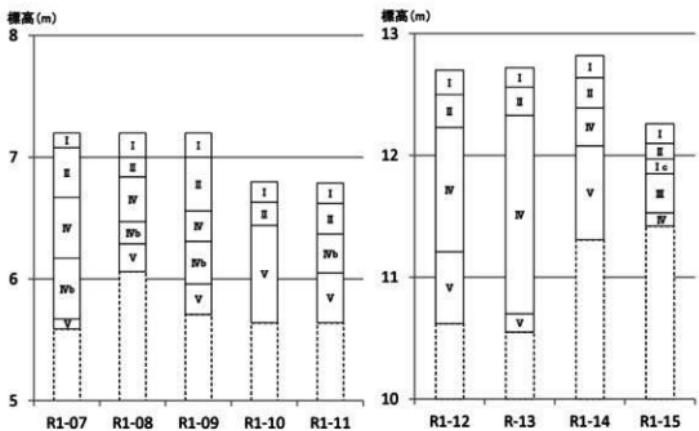
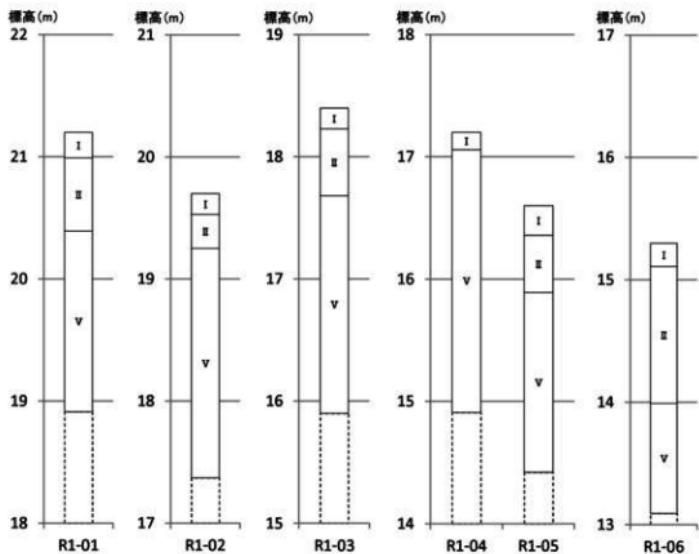
第2図 トレーン位置図 (1:2,000)



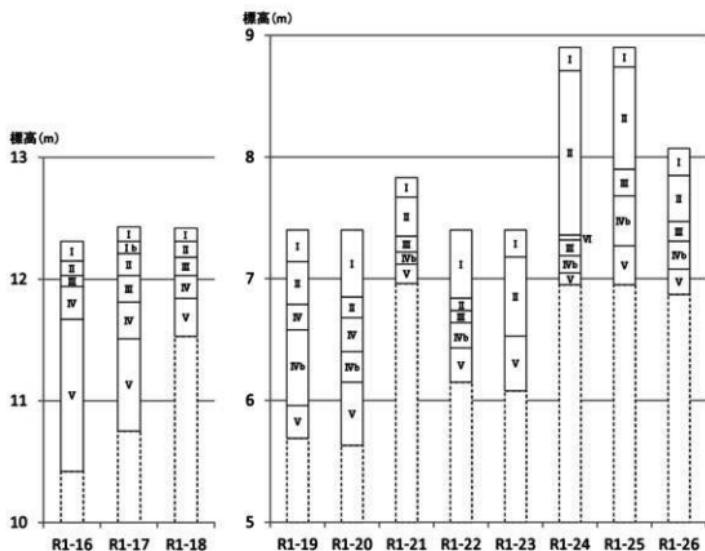
第5図 調査対象地近景 (R 1-1～26T付近 南西から)



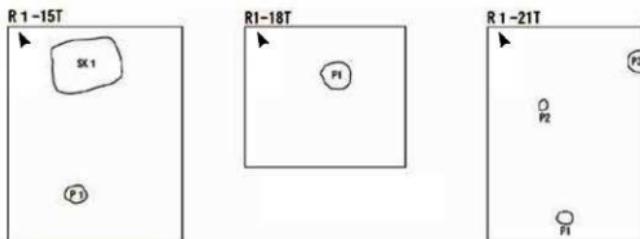
第6図 R 1-15T 全景 (北から)



第3-1図 土層柱状図 (1:40)



第3-2図 土層柱状図 (1:40)



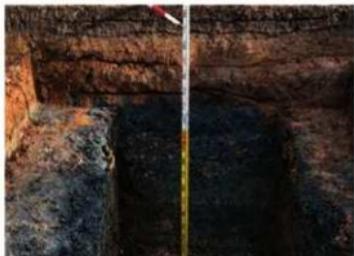
第4図 造構平面図 (1:80)



第7図 R1-15T トレンチ断面 (南西から)



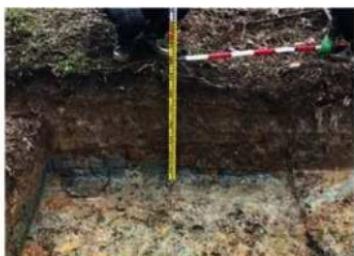
第8図 R1-15T 造構検出状況 (南西から)



第9図 R1-17T トレンチ断面（北西から）



第10図 R1-18T 全景（東から）



第11図 R1-21T トレンチ断面（北西から）



第12図 R1-21T 全景（北から）



第13図 R1-21T 出土遺物



第14図 R1-21T 出土遺物



第15図 R1-24T 出土遺物



第16図 R1-25T 出土遺物

## 2 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地19」(村上市勝木地区)試掘調査

#### (1) 立地

調査対象地は日本海から約800m内陸の勝木川下流部に位置する。日本海に注ぐ勝木川右岸の沖積地及びこれから東に続く小田沢の谷間に立地する。標高は前者が7~9m、後者が10~19mで、現況は水田、畑、荒地である。

#### (2) 調査の概要

16か所のトレーナーを設定して試掘調査を行った。  
1T~9T(沖積地)と10T~16T(小田沢の谷間)  
では堆積状況が異なる。

#### (3) 層序

##### 【1T~9T】

客土以外は、勝木川起源と小田沢起源の砂礫が混在する。

0層：明褐色シルト(盛土)泥岩が多く混入する。山北徳洲会病院の建設残土の搬入土。

0b層：褐色～暗褐色砂礫土(ほ場整備に伴う整地土)

0c層：暗褐色～黒褐色砂礫土(旧表土下の整地土)

I層：灰色～暗褐色シルト～砂質シルト(表土・水田耕作土) 小砂礫を多く含む。

Ib層：暗褐色シルト(旧表土)

II層：オリーブ灰色砂

III層：灰色～暗褐色粘土

IV層：灰色～褐色砂礫土

##### 【10T~16T】

客土以外は小田沢起源の砂礫(泥岩)である。

0層：明褐色シルト(盛土)泥岩が多く混入する。山北徳洲会病院の建設残土の搬入土。

0b層：灰黄褐色碎石(ほ場整備に伴う整地碎石)

I層：褐灰色～褐色シルト(表土・水田耕作土)

Ib層：黒褐色シルト(旧表土)

II層：オリーブ灰色粘土 小砂礫を多く混入する。

III層：オリーブ灰～暗褐色砂礫土 下部には未分解植物を含む。土石流に伴う泥岩の大礫が多い。

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

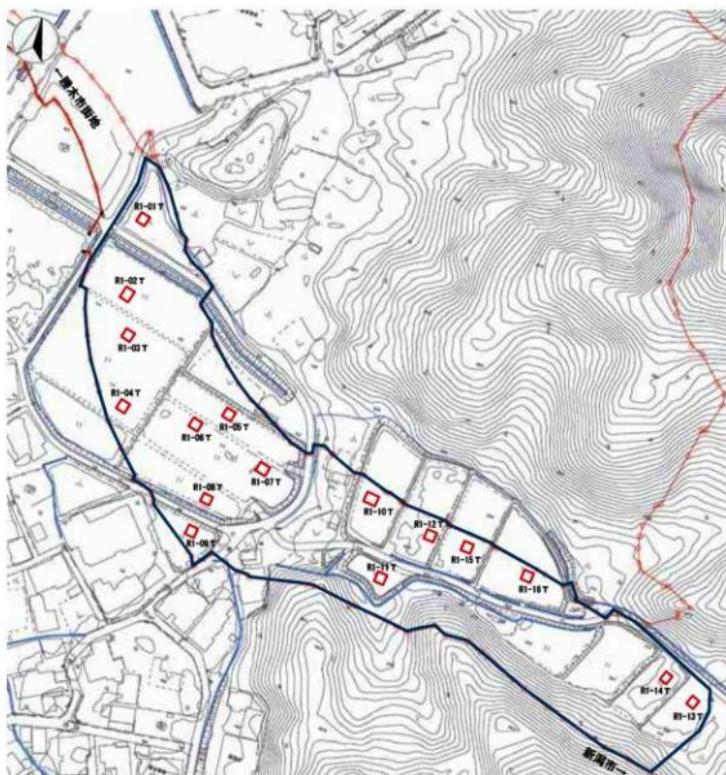
#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお、未買収地で試掘調査ができなかった範囲については、地形や周辺のトレーナーから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)

(国土地理院発行 平成16年「勝木」 1:50,000原図)



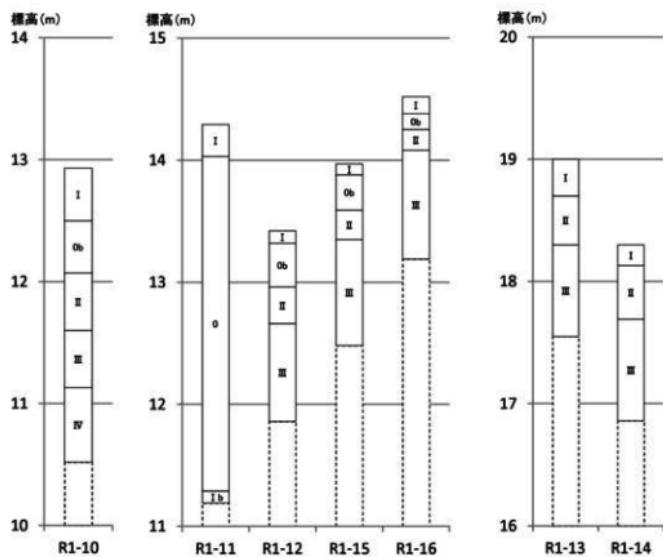
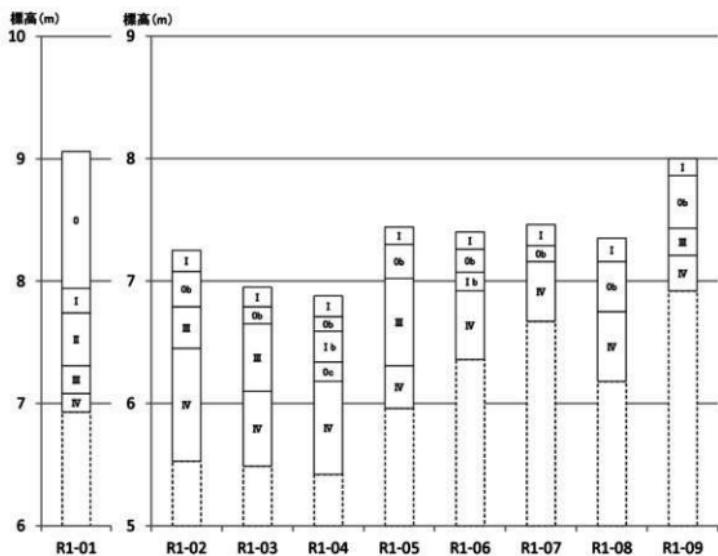
第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第4図 調査対象地近景 (R1-1～16T付近 西から)



第5図 R1-1T断面 (東から)



第3図 土層柱状図 (1:40)

### 3 一般国道7号朝日温海道路事業関係

## 「推定地17」(村上市立島地区)試掘調査

### (1) 立地

調査対象地は勝木川により形成された沖積地(1T~10T)と、これに注ぐ小川により堆積した微高地(11T・12T)からなる。

### (2) 調査の概要

12か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。  
1T~10Tと11T・12Tでは、堆積状況が異なる。

### (3) 層序

#### 【1T~10T】

- I 層：暗褐色シルト(表土・水田耕作土) 小砂利を多く含む。
- II 層：灰オリーブ粘土(ほ場整備時の整地土)
- III 層：黒褐色シルト(旧表土) 小砂利を多く含む。
- IV 層：灰色シルト～砂 勝木川起源の洪水堆積層。
- V 層：褐色シルト～砂 勝木川起源の洪水堆積層。
- VI 層：黄褐色砂礫 勝木川起源の洪水堆積層。

#### 【11T・12T】

- 0 層：褐色砂礫土(盛土)
- I 層：黒褐色砂礫(表土)
- I b 層：暗褐色砂礫(旧表土)
- II 層：暗褐色砂礫 砂主体。
- III 層：褐色砂礫 砂主体。
- IV 層：暗褐色砂礫 砂主体。
- V 層：褐色砂礫 砂主体。

### (4) 遺構・遺物

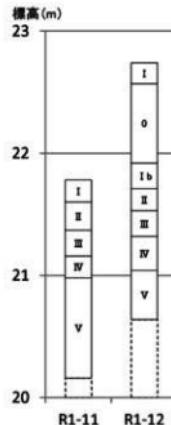
遺構・遺物は、検出されなかった。

### (5) 調査の結果と取扱い

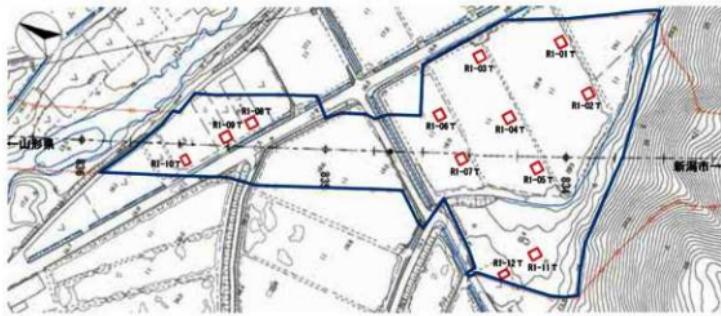
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお、未買取地で試掘調査ができなかった範囲については、地形や周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。



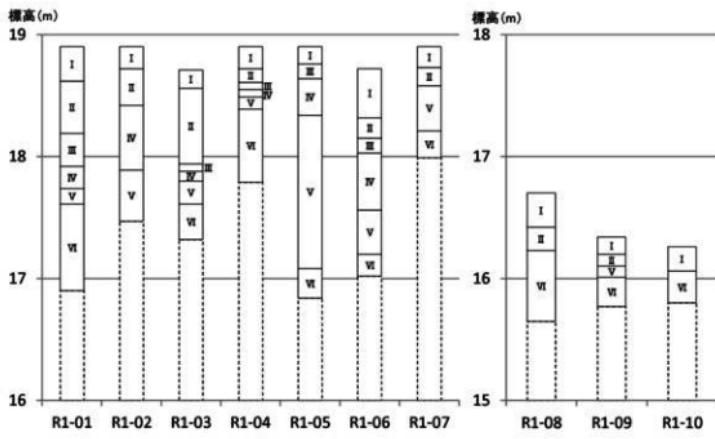
第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成16年「勝木」 1:50,000原図)



第3-1図 土層柱状図 (1:40)



第2図 トレーン位置図 (1:2,000)



第3-2図 土層柱状図 (1:40)



第4図 調査対象地近景 (R1-1~12T付近 東から)



第5図 R1-1T トレーン断面 (北西から)

#### 4 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地13」(村上市北黒川地区) 試掘調査

#### (1) 立地

日本海から約7km内陸の岩船山地北部に位置する。日本海に注ぐ勝木川の右岸沿いの河岸段丘上に立地し、現河床との比高は約10mを測る。標高は93~95mほどで、現況は水田である。

#### (2) 調査の概要

8か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は河岸段丘上であり、基盤層は勝木川の氾濫原堆積物の砂礫である。

#### (3) 層序

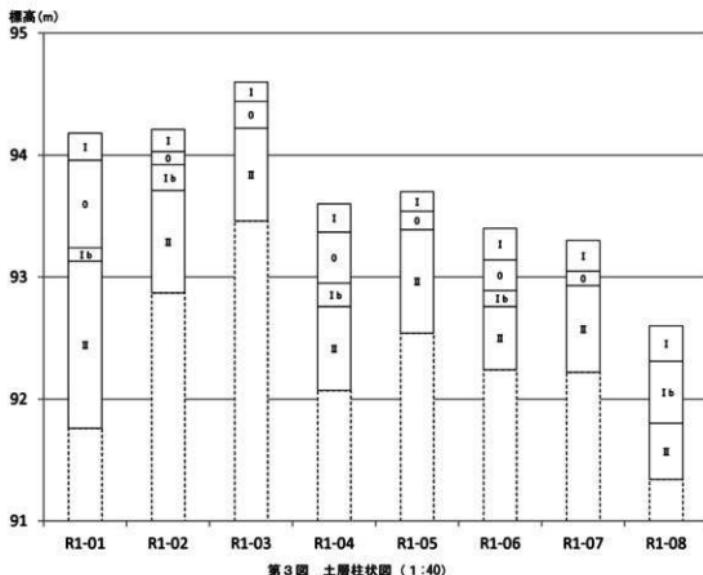
- I 層：黒褐色シルト（水田耕作土） 小砂礫が混入する。
- 0 層：褐灰色砂礫土（ほ場整備時の整地土）
- I b 層：暗褐色シルト（旧表土） 小砂礫が混入する。
- II 層：灰黄褐色砂礫土（基盤層）

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。





第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000 原図)



第4図 調査対象地近景 (東から)



第5図 R 1-1 T トレンチ断面 (北西から)



第6図 R 1-4 T トレンチ断面 (北西から)



第7図 R 1-6 T トレンチ断面 (北西から)



第8図 R 1-7 T トレンチ断面 (北西から)

## 5 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地11」(村上市北中地区)試掘調査

#### (1) 立地

調査対象地は岩船山地北東部の内陸に位置する。調査対象地は2か所に分かれる。①地点は岩船山地の北東に延びる支尾根の頂部付近、②地点は同じく岩船山地の北東に延びる支尾根の裾部に立地する。標高は①地点:161~169m、②地点:114~120mを測る。現況はいずれも杉林である。

#### (2) 調査の概要

4か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。①地点にR1-01T・02Tを②地点にR1-03T・04Tを設定した。

#### (3) 層序

- I層: 暗褐色シルト(表土)
- II層: 褐色シルト(III層への漸移層)
- III層: 黄褐色シルト ②地点では泥岩が多く混入する。

#### (4) 遺構・遺物

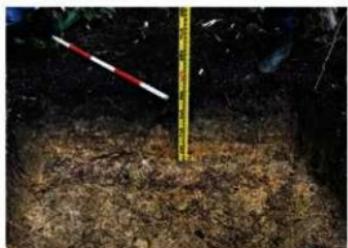
遺構・遺物は、検出されなかった。また、山城等の人工的な痕跡も認められなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

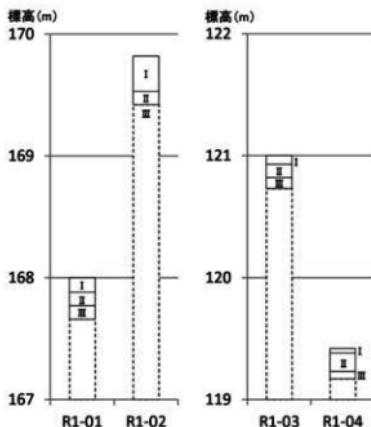
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお、未伐採地や貯木場で試掘調査ができなかった範囲については、地形やその周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。



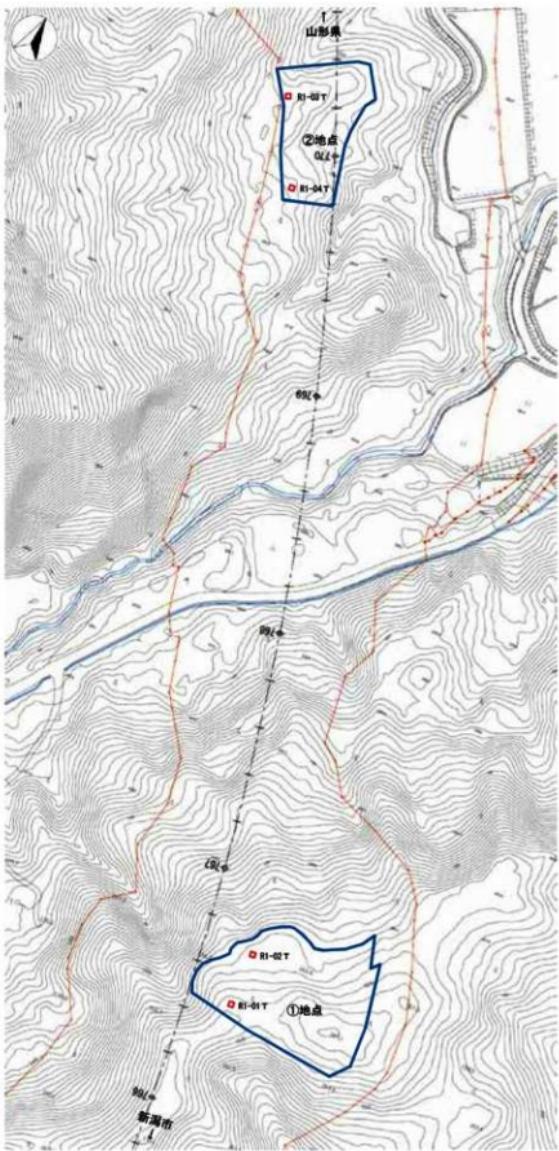
第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成16年「鶴木」 1:50,000原図)



第4図 R1-1 T トレンチ断面(西から)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)

## 6 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地7（センター杭No.679+50～681+00）」

#### おおすど (村上市大須戸地区) 試掘調査

##### （1）立地

調査対象地は岩船山地の東側、大須戸川右岸に位置する。その支流の米ヶ沢左岸の河岸段丘最上位に立地する。標高は124～128mほどで、現況は水田、畑である。

##### （2）調査の概要

14か所のトレンチで試掘調査を行った。調査対象地は米ヶ沢右岸の河岸段丘上であり、基盤層は米ヶ沢に起因する土石流堆積物である。加えては場整備による地形変化のため、旧地形の遺存している部分は非常に少なかった。

##### （3）層序

- I 層：暗褐色シルト（現耕作土）
- II 層：暗褐色砂礫土（は場整備に伴う整地土）
- III a層：黒褐色シルト（旧耕作土）
- III b層：暗褐色～黒褐色砂礫土（旧耕作土下の整地土）
- IV 層：黄褐色シルト質砂
- V 層：黄褐色～褐色～暗褐色砂礫土
- IV 層・V層は米ヶ沢起源の土石流堆積物である。

##### （4）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

##### （5）調査の結果と取扱い

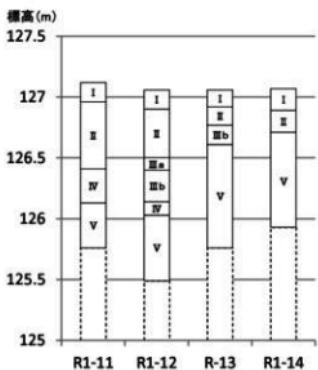
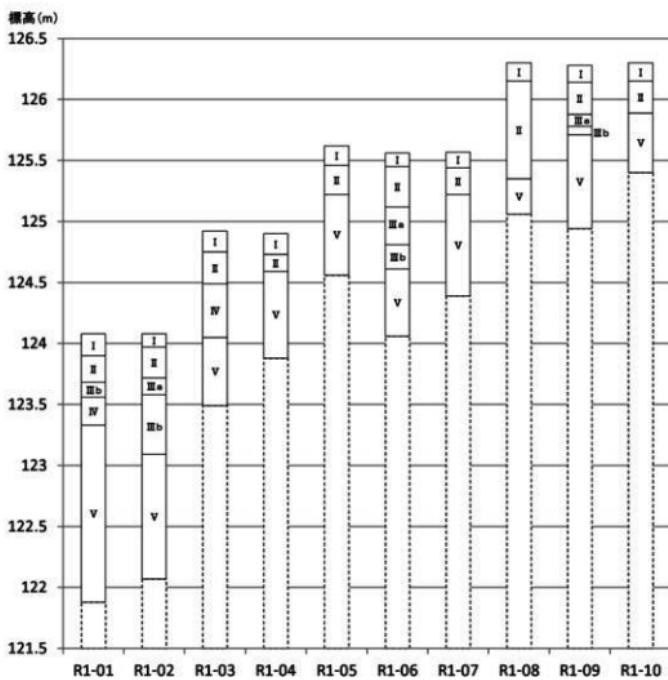
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお未買収地で試掘調査ができなかった範囲については、地形やその周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成16年「勝木」 1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図 (1 : 40)



第4図 R1-6 T トレンチ断面 (西から)

## 7 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地7(センター杭No.673+85~675+90)」

#### おおすど (村上市大須戸地区) 試掘調査

##### (1) 立地

岩船山地の東側、大須戸川に注ぐ小河川右岸の扇状地に立地する。標高は114~121mほどで、現況は養鶏場跡地、水田、荒地である。

##### (2) 調査の概要

9か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。  
調査対象地は養鶏場造成時の整地、水田の圃場整備に伴う整地の盛土が厚く堆積し、盛土下は土石流堆積物が厚く堆積する。

##### (3) 層序

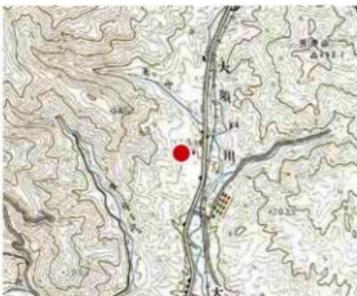
- I 層: 暗褐色~黒褐色砂礫土(盛土)
- I 層: 黒褐色シルト(旧表土・現耕作土)
- II 層: 暗褐色~褐色~褐灰色砂礫土(土石流堆積土)

##### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

##### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成16年「勝木」 1:50,000原図)



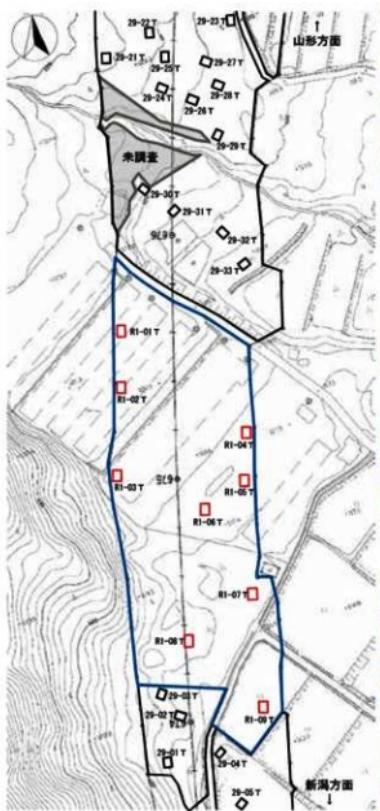
第4図 調査対象地近景 (R1-1 ~ 9T付近 北西から)



第5図 R1-1 T トレンチ断面 (東から)



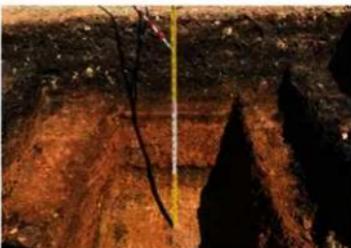
第6図 R1-3 T トレンチ断面 (東から)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第7図 R1-4 T トレンチ断面（西から）



第8図 R1-5 T トレンチ断面（西から）



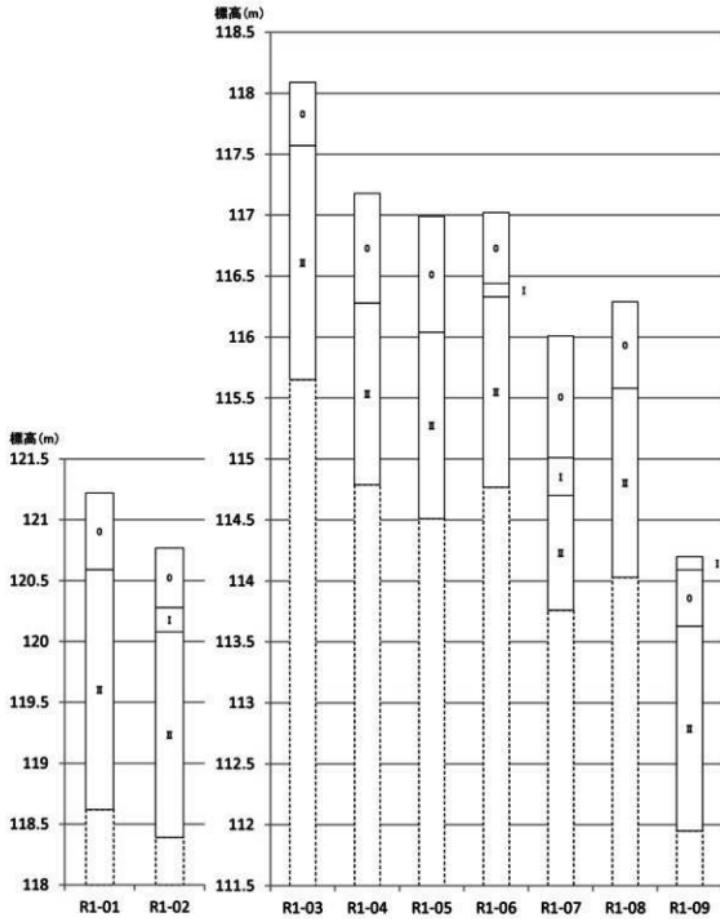
第9図 R1-7 T トレンチ断面（西から）



第10図 R1-8 T トレンチ断面（東から）



第11図 R1-9 T トレンチ断面（西から）



第3図 土層柱状図 (1:40)

## 8 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地7（センター杭No.671+60～673+00）」

#### おおすど (村上市大須戸地区) 試掘調査

##### (1) 立地

調査対象地は岩船山地の東側、大須戸川右岸側に位置する。岩船山地が大須戸川とその支流・米ヶ沢により形成された扇状地に接する丘陵緩斜面に立地する。標高は108～118mほどで、現況は山林である。

##### (2) 調査の概要

8か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は丘陵緩斜面であり、大須戸川及び米ヶ沢の影響を受けていない。基盤層は泥岩を含む砂礫土である。

##### (3) 層序

- I 層：黒褐色シルト（表土）
- II 層：暗褐色シルト
- III 層：黄褐色～にぶい褐色シルト～砂礫土

##### (4) 遺構・遺物

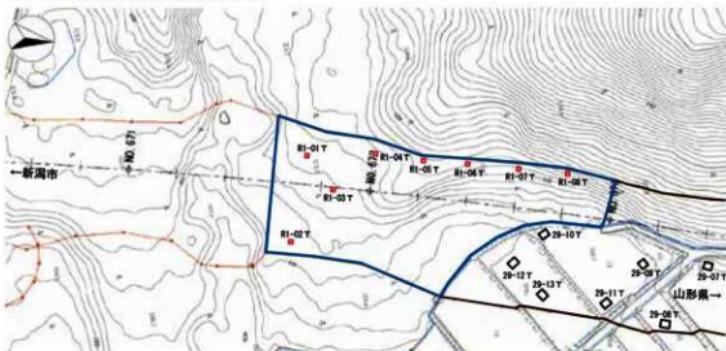
遺構・遺物は、検出されなかった。

##### (5) 調査の結果と取扱い

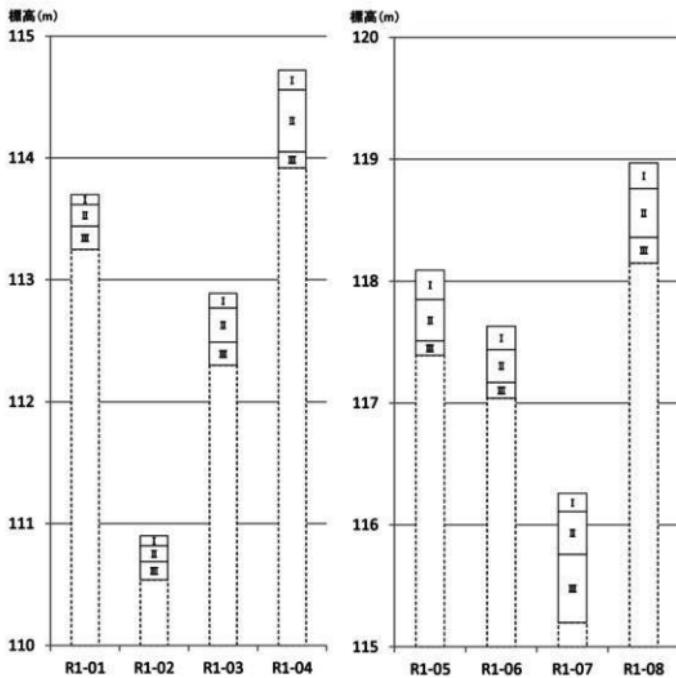
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお伐採木の貯木場で試掘調査ができなかった範囲については、地形やその周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成16年「勝木」 1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 R1-2 T トレンチ断面（東から）



第5図 R1-4 T トレンチ断面（東から）

## 9 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地6（センター杭No.667+11～667+38）」

#### （おおすど 村上市大須戸地区）試掘調査

##### （1）立地

調査対象地は、大須戸川右岸に位置し、岩船山地から東に延びる丘陵間を流れる小支流によって形成された小段丘に立地する。標高は103～104mほどである。かつては水田と推定されるが、現況は杉林・荒地である。

##### （2）調査の概要

3か所のトレンチで試掘調査を行った。かつては水田と推定されることから表土層下には、水田造成時の整地土が見られる。基盤層は段丘堆積の砂礫土に覆われている。

##### （3）層序

- I 層：暗褐色シルト（表土）
- 0 層：にぶい黄橙色～明褐色シルト（水田造成時の整地土）
- I b 層：褐色シルト（旧表土）
- II 層：黄褐色シルト～砂礫土
- III 層：褐灰色～オリーブ色砂礫土

##### （4）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

##### （5）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成16年「勝木」 1:50,000原図)

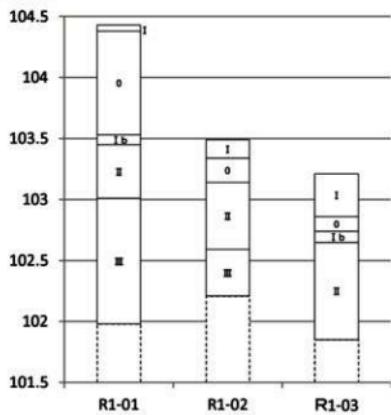


第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第4図 調査対象地近景 (R 1-1～3 T)

標高(m)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第5図 R1-1 T トレンチ断面 (北から)



第6図 R1-2 T トレンチ断面 (北から)



第7図 R1-3 T トレンチ断面 (東から)

## 10 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地6（センター杭No.656+40～665+60）」

#### （おおすど 村上市大須戸地区）試掘調査

##### （1）立地

大須戸川西側の岩船山地に位置する。岩船山地の北から南に延びる支尾根の東向きの丘陵上あるいは緩斜面に立地する。標高は88～162mほどで、調査地点により高低差が見られる。現況は杉林・雜木林・竹林である。

##### （2）調査の概要

18か所のトレンチを設定して調査を行った。調査対象地の丘陵上の尾根頂部では基盤層までは黒色土壌が薄く、比較的標高の低い緩斜面では黒色土壌が厚く堆積する。基盤層近くは明褐色シルトが堆積し、下面是風化した泥岩や緑色凝灰岩となる。

##### （3）層序

I 層：暗褐色シルト（腐植土）

I b層：黒褐色シルト 標高に低い緩斜面に見られる。

II 層：褐色シルト（III層への漸移層）

III 層：明褐色シルト（基盤層）しまりあり。

下面には風化した泥岩や緑色凝灰岩が見られる。

##### （4）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

##### （5）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。



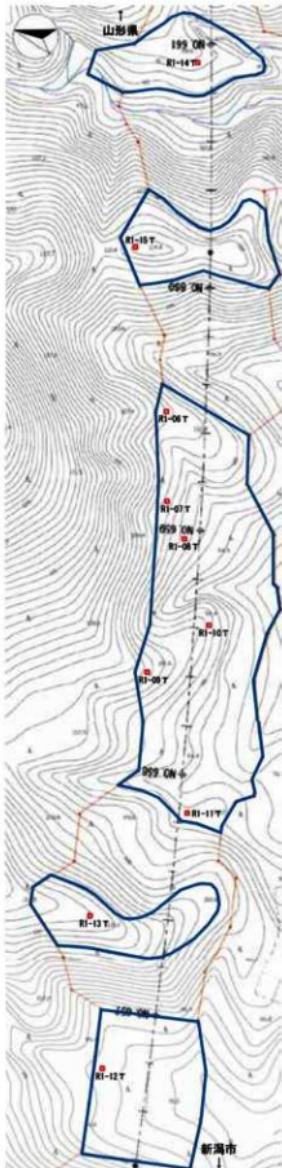
第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成16年「勝木」 1:50,000原図)



第4図 調査対象地近景 (R 1-6～11 T 西から)



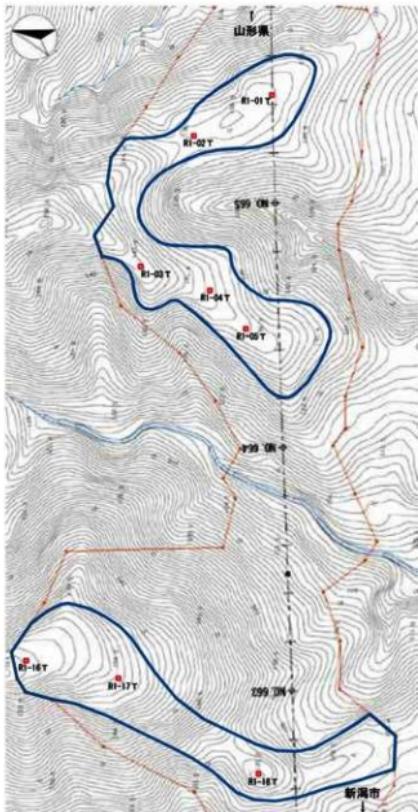
第5図 R 1-6 T トレンチ断面 (南から)

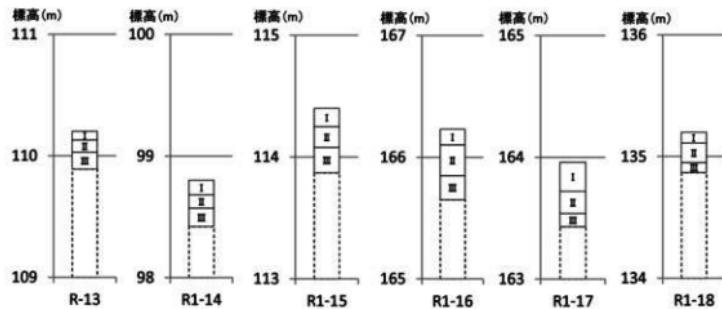
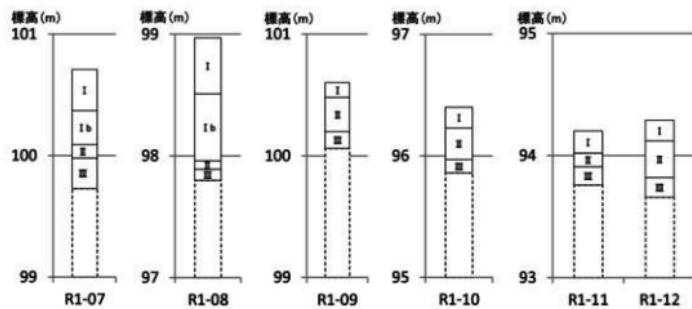
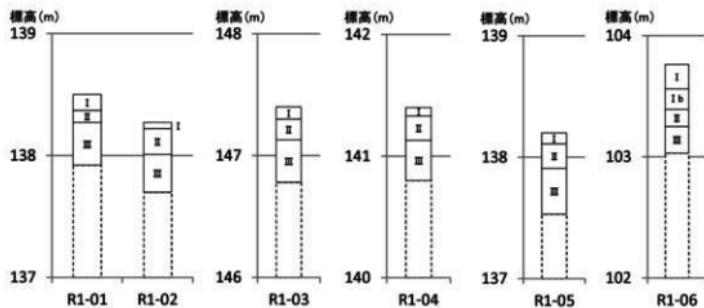


第2図 レンチ位置図 (1:2,000)



第6図 R1-17T レンチ断面 (南東から)





第3図 土層柱状図 (1:40)

## 11 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地5」(村上市塩野町地区) 試掘調査

#### (1) 立地

岩船山地東側の丘陵裾部の低地に立地する。標高は88.8mほどである。現況は杉林・荒地である。

#### (2) 調査の概要

2か所のトレンチで試掘調査を行なった。対象地は岩船山地から東に延びる丘陵裾部の低地で、周囲からの湧水のため湿地である。シルト質の土壤に覆われ、下部には未分解植物が堆積する。

#### (3) 層序

I層：黒褐色シルト（表土）

II層：灰白色～純い黄橙色シルト

III層：暗褐色シルト（未分解植物を多く含む。）

いわゆるガツボ層である。)

#### (4) 遺構・遺物

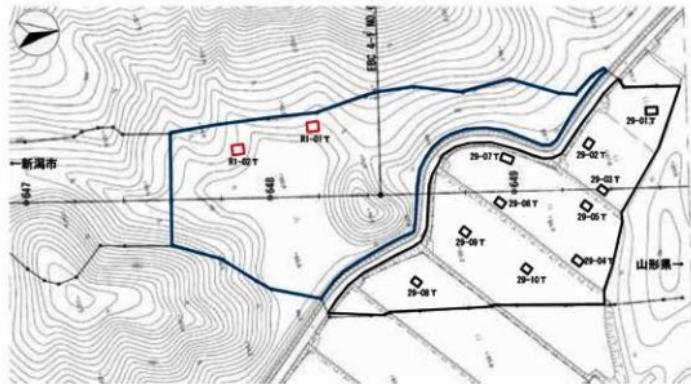
遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

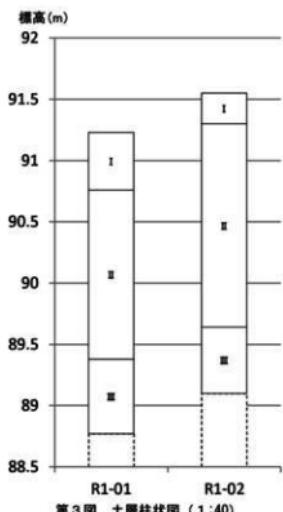
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成元年「勝木」・平成15年「塩野町」  
1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 調査対象地近景 (R 1-1・2 T 付近 東から)



第5図 R 1-1 T トレンチ断面 (東から)



第6図 R 1-2 T トレンチ断面 (東から)

## 12 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地2」(村上市檜原地区) 試掘調査

#### (1) 立地

調査対象地は岩船山地と高根川の間に位置する。岩船山地東側の扇状地上の緩斜面に立地する。標高は43~50mで、現況は宅地及び工場用地、荒地である。

#### (2) 調査の概要

13か所のトレンチで試掘調査を行なった。調査対象地の堆積物は、扇状地を形成した土石流堆積物を基本とする。西側に広がる岩船山地から供給された花崗岩類の砂礫が厚く堆積する。ただし、東の高根川に近づくほど岩船山地から遠ざかるため砂礫の粒度は細かくなる。

なお、南側の工場用地跡は、用地造成のための盛土が多く見られた。

#### (3) 層序

- 0 層：暗褐色～橙色砂礫土（盛土）
- I a 層：暗褐色砂礫土
- I b 層：黒褐色砂礫土
- II a 層：にぶい黄褐色砂礫土
- II c 層：褐褐色砂礫土
- II d 層：灰黄褐色砂礫土
- II d 層：にぶい黄褐色砂礫土 磨がやや大きい。
- III 層：褐色砂
- IV 層：暗褐色砂礫土



第1図 位置図 (1:50,000)

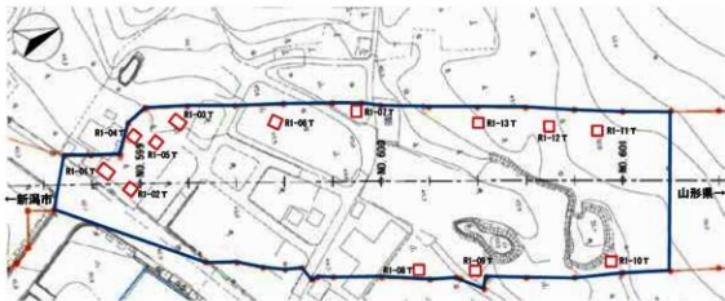
(国土地理院発行 平成15年「塩野町」 1:50,000原図)

#### (4) 遺構・遺物

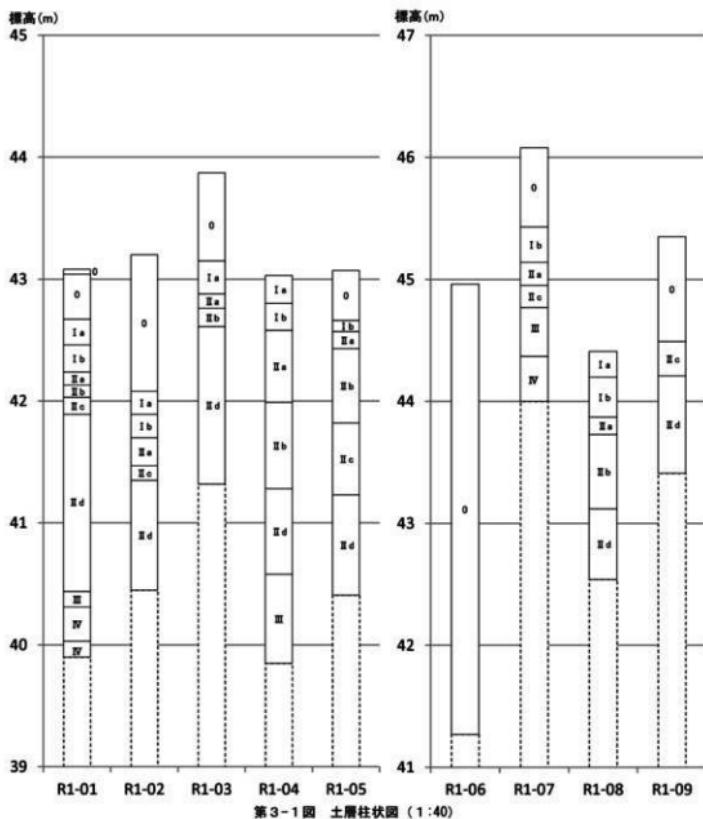
遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお未移転の工場事務所及び工場の試掘調査はできなかつたが、地形やその周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。



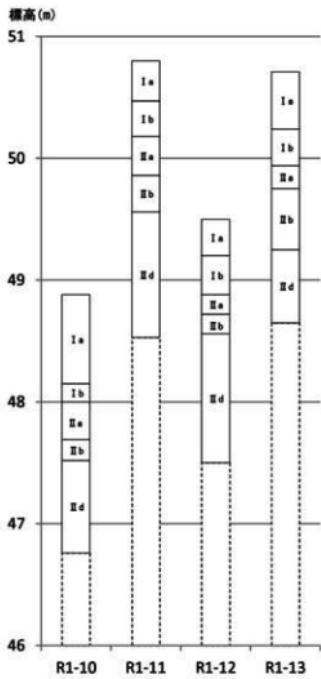
第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第4図 調査対象地近景 (R1-1～7T付近 南から)



第5図 R1-1 T トレンチ断面 (北西から)



## 13 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### かみのひばら 「上野遺跡」(村上市檜原地区) 確認調査

#### (1) 立地

調査対象地は、高根川右岸の丘陵裾部で、岩船山地東側の扇状地の緩斜面に立地する。しかし、調査対象地の北東側は1~2mほど低くなり、浅い沢地状を呈する。このことは隣接する現国道7号が2mほどかさ上げされていること、檜原地区試掘調査報告書のセンター杭№598付近の層序からも明らかである。標高は38~42mほどで、現況は畑・杉林・荒地である。

#### (2) 調査の概要

R1-057~R1-10Tまでの6か所のトレーンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地が丘陵裾部の扇状地に立地するため、表土層以下は扇状地堆積物でほぼ占められる。西側に広がる岩船山地から供給された花崗岩類の砂礫が堆積する。ただし、岩船山地から離れるため、砂礫の粒度は比較的細かい。

#### (3) 層序

各層の具体的な内容は、次のとおりである。調査対象地の隣接地は平成27・28・30年度に試掘調査が行われており、層序はこれに準拠した。

I 層：暗褐色～黒褐色土（現表土）

I b 層：暗褐色～暗灰色土（旧表土）

II 層：丘陵由来の層をII層として一括したが、  
土質・色調・遺物の有無などから細分  
した。

II a 層：黄褐色シルト

II b 層：灰白色砂礫土（小礫が多い。土石流に  
よる二次堆積と考えられる。）

II c 層：黄褐色～褐色シルト（II a 層に近似す  
るが、小砂礫が混じる。）

II d 層：暗褐色～黒褐色シルト（安定した時  
期に堆積した土層の可能性がある。  
縄文時代の遺物包含層。）

II e 層：暗褐色シルト（縄文時代の遺物包含層でII f 層より色調は薄い。）

II f 層：黒褐色シルト（縄文時代の遺物包含層の主体。）

II g 層：褐色砂礫土（8 Tのみで認められる。）

II h 層：褐色シルト（8 Tのみで認められる。縄文時代の所産と思われる剣片1点が出土した）

III 層：灰白色粘質シルト

IV 層：褐色または灰白～黄灰色を呈する。丘陵裾部で褐色系、水田部で灰白色系になる。土質によ  
り細分した。

IV a 層：褐色シルト

IV b 層：褐色砂質シルト

IV c 層：褐色砂～砂礫



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成11年「塩野町」 1:50,000原図)

IV d 層：褐～暗褐色砂礫土

IV e 層：褐色砂

IV f 層：明白色砂礫土

V 層：暗褐色砂

※今回の調査対象地では土石流堆積物（II b 層）、遺物包含層と推定される II e ・ II f 層で遺物が認められた。

#### （4）遺構

10T で焼土範囲を検出したが、これ以外のトレンチでは遺構の検出がなかった。焼土範囲は径約 30 cm の円形に認められ、周辺部に向かい薄くなることから焼土の廃棄でなく、地面の焼けた痕跡と判断した。

#### （5）遺物

8 T～10T で縄文時代後期前葉を主体とする遺物が出土した。8 T は土石流堆積物の II b 層からは遺物が出土せず、縄文時代後期前葉の遺物包含層の II e ・ II f 層から比較的多くの遺物が出土した。9 T は、II b 層から少量の遺物が出土したが、II e ・ II f 層からは出土していない。10 T は、II b ・ II e ・ II f 層の各層から多くの遺物が出土している。調査区の北東側に位置する 5 T～7 T では、II b ・ II e ・ II f 層に相当する層は確認できたが、遺物は見られなかった。

#### （6）調査の結果と取扱い

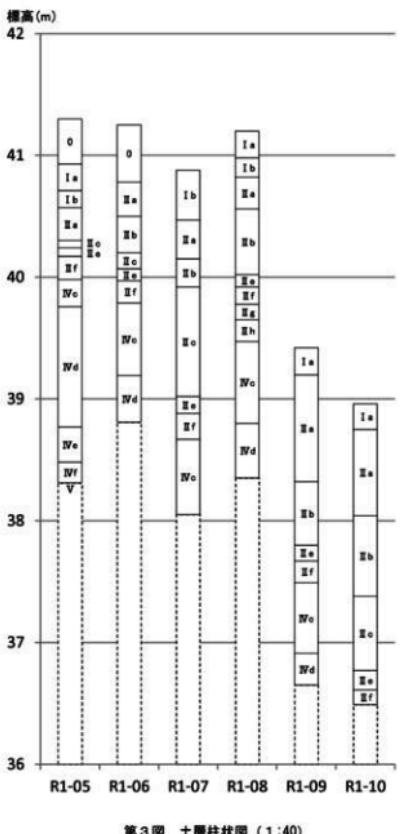
調査の結果、遺物・遺構の出土状況、地形の観察から上野遺跡の北範囲を 5 T～7 T を結んだ手前までとした。センター杭 No.597+10～5 T・6 T・7 T の手前を結んだ線までの範囲 4,918 m<sup>2</sup> を本調査必要範囲として追加する。ただし、II b 層の遺物は土石流で流入した二次堆積の遺物である。遺物の包含密度を考慮し、重機と人力を併用した効率的な調査が望まれる。

調査対象地の西側で、家屋があり調査のできなかった範囲については、判断保留とする。今後の確認調査で遺跡の範囲を明らかにする必要がある。

5 T～7 T の手前を結んだ線の北側は、遺構・遺物を検出できなかったこと、地形観察から、本発掘調査は不要と判断する。



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



## 14 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### かみのさるさわ 「上野遺跡」(村上市猿沢地区) 確認調査

#### (1) 立地

調査対象地は、高根川右岸の丘陵裾部で、岩船山地東側の扇状地の緩斜面に立地する。標高は32.5mほどで、現況は雜木林・荒地である。

#### (2) 調査の概要

4か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地が丘陵裾部の扇状地に立地するため、表土層以下は扇状地堆積物でほぼ占められる。西側に広がる岩船山地から供給された花崗岩類の砂礫が堆積する。ただし、岩船山地から離れるため、砂礫の粒度は細かい。また、現表土から2m前後の深度で河川期限の砂礫土が堆積する。東側を流れる高根川に起因するものと推定される。

#### (3) 層序

各層の具体的な内容は、次のとおりであり、調査対象地の隣接地は平成27・28年度に試掘調査が行われており、層序はこれに準拠した。

I 層：暗褐色～黒褐色土（現表土）

I b層：暗褐色～暗灰色土（旧表土）

II 層：丘陵由来の層をII層として一括したが、土質・色調・遺物の有無などから細分した。

II a層：黄褐色シルト

II b層：灰白色砂礫土（小礫が多い。土石流による二次堆積と考えられる。）

II c層：黄褐色～褐色シルト（II a層に近似するが、小砂礫が混じる。）

II d層：暗褐色～黒褐色シルト（安定した時期に堆積した土層の可能性がある。縄文時代の遺物包含層。）

II e層：暗褐色シルト（縄文時代の遺物包含層でII f層より色調は薄い。）

II f層：黒褐色シルト（縄文時代の遺物包含層の主体。）

III 層：灰白色粘質シルト

IV 層：褐色または灰白～黃灰色を呈する層。丘陵裾部で褐色系、水田部で灰白色系になる。土質により細分した。

IV a層：褐色シルト

IV b層：褐色砂質シルト

IV c層：褐色砂～砂礫層

V 層：明青灰色～青灰色粘質シルト

VI 層：青灰色～灰色粘質シルト

VII 層：灰色砂質シルト

VIII 層：暗灰色・灰色・暗青灰色～暗緑灰色粘質シルト

IX 層：河川堆積由来の砂礫層 色調により細分される。

IX a層：褐色～褐灰色砂礫層

IX b層：灰色砂礫層

V層～VII層は認められなかった。

※今回の調査対象地は土石流堆積物（II b層）に遺物が包含されており、II d～II f層の遺物包含層は認められなかった。

#### (4) 遺構

遺構は、検出されなかった。

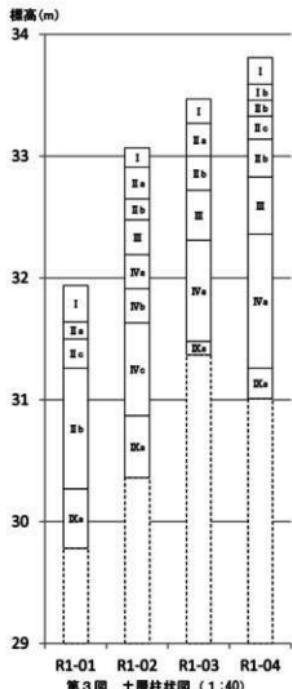
#### (5) 遺物

1 Tから2点、2 Tから3点、3 Tから6点、4 Tから53点出土している。いずれも縄文土器で、II b層からの出土である。II b層は土石流堆積物と推定され、西から北にかけて存在した推定される縄文集落から流入したものである。

#### (6) 調査の結果と取扱い

調査の結果、すべてのトレンチから縄文時代の遺物が出土した。平成29年度の本発掘調査や平成27・28年度の試掘調査の結果から28-140Tの北へ約7m地点からセンター杭No.595+70mの東端を結んだ範囲の1,261 m<sup>2</sup>を本調査範囲として追加する。

なお、今回出土した遺物は土石流で流入した二次堆積の遺物である。遺物の包含密度を考慮し、重機と人力を併用した効率的な調査が望まれる。また平成30年度の本調査で確認された下層（縄文時代前期）は、認められないことから下層の確認調査は不要である。



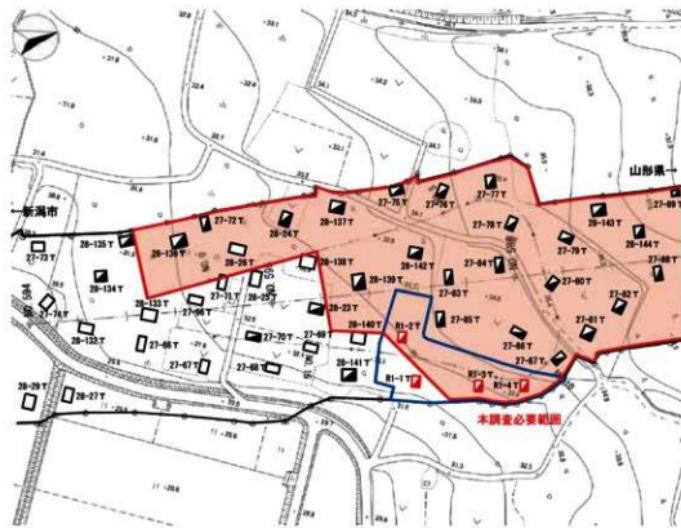
第3図 土層柱状図 (1:40)



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成11年「塩野町」 1:50,000原図)



第4図 調査対象地近景 (南から)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第5図 R 1-1 T トレンチ断面（北から）



第6図 R1-2 Tトレンチ断面（北から）



第7圖 B1-2 T出土遺物（Ⅲb層出土）



第8圖 B1-4 T出土遺物（IIb層出土）

## 15 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地1」(村上市猿沢地区) 試掘調査

#### (1) 立地

調査対象地は岩船山地と高根川の間に位置する。岩船山地東側の扇状地上の緩斜面に立地する。標高は29~30m前後で、現況は荒地である。

#### (2) 調査の概要

6か所のトレンチで試掘調査を行なった。調査対象地は岩船山地東側の扇状地上の緩斜面であり、東側は高根川に形成された沖積地に隣接する。したがって、岩船山地に起因する粒度の細かい土石流堆積物の下には、高根川に起因する河川堆積物で占められる。

#### (3) 層序

(国土地理院発行 平成15年「塩野町」 1:50,000原図)

各層の具体的な内容は、次のとおりであるが、

調査対象地周辺は平成27・28・30・令和元年度に試掘調査が行われており、層序はこれに準拠した。

I a層：暗褐色～黒褐色土（現表土）

I b層：暗褐色～暗灰色土（旧表土）

II 層：丘陵由来の層をII層として一括したが土質・色調・遺物の有無などから細分した。

II a層：褐色砂礫土（小礫が多い。土石流による二次堆積である。）

II b層：黄白色砂礫土（小礫が多い。土石流による二次堆積である。）

II c層：褐色砂

以下、Ⅱ層まで認められなかったため、省略。

IX 層：灰色砂礫層 岩船山地に起因する砂礫層と異なり、礫の角は丸い。高根川による河川堆積層である。

#### (4) 遺構

遺構は、検出されなかった。

#### (5) 遺物

2T~4TのII a層で縄文土器が各1点出土した。時期は縄文時代後期前葉～中葉と推定される。土石流堆積物からの出土である。

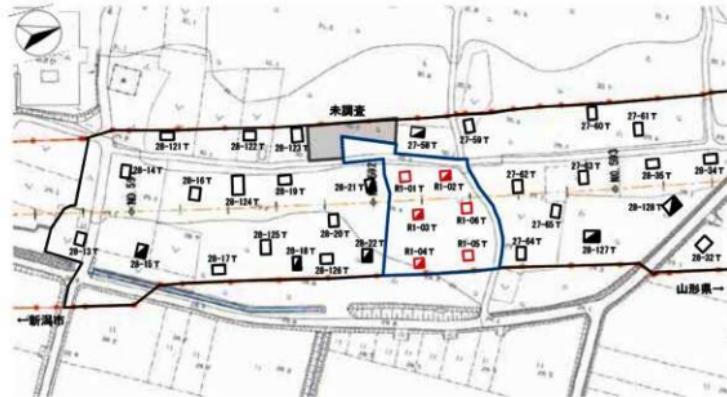
#### (6) 調査の結果と取扱い

調査の結果、土石流堆積物から遺物が少數出土したが極めて希薄であり、遺構は検出されなかった。したがって、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

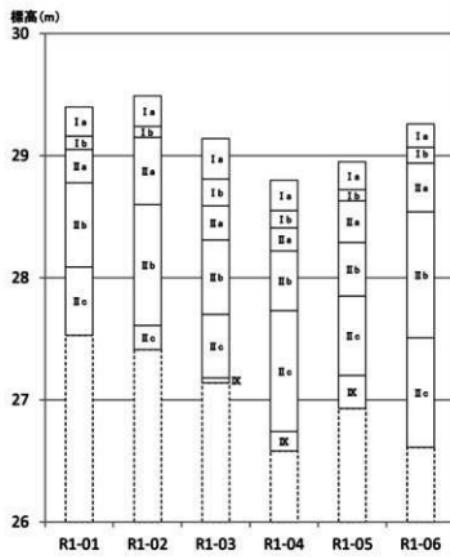


第1図 位置図 (1:50,000)

(国土地理院発行 平成15年「塩野町」 1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 R1-3 T トレンチ断面 (北から)



第5図 R1-2~4 T 出土遺物

## 16 一般国道7号新発田拡幅事業関係

### 新発田市小舟町～城北町地区試掘調査

#### (1) 立地

越後平野の北東部、加治川下流の沖積地に位置する。かつては低湿地や水田が広がっていたが、国道7号線沿いの商業地となり、現在は新発田市街地の北縁となっている。1.5m前後の盛土が見られるが、旧地表面の標高は5.7～6.7mほどである。

#### (2) 調査の概要

10か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。加治川下流の沖積地に位置し、かつては低湿地や水田が広がっていたことから、湿地性の堆積物が確認された。

#### (3) 層序

- I 層：砂・瓦礫・コンクリート片など（盛土）
  - I 層：暗褐色～暗灰色～黒色シルト（耕作土・  
旧耕作土）
  - II a 層：灰色～暗灰色シルト
  - II b 層：灰色砂
  - III a 層：暗青灰色シルト～粘土
  - III b 層：灰色砂 未分解植物を含む。
  - IV 層：暗褐色～灰色シルト～砂 未分解植物  
を多く含む。一部に湧水が見られる。
- II層以下は洪積層で水平堆積である。低湿地  
で緩やかに堆積したものと判断される。

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかつたことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。また、今回調査できなかつた未買収地は、隣接地の調査結果と地形観察から、試掘調査不要と判断する。



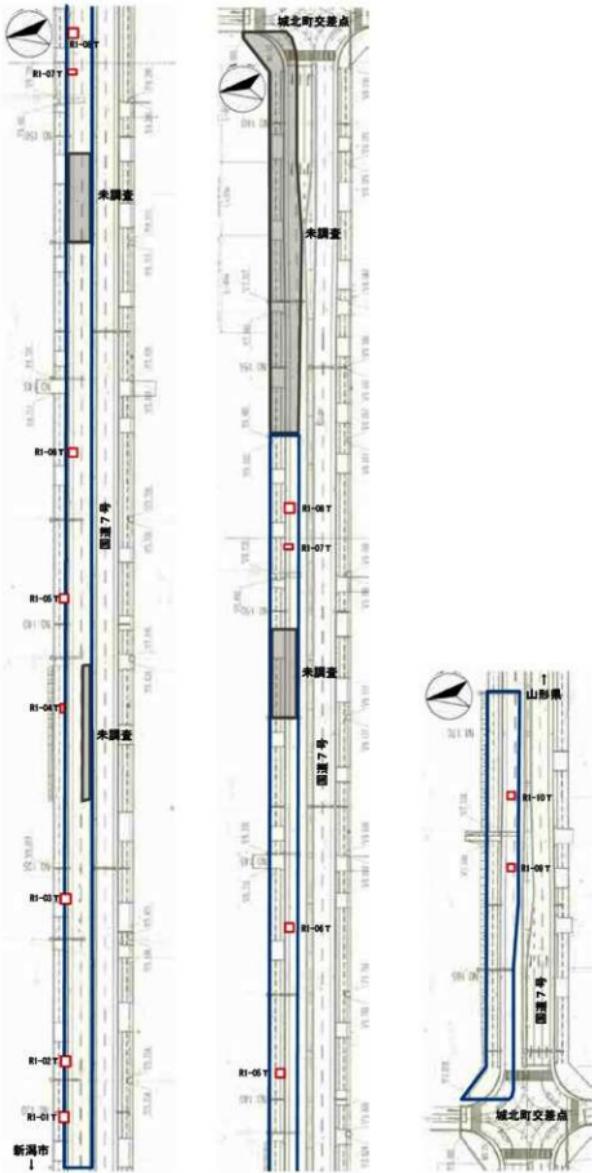
第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成15年「新発田」 1:50,000原図)



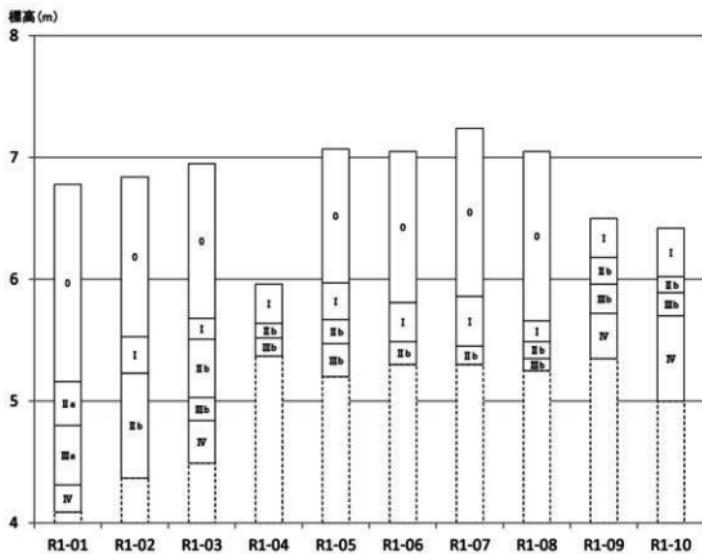
第4図 調査対象地近景 (R 1-1～10T付近 東から)



第5図 R 1-1 T トレンチ断面 (北から)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



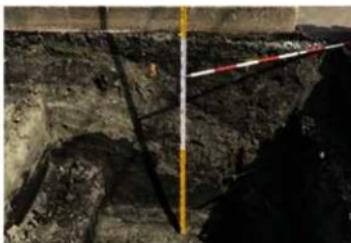
第3圖 土層柱狀圖 (1:40)



第6図 R1-3 Tトレンチ断面（西から）



第7図 R1-5 T トレンチ断面（東から）



第8図 R1-6 Tトレーニング断面（西から）



第9図 R 1-9 T トレンチ断面（東から）

## 17 一般国道7号栗ノ木道路事業関係

### 新潟市中央区長嶺地区～JR地区試掘調査

#### (1) 立地

新潟砂丘新砂丘第2列4または栗ノ木川沿いの低地と思われる。標高は3m前後である。現況は更地であるが、以前は宅地や商業地であった。

#### (2) 調査の概要

3か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。I層～III層上部では18世紀後半以降の陶磁器が出土したが、III層下部では遺物が出土しなかった。また、新砂丘の痕跡は見られなかったことから低湿地であったものと考えられた。

#### (3) 層序

- 0層：明黄褐色砂（盛土）
- 0b層：暗褐色砂・黃橙色燒土の互層 火災由來の盛土。
- I層：褐色砂
- IIa層：黃褐色～褐色砂・未分解腐植物の互層
- IIb層：オリーブ灰色砂 底緑は旧栗ノ木川への傾斜を示す。
- IIc層：未分解植物層 いわゆるガツボ層。
- III層：暗灰色砂～砂質シルト 上部から18世紀後半以降の陶磁器がやや多く出土した。（国土地理院発行 平成17年「新潟」 1:50,000原図）



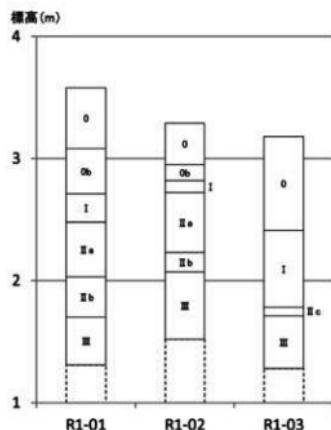
第1図 位置図 (1:50,000)

#### (4) 遺構・遺物

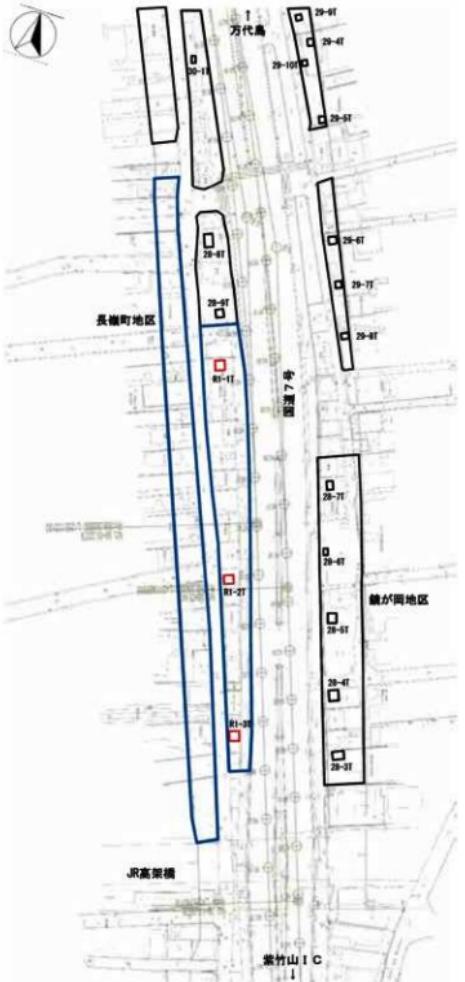
遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。今回の調査で明石通からJR高架橋（センター杭N103～N80）までの試掘調査は終了となる。



第3図 土層柱状図 (1:40)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第4図 調査区対象地近景 (R 1-3 T付近 北から)



第5図 R 1-1 T トレンチ断面 (南から)



第6図 R 1-2 T トレンチ断面 (南から)



第7図 R 1-3 T トレンチ断面 (南から)

## 18 一般国道7号紫竹山道路事業関係

### 新潟市中央区紫竹山地区～東区紫竹地区試掘調査

#### (1) 立地

新潟砂丘新砂丘第2列3の内陸側に位置し、標高は1m前後である。現況は更地であるが、以前は道路内敷地、宅地や商用地であった。

#### (2) 調査の概要

4か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。盛土直下に砂丘砂（V層）が検出されており、調査対象地は過去に削平されたと判断した。

#### (3) 層序

O層：灰黄褐色砂（盛土）

V層：褐色灰色砂（砂丘砂）

#### (4) 遺構・遺物

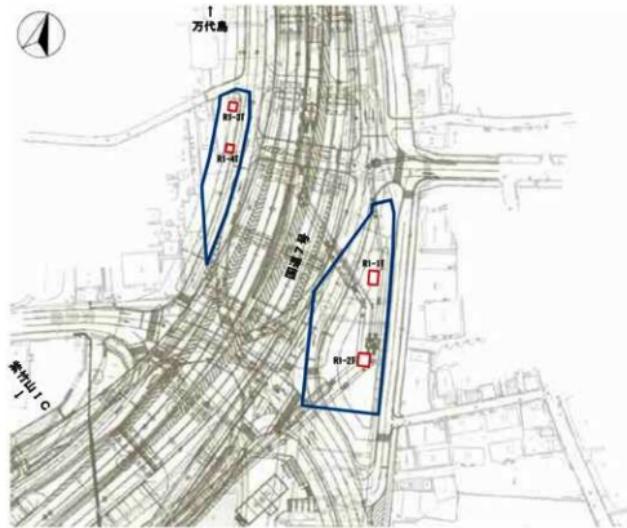
遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

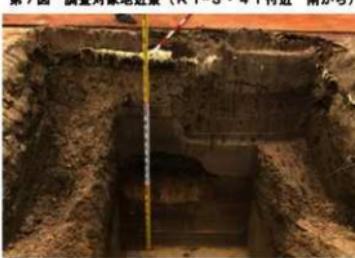
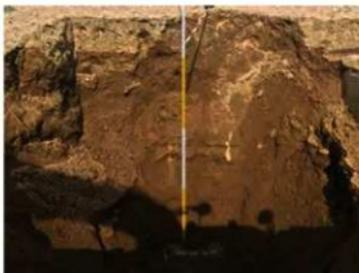
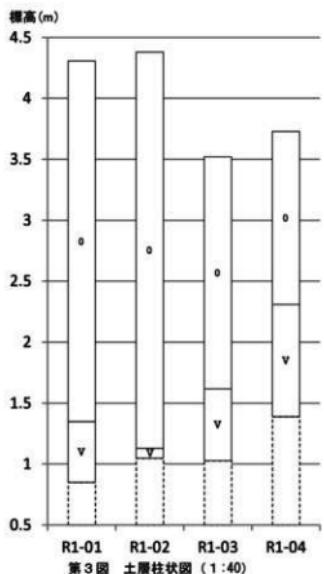
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成17年「新潟」 1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



## 19 一般国道8号福島新田交差点事故対策事業関係

### 三条市一ツ屋敷新田地区試掘調査 ひとつやしきしんでん

#### (1) 立地

越後平野の中央部東寄り、信濃川とその支流刈谷田川の合流点から約3km南東の沖積地に位置する。この付近は魚沼丘陵の北西縁から流れ出る道田川、貝塚川などの小河川が多く流れるところもある。現況は水田・商用地で、標高8.5mである。

#### (2) 調査の概要

1か所のトレーナーを設定して試掘調査を行った。かつては、周辺の小河川や信濃川、刈谷田川の湛水地や氾濫原であったと推定され、湿地性の堆積物が認められた。

#### (3) 層序

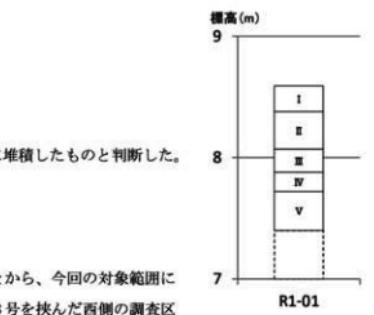
- I 層：褐色シルト（水田耕作土）
  - II 層：褐灰色シルト～粘土（整地土）
  - III 層：青灰色粘土
  - IV 層：青灰色シルト質砂
  - V 層：暗褐色粘土
- III層以下は水平堆積であり、低湿地で緩やかに堆積したものと判断した。

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお、国道8号を挟んだ西側の調査区は、1Tの土層堆積状況や地形観察から今回の調査区と同様な土層堆積と考えられ、試掘調査は不要と判断した。



## 20 一般国道 17 号和南津改良事業関係

### 長岡市和南津地区試掘調査

#### (1) 立地

魚野川左岸の段丘及び段丘崖に立地する。現況は水田・荒地・山林で、標高は 83~120m である。

#### (2) 調査の概要

5か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。  
基盤層となる段丘堆積物の上に黒色系の堆積物(IV 層)を確認したが、遺構・遺物は検出されなかつた。

#### (3) 層序

- I 層: オリーブ灰~暗灰色シルト(盛土)
- I 層: 暗褐色~暗褐色シルト(表土・耕作土)
- I b 層: 明オリーブ灰シルト~砂(水田床土)
- I c 層: 黒褐色砂質シルト(整地土)
- II 層: 灰褐色~黒褐色シルト~砂(旧表土)
- III 層: 緑灰色~褐色シルト質砂~砂
- IV 層: 暗灰色~暗褐色シルト質砂~砂
- V 層: 黄褐色シルト質砂

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかつた。また、段丘崖の地形観察でも遺構は確認されなかつた。

#### (5) 調査の結果と取扱い

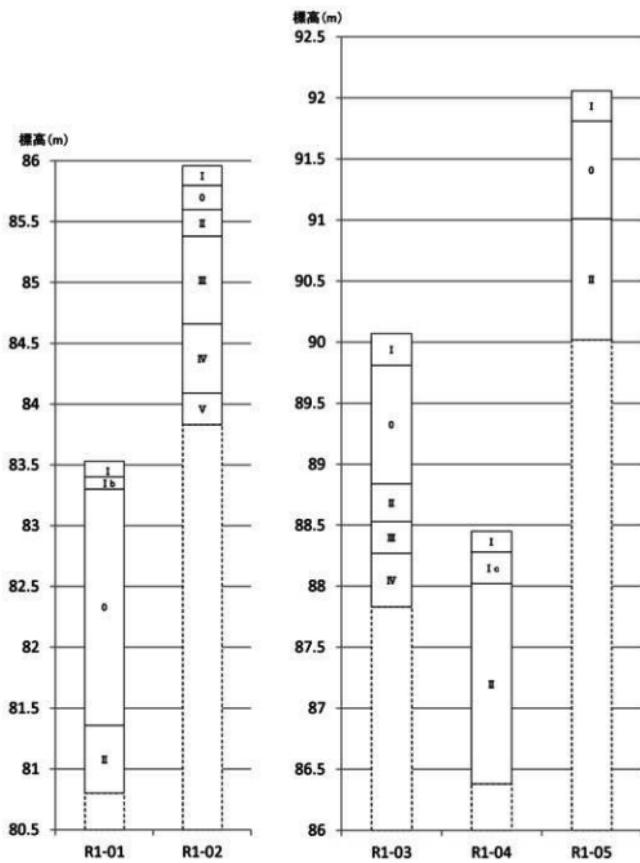
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかつたことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成6年「小千谷」 1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 R1-2 T トレンチ断面（西から）



第5図 R1-4 T トレンチ断面（南から）

## 21 一般国道 17 号浦佐バイパス事業関係

### うらさ 南魚沼市浦佐地区試掘調査

#### (1) 立地

魚野川左岸の沖積地に立地する。現況は水田・荒地で、標高は 116.5~118.5m である。

#### (2) 調査の概要

4か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。  
表土の下から検出された砂礫層は、魚野川の氾濫原と推定できる。

#### (3) 層序

- 0 層：褐色砂礫土（盛土）
- I 層：褐色シルト（表土・耕作土）
- I b 層：褐灰色シルト（旧表土）
- II 層：褐灰色シルト
- III 層：褐色砂礫 湧水が著しい。

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

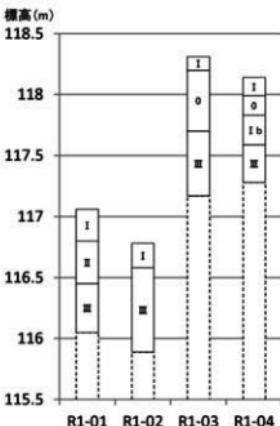
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。



第2図 トレンチ位置図 (1:2000)



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成10年「十日町」 1:50,000 地図)



第3図 土層柱状図 (1:40)

## よかわ 南魚沼市余川地区試掘調査

### (1) 立地

魚沼丘陵に源を発する庄之又川によって形成された扇状地の扇尖部の縁辺に立地する。現況は水田で、標高は約 194m である。西側に金屋遺跡・蟻子山古墳群、南側に飯綱山古墳群・余川中道遺跡など、古墳時代から古代の遺跡が多く存在する。

### (2) 調査の概要

4か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。扇状地の扇尖部の縁辺部に立地することから複雑な堆積が確認され、庄ノ又川の氾濫に起因すると思われる土石流堆積物が至るところで認められた。

### (3) 層序

I 層：灰オリーブ色シルト（水田耕作土）

II 層：灰色シルト質砂

III 層：オリーブ黒色シルト質砂 砂礫やや多く混入する。

IV 層：暗灰色～褐色砂礫土

V 層：褐色砂～砂礫土

VI a 層：暗褐色シルト 古代の遺物包含層である。

VI b 層：にぶい褐色シルト 古代の遺物包含層である。

VII 層：にぶい黄褐色～褐色シルト 一部に未分解腐植物が含まれる。

VIII 層：にぶい黄褐色～褐色砂礫土

III～V・VII・VIII層は土石流堆積物である。VI a・VI b 層は安定した時期の堆積物である。

### (4) 遺構・遺物

遺構は、3 T で溝 1 条(S D 1)を検出した。VII 層上面で確認し、東から西方向に延びる。検出値は、長さ 1.5m・幅 30cm・深さ 10cm を測る。覆土は純い褐色シルト(VI b 層近似)で、炭化粒が少量混入する。遺物は出土していない。このほか遺構ではないが、3 T 挖削中に北西壁面で検出した河道の痕跡は、隣接する金屋遺跡でも確認されている。

遺物は、2～4 T で土師器を主体にやや多く出土した。土師器は杯・椀類が主体である。黒色処理された土師器も各トレンチで少量出土している。2 T の VI b 層から土師器杯の底部に「女」と刻書された土器が出土している。遺物の時期は、昭和 57 年に本発掘調査した隣接の金屋遺跡と同様に、平安時代(9世紀後半以降)と推定される。

### (5) 調査の結果と取扱い

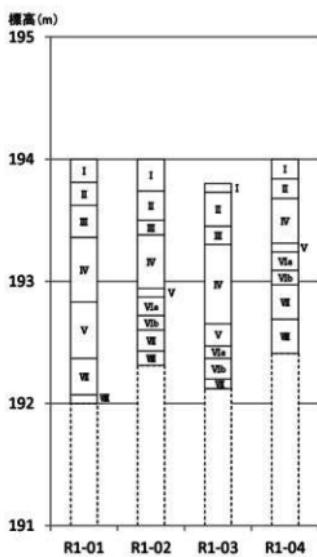
調査の結果、遺構・遺物の検出状況から隣接する金屋遺跡の範囲拡大と推定できる。今回試掘調査の可能であった範囲(1,600 m<sup>2</sup>)については本発掘調査が必要である。なお、今回調査できなかった宅地部分(1,400 m<sup>2</sup>)については、今後、試掘調査が必要である。



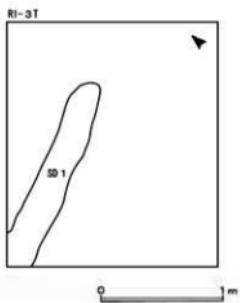
第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成10年「十日町」 1:50,000 原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 造構平面図 (1:40)



第5図 調査区対象地近景 (R 1-1 ~ 4 T付近 西から)



第6図 R1-1T トレンチ断面（北西から）



第7図 R1-2T トレンチ断面（北西から）



第8図 R1-3T トレンチ断面（北西から）



第9図 R1-3T 造構出土状況（北東から）



第10図 R1-4T トレンチ断面（南東から）



第11図 R1-2T 出土遺物（V1a層出土）



第12図 R1-2T 出土遺物（Vib層出土）



第13図 R1-4T 出土遺物（V1a層出土）

## 23 一般国道 17 号六日町バイパス事業関係

### たけまた 南魚沼市竹俣地区試掘調査

#### (1) 立地

魚野川左岸の鎌倉沢川が形成した扇状地に立地する。現況は商用地・宅地跡地、水田・荒地で、標高は171m前後である。

#### (2) 調査の概要

9か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。鎌倉沢川の堆積物と考えられるシルト～砂礫層が確認された。

#### (3) 層序

- 0 層：褐色砂礫土（盛土）
- I 層：暗灰色～暗褐色シルト～砂（表土・耕作土）
- I b 層：褐灰色シルト（旧表土）
- II 層：オリーブ灰色シルト～砂礫
- III 層：オリーブ灰色～暗オリーブ灰色～暗褐色泥炭質シルト
- IV 層：暗オリーブ灰色砂礫 湧水が著しい。

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成10年「十日町」 1:50,000原図)



第4図 調査対象地近景 (R 1-1～4 T付近 北東から)



第5図 R 1-1 T トレンチ断面 (東から)

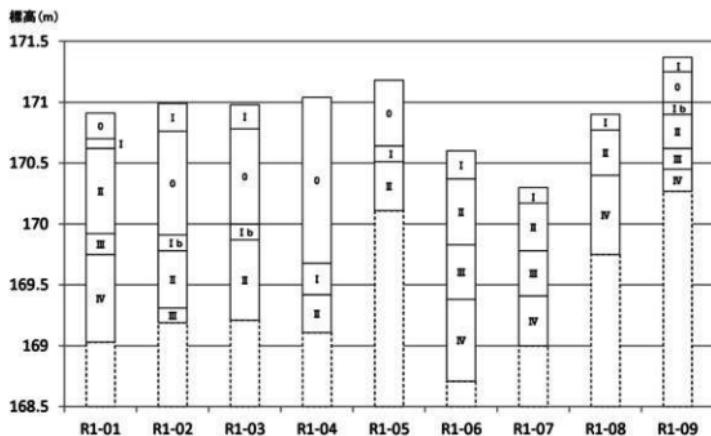


第6図 R 1-2 T トレンチ断面 (東から)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)





第3図 土層柱状図(1:40)



第11図 R1-6 T トレンチ断面(南から)



第12図 R1-7 T トレンチ断面(南から)



第13図 R1-8 T トレンチ断面(西から)



第14図 R1-9 T トレンチ断面(西から)

## 24 一般国道 253 号上越三和道路事業関係

### たて こまばやし 「館遺跡」(上越市駒林地区)確認調査

#### (1) 立地

高田平野の東部、飯田川右岸の沖積地に立地する。かつては畑地及び林であったが、現況は道路用地となっており、標高は 15~16m ほどである。調査対象区の北東側には周知の弥五郎遺跡が隣接する。

#### (2) 調査の概要

1か所のトレンチを細長く設定して試掘調査を行った。畑地の耕作等により削平されており、旧表土の直下で地山を検出した。

#### (3) 層序

- I 層：褐色シルト（表土）
- II 層：暗褐色シルト（旧表土）
- III 層：黄褐色シルト（遺構確認面）自然堆積層。

#### (4) 遺構・遺物

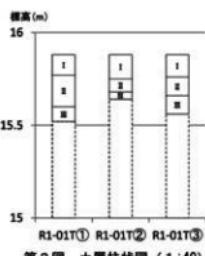
遺構は、土坑（SK）1基、溝（SD）7条、ピット（P）18基を検出した。ピットのうち4基は矩形になり、掘立柱建物（SB）の可能性がある。北西—南東に延びる溝は暗褐色シルトで II 層に近似する。畑の耕作溝と考えられる。

遺物は、土師器 17 点、須恵器 1 点が出土したが、いずれも細片である。すべて II 層（旧表土）からの出土で、トレンチ内では館遺跡側でやや多く出土する傾向である。出土遺物の時期は、隣接する館遺跡の本発掘調査の所見から平安時代に帰属するものと考えられる。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺物包含層は認められなかったが、遺構・遺物を検出した。南側に隣接する館遺跡の範囲拡大である。したがって、今回の確認調査対象範囲 2,077 m<sup>2</sup> の本発掘調査が必要と判断する。

なお、今回調査ができなかつたが、北東側に隣接する弥五郎遺跡の古墳時代前期の遺構・遺物が下層に存在することが予想される。上層の本発掘調査が終了した時点で下層の確認調査が必要である。



第3図 土層柱状図 (1:40)



第1図 位置図 (1:50,000)

(国土地理院発行 平成11年「高田東部」 1:50,000 原図)

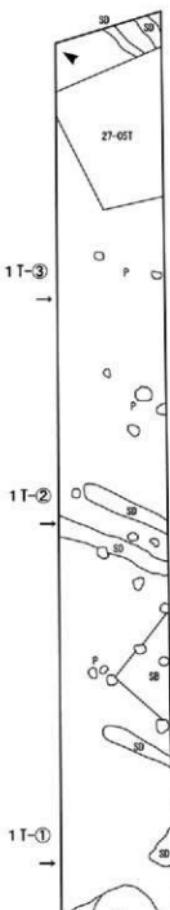
第5図



第5図 R1-1 T 全景 (東から)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第4図 造構平面図 (1:150)



第6図 R1-1 T①トレンチ断面（南から）



第7図 R1-1 T②トレンチ断面（南から）



第8図 R1-1 T③トレンチ断面（南から）



第9図 R1-1 T 造構（SK）検出状況（南から）



第10図 R1-1 T 造構（SD）検出状況（南から）



第11図 R1-1 T 造構（SB）検出状況（南から）



第12図 R1-1 T 造構（SD・P）検出状況（南から）



第13図 R1-1 T 出土遺物（II層出土）

### 第Ⅲ章 令和2年度調査

#### 1 一般国道7号朝日温海道路事業関係

#### 「法妙遺跡」(村上市中浜地区)確認調査

##### (1) 立地

日本海から約400m内陸、法妙川左岸の河岸段丘上と右岸の山地端部に立地する。標高は約17~29mで、現況は荒蕪地である。

##### (2) 調査の概要

14か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。分布調査で石器が採集されていたため、採集地点付近及び遺物の包含が想定されたⅦ層の分布範囲を重点的に調査した。

##### (3) 層序

I a層：表土

I b層：造成土

I c層：旧表土

II 層：明黄褐色シルト

III 層：褐灰色縞混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む。)

IV 層：明黄褐色縞混じりシルト

V 層：明黄褐色シルト

VI 層：明黄褐色礫

VII 層：にぶい黄橙色シルト岩（基盤層）

##### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。分布調査で採集した石器は、法線外の隣接地から採集された可能性がある。

##### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000 原図)



第4図 調査対象地近景（南東から）



第5図 調査対象地近景 14T付近（南から）



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第6図 3T トレンチ断面（北東から）



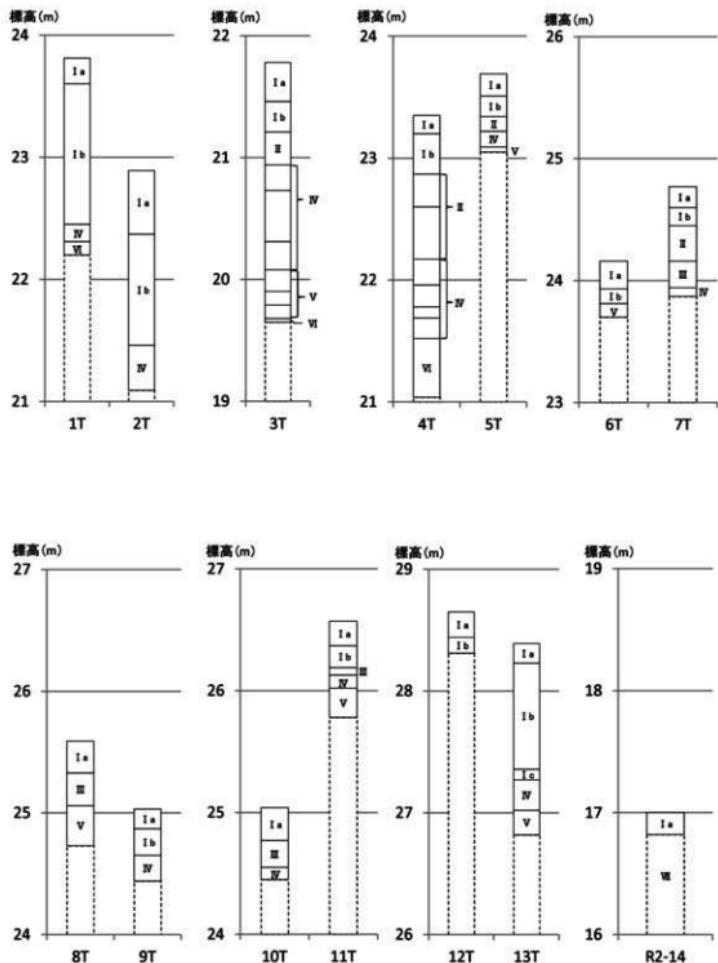
第7図 7T トレンチ断面（南西から）



第8図 10T トレンチ全景（北東から）



第9図 10T トレンチ断面（東から）



第3図 土層柱状図 (1:40)

## 2 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地25」(村上市中浜地区)試掘調査

#### (1) 立地

宮ノ沢右岸の山地に立地する。標高は約23~27mで、現況は山林である。周辺には北200mに縄文時代の法妙遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

6か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

#### (3) 層序

調査対象地の土層は、宮ノ沢により運搬された河川堆積物・土石流堆積物を中心である。

I a層：表土（腐植土）

I b層：造成土

II 層：灰黄褐色砂質シルト（旧表土）

III 層：にぶい褐色礫混じり砂質シルト

IV 層：にぶい褐色砂礫

V 層：にぶい黄橙色細砂

VI 層：灰白色砂質シルト

VII 層：黄褐色砂礫

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

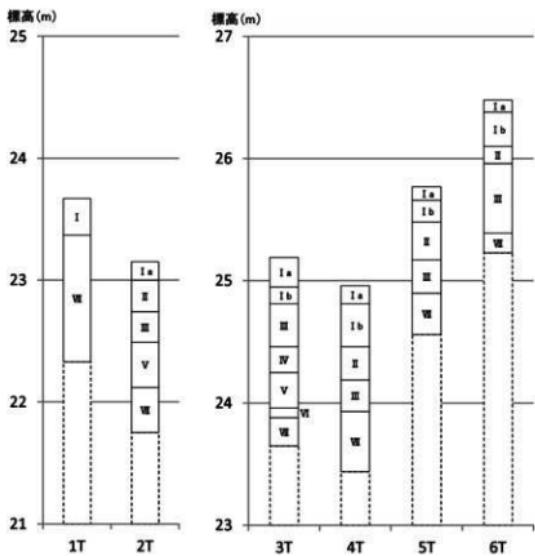
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:25,000)  
（「村上市管内図」 1:50,000原図）



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



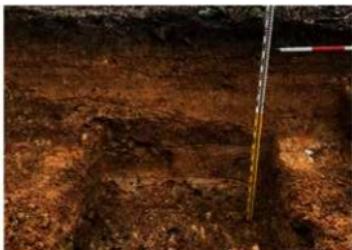
第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 調査対象地近景（北西から）



第5図 2T トレンチ断面（東から）



第6図 3T トレンチ断面（北から）



第7図 5T トレンチ断面（北東から）

### 3 一般国道7号朝日温海道路事業関係

## 「推定地24」(村上市堀ノ内地地区・寺沢地区)確認調査

### (1) 立地

日本海から約1km内陸の大川右岸の段丘上及び河川低地に立地する。標高は約12~14mで、現況は水田及び荒蕪地である。令和元年度の試掘調査において新規登録された竹ノ内遺跡とその隣接地に当たる。

### (2) 調査の概要

11か所のトレンチを設定して、3回にわたりて試掘調査を行った。第1回は段丘上の周知範囲東側、第2回は段丘上の周知範囲北側、第3回は段丘下の周知範囲南側である。このうち、第2回・第3回の調査で竹ノ内遺跡の広がりが確認された。なお、堆積状況は各回で著しく異なるため、層序の対応関係は明らかにできなかった。

### (3) 層序

#### 【第1回・段丘上東側】

令和元年度の調査とほぼ同様の層序である。

I 層：褐色～暗褐色シルト（耕作土）

II 層：褐灰色砂礫土（ほ場整備時の造成土）

II b 層：褐灰色砂質シルト 炭化粒を多く含み

III層に類似するが、近世以降の陶磁器等を含む。

III 層：褐色～暗褐色シルト（遺物包含層及び相当層） 炭化粒をやや多く混入する。

IV 層：褐色～青灰色シルト（遺構検出面） 泥 岩主体の砂礫が多く混入する。

V 層：褐色～暗青灰色砂礫 泥岩主体の砂礫層。寺沢川により形成された沢地形を埋積した土石流堆積物と考えられる。

VI 層：にぶい橙色粘質シルト 山地側から延びる基盤層。

#### 【第2回・段丘上北側】

調査対象地の土層は、基本的に土石流や洪水による堆積物からなるが、炭化物を含む遺物包含層(VI層)が介在した。隣接地で行われている本発掘調査の所見を踏まえて層名を付した。

I a 層：表土 I b 層：造成土 I c 層：旧表土

II a 層：にぶい褐色砂礫 II b 層：にぶい黄褐色砂礫混じりシルト

III a 層：灰色粗砂 III b 層：灰色細砂

IV 層：灰白色シルト

V 層：明黄褐色細砂（炭化物をわずかに含む。）

VI 層：灰黃褐色細砂 中世の遺物包含層（炭化物をわずかに含む。）

VII 層：暗灰黄色粗砂

VIII 層：オリーブ灰色砂礫混じりシルト

IX 層：オリーブ灰色砂礫



第1回 位置図 (1:50,000)

(国土地理院発行 平成2年「温海」 1:50,000原図)

### 【第3回・段丘下南側】

大川流域の河川低地に当たることから洪水堆積物からなり、遺物包含層が介在した。隣接地で行われて いる本発掘調査の所見を踏まえて層序の把握に努めた。

I a 層：表土 I b 層：造成土 I c 層：旧表土

I d 層：灰黄褐色シルト（旧表土 現代の陶磁器含む。）

II 層：黒色シルト 中世の遺物包含層

III 層：褐灰色シルト 古代の遺物包含層

IV 層：灰白色砂質シルト

V 層：灰オリーブ細砂～砂礫

#### （4）遺構・遺物

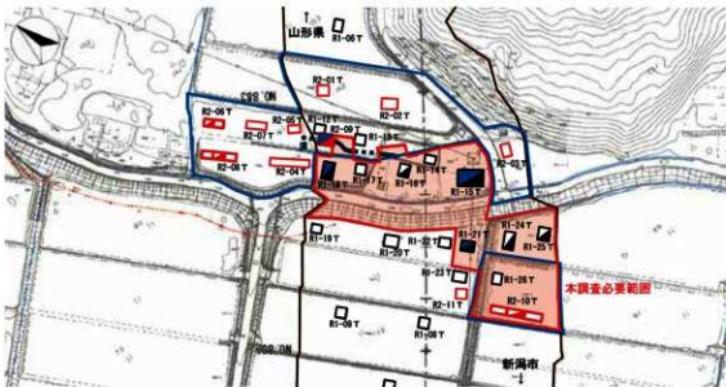
第1回調査（段丘上東側）では、令和元年度の調査と同様の堆積状況を確認したが、遺構・遺物は検出されなかつた。

第2回調査（段丘上北側）では、6 Tで青磁、8 Tで珠洲焼が出土した。青磁は13世紀前半の蓮弁紋梅、珠洲焼は13世紀末～14世紀後半ころの蓋である。いずれも現地表下約1mのVI層上部から出土した。6 Tと8 Tを結んだラインより北西側に遺物包含層が広がると見られる。なお、VI層下位で遺構は検出されなかつた。8 TのIV層上面では、水田の畦畔を検出したが、隣接する竹ノ下遺跡の本発掘調査の所見から、近世以降に築かれたものと判断した。9 Tでは、本発掘調査対象範囲から延びる中世の溝の広がりを確認するために追加調査し、南東から北西に向かう溝を確認した。

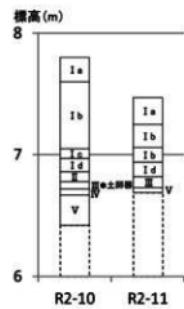
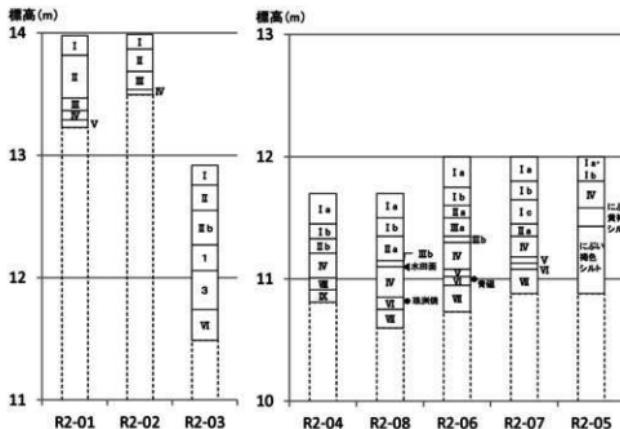
第3回調査（段丘下南側）では、10TのⅢ層から古代の土師器4点が出土したが、遺構は検出されなかつた。古代の遺物包含層の広がりを把握したものの遺構は検出されず、遺跡の縁辺部に相当すると判断した。中世の遺構・遺物は検出されなかつた。また、西側への遺跡の広がりを把握するために11Tを設定したが、遺構・遺物は検出されなかつた。

#### （5）調査の結果と取扱い

調査の結果、段丘上北側で中世の溝及び遺物包含層、段丘下南側で古代の遺物包含層の広がりを確認した。竹ノ下遺跡を拡張し、保護に関する協議を行うこととする。



第2図 トレーニング位置図 (1:2000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 調査対象地近景（西から）



第5図 R2-2 T トレンチ断面（東から）



第6図 R2-1 T トレンチ断面（東から）



第7図 R2-4 Tトレンチ全景(西から)



第8図 R2-6 Tトレンチ断面(南東から)



第9図 R2-6 T青磁出土状況VI層上部(南東から)



第10図 R2-8 Tトレンチ断面(南東から)



第11図 R2-8 T近世以降の鞋跡の鞋跡の断面(北東から)



第12図 R2-9 Tトレンチ断面(南東から)



第13図 R2-10 Tトレンチ断面(西から)



第14図 R2-6・8 T出土遺物(VI層上部出土)

#### 4 一般国道8号朝日温海道路事業関係

## 「大川城跡」(村上市府屋地区)確認調査

### (1) 立地

大川左岸の丘陵先端部の斜面地に当たり、現況は荒蕪地及び山林である。調査対象地は、イトマ沢とよばれる谷地とそこに面した東斜面である。標高は、谷地で8~14m、斜面部で23~24mほどである。

### (2) 調査の概要

谷地で5か所、斜面部で2か所のトレーナーを設定して調査した。当初、斜面部は調査対象となっていたが、谷地の調査時に遺構の可能性があるテラスを確認したことから、土地改変の内容や時期を特定するために追加調査した。

### (3) 層序

#### 【谷地部】

- I a層：表土
- I b層：造成土
- I c層：旧表土
- II 層：灰色砂質シルト
- III 層：オリーブ灰色砂礫
- IV 層：黄灰シルト
- V 層：灰色粗砂
- VI 層：オリーブ褐色泥炭質シルト
- VII 層：オリーブ灰色砂礫

#### 【斜面部】

- 1 層：腐植土 現表土
- 2 層：極暗褐色土 腐植土 溝の埋土
- 3 層：にぶい赤褐色疊混じりシルト 切岸の排土による造成土
- 4 層：褐色疊混じりシルト 切岸の排土による造成土
- 5 層：明褐色シルト岩 基盤層

### (4) 遺構・遺物

谷地では、遺構・遺物は検出されなかった。

斜面部では、山側を切土し、その排土を谷側に盛土することで、テラスが形成されていることが明らかになったが、年代を特定できる遺物は出土しなかった。山城では、遺物がほとんど出土しないことが一般的であり、この結果は特異な状況とはいえない。

テラスの山側には溝が掘られていたが、地域住民の話では、イトマ沢に設けられた溜池から、大川館跡(現在の古館城址公園)に存在した水田に用水を引く施設であったとされる。現在も赤道となっていることを踏まえれば、水路として使用されていたと判断できる。調査対象地の木竹の伐採後に現地踏査したところ、テラスは緩やかに勾配しており、水路として機能したことを確認することができた。

現地調査とあわせて、館跡に築かれた水田が、いつまで遡れるか検討した。慶長2(1597)年に作成された「瀬波郡絵図」では、大川城跡は「古城」となっていることから廃城したものと考えられるが、この



第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000原図)

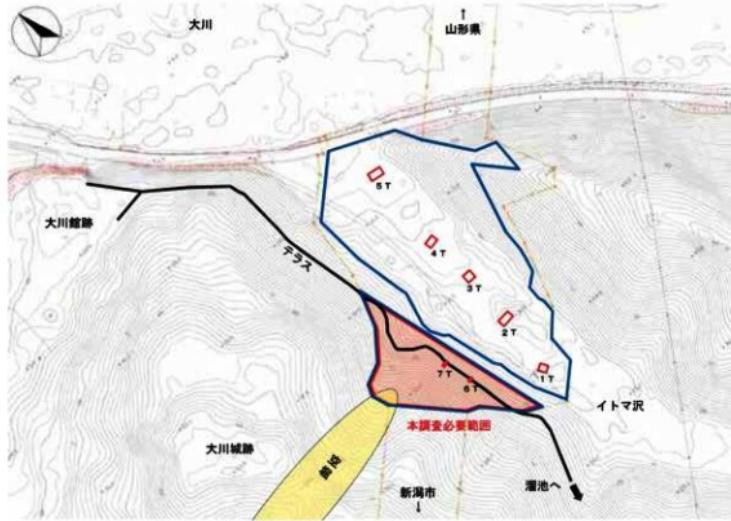
段階では「藤懸り館」(大川館跡)が描かれている。すなわち、慶長2年の段階では水田となっていない。また、江戸時代の検地帳などを調査したが、この水田に関する記述は見られず、水路がいつまで遡るか明らかにできなかった。

評価の難しい遺構であったことから、有識者から現地において指導いただいた。大川城跡に詳しい横山勝栄氏は、水路は中世の山城または戊辰戦争時の施設（城道または胸壁）を改変して作られたものと評価し、テラスの造成が中世に遡る可能性を指摘した。坂井秀弥氏は、頂部付近に存在する空堀の一部が、調査対象地に広がる可能性を指摘した。これらの所見を踏まえ、両名からは、本発掘調査を実施して、遺構の性格と年代を明らかにすることが必要であると指導いただいた。

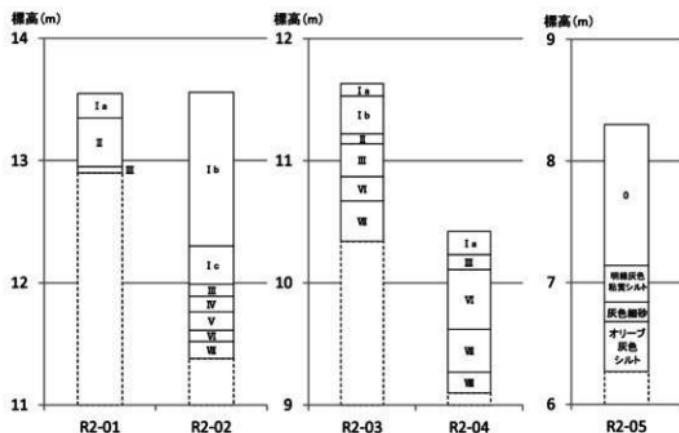
以上のように、遺構の年代・性格を確定できなかったが、事業用地内に大川城跡に関連する施設が存在する可能性が考えられた。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、斜面部については中世に遡る可能性のある遺構を検出したことから、トンネル坑口の1,500mについて本発掘調査が必要と判断した。谷地については、遺構・遺物が検出されなかつたことから、今回対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



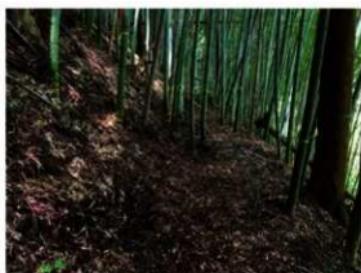
第3図 土層柱状図 (1:40)



第5図 調査対象地近景（北から）



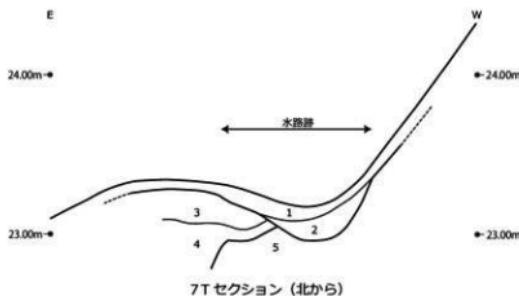
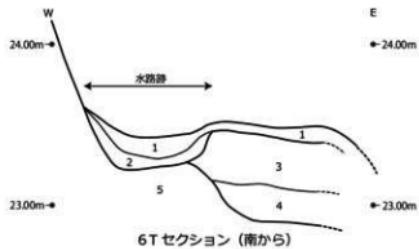
第6図 4Tトレーニチ全景（南から）



第7図 6T付近調査前近景（南から）



第8図 6Tトレーニチ断面（南から）



- 【7T-8T 土層注記】
- 1層 黄褐色土 表土
  - 2層 暗褐色褐色土 黄褐色土、清理土
  - 3層 にぶい赤褐色土(リシリット) } 黄褐色土(切削の根土による造成)
  - 4層 暗褐色土(リシリット)
  - 5層 暗褐色シルト岩 基盤層

第4図 検出遺構断面図 (1 : 30)



第9図 7T付近調査前近景 (北から)



第10図 7T トレンチ断面 (北から)

## 5 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地23」(村上市府屋地区)試掘調査

#### (1) 立地

日本海から約750m内陸の谷底平野に立地する。標高は約16~25mで、現況は荒蕪地である。周辺には北西500mに縄文時代の府屋遺跡、西500mには弥生時代の間ノ内遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

8か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。  
調査対象地は狭い谷地に当たり、湿地性の堆積物と洪水性の堆積物の互層が確認された。

#### (3) 層序

- I a層：表土
- I b層：造成土
- I c層：旧表土
- II 層：灰色疊混じりシルト
- III 層：緑灰色疊混じり粗砂
- IV 層：灰白色粘質シルト
- V 層：黒褐色泥炭
- VI 層：灰色疊混じり粗砂



第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000原図)

#### (4) 遺構・遺物

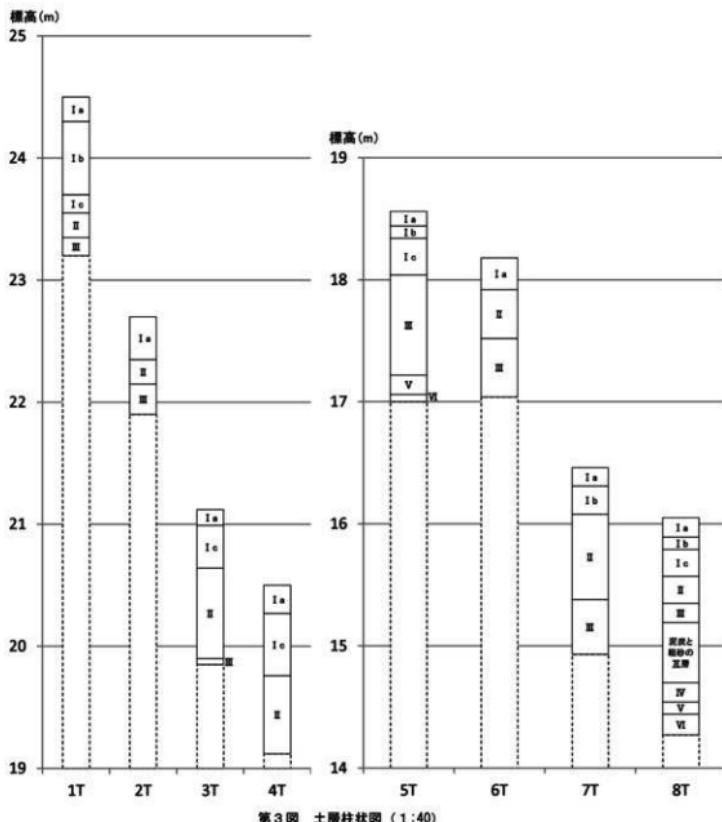
遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第4図 5T トレンチ断面（西から）



第5図 8T トレンチ断面（東から）

## 6 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地21」(村上市碁石地区)試掘調査

#### (1) 立地

碁石川右岸の山地に位置する。標高は約68~89mで、現況は山林である。周辺には南西750mに中世の碁石石仏が存在する。

#### (2) 調査の概要

4か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

#### (3) 層序

調査対象地は山地の頂部の平坦面に当たり、土層の堆積は薄い。

I 層：暗褐色土(表土)

II 層：にぶい黄褐色シルト(漸移層)

III 層：にぶい黄褐色礫混じりシルト

IV 層：明黄褐色礫混じりシルト

#### (4) 遺構・遺物

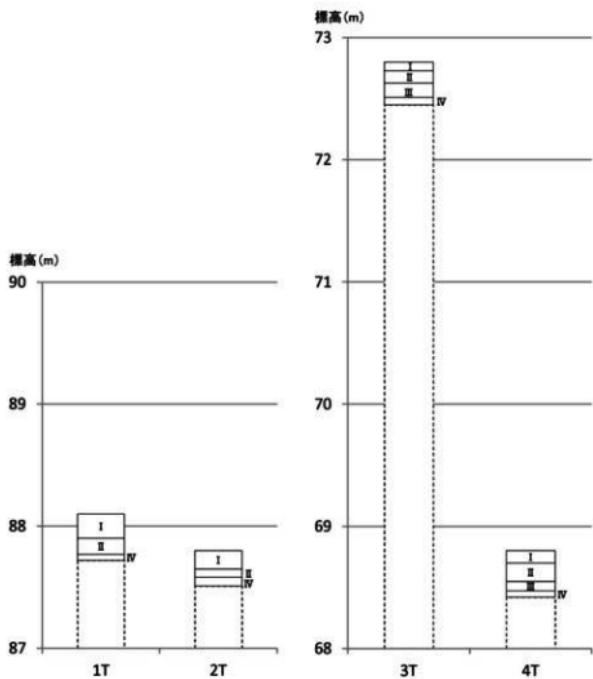
遺構・遺物は、検出されなかった。



#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。





第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 1T トレンチ断面（北から）



第5図 4T トレンチ断面（北西から）

## 7 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地19」(村上市勝木地区)試掘調査

#### (1) 立地

日本海から約750m内陸の勝木川右岸の谷底平野に立地する。標高は約8mで、現況は荒蕪地である。周辺には東1.2kmに中世の大伝寺跡、西600mには中世の墓石石仏が存在する。

#### (2) 調査の概要

1か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。  
造成による土地改变が著しく、厚く盛土されていた。

#### (3) 層序

- I 層：造成土
- II 層：暗褐色シルト（旧表土）
- III 層：オリーブ灰色細砂

#### (4) 遺構・遺物

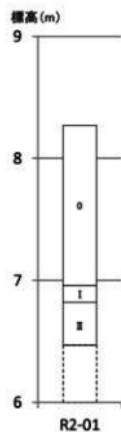
遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000原図)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第4図 1Tトレンチ断面 (南東から)

## 8 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地15」(村上市中津原地区) 試掘調査

#### (1) 立地

大毎川左岸の段丘上に立地する。標高は約86~88mで、現況は山林である。周辺には南東500mに縄文時代の藪平遺跡、北西500mに縄文時代の中津原遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

10か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

#### (3) 層序

各トレンチとも、同様の堆積状況が確認された。  
土壤化したV層の上下には風化花崗岩(真砂土)の再堆積物が確認され、数回、土石流に覆われたことがわかる。

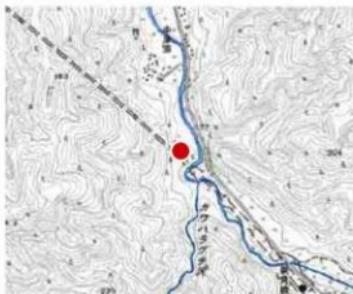
- I 層：表土(腐植土)
- II 層：暗褐色シルト(腐植土)
- III 層：にぶい黄褐色疊混じり粗砂(真砂土)
- IV 層：暗赤褐色粗砂(真砂土)
- V 層：黒褐色シルト
- VI 層：黄褐色砂疊(真砂土)
- VII 層：黄褐色シルト
- VIII 層：明黄褐色砂疊(段丘疊層)

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



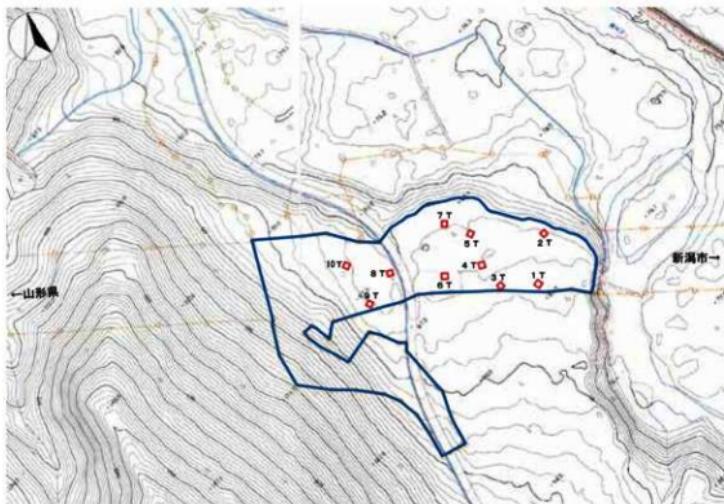
第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000 原図)



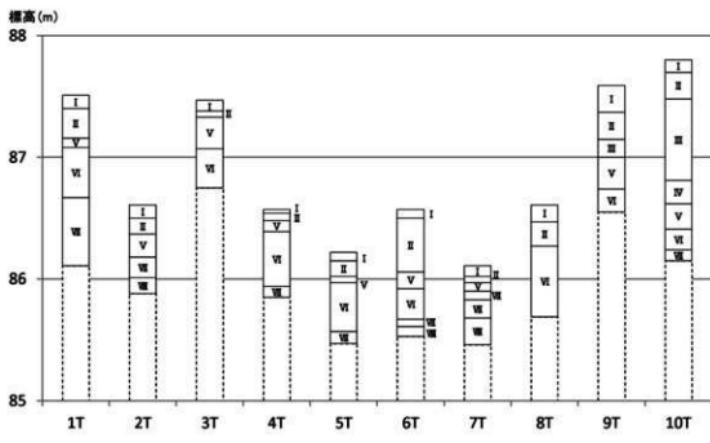
第4図 1Tトレンチ全量 (北東から)



第5図 10Tトレンチ断面 (南東から)



第2図 トレンチ位置図 (1:2000)



第3図 土層柱状図 (1:40)

## 9 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地13」(村上市北黒川地区) 試掘調査

#### (1) 立地

勝木川右岸の段丘上と河川低地に立地する。標高は約80~92mで、現況は荒蕪地である。周辺には北西1.5kmに縄文時代の中津原遺跡、東800mに縄文時代の蘇平遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

9か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は、段丘上と南側と北側に広がる河川低地である。段丘上と河川低地では12mほどの比高差があり、堆積環境が異なる。段丘上では土壤化したシルト、低地では河川堆積物が認められた。

#### (3) 層序

##### 【段丘上】 1~7T

- I a層：表土
- I b層：造成土
- I c層：旧表土
- II 層：暗褐色シルト（土壤化）
- III a層：黒褐色シルト（土壤化）
- III b層：黒色シルト（土壤化）
- III c層：黒褐色シルト（土壤化）
- IV 層：暗褐色砂質シルト
- V 層：明黄褐色シルト（段丘堆積物）
- VI 層：にぶい黄褐色砂礫（段丘堆積物）
- VII 層：黄褐色砂礫（段丘堆積物）

##### 【河川低地】 8・9T

- I 層：表土
- II 層：灰黄褐色細砂
- III 層：浅黄色粗砂
- IV 層：灰黄色褐色細砂
- V 層：浅黄色砂礫

※河川低地のII~V層は、河川堆積物である。調査対象地と現河床との比高差は1.5mであることから、離水年代が大きく遡らないと考えられ、遺跡が存在する可能性は極めて低い。南側の河川低地については、進入路を確保できず調査できなかったが、北側の河川低地と一連の地形にあることから、同様に判断できる。

#### (4) 遺構・遺物

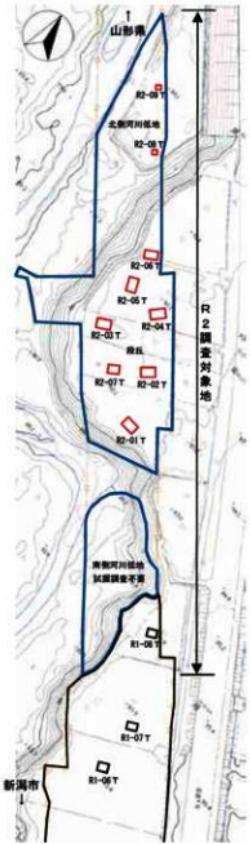
遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかつたことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:25,000)  
（「村上市管内図」 1:50,000 原図）



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第4図 調査対象地(段丘上)近景(北西から)



第5図 1Tトレンチ全景(北から)



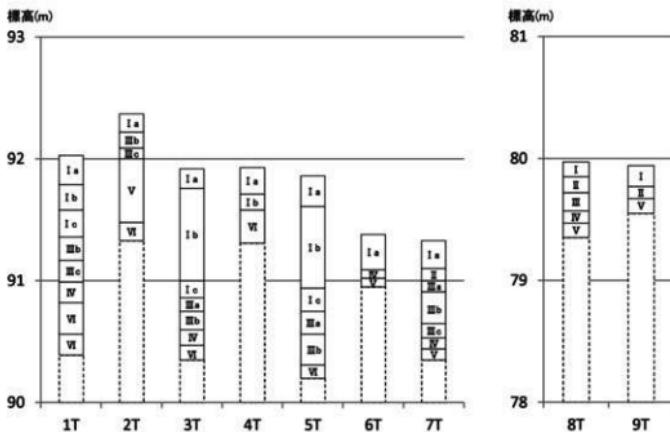
第6図 2Tトレンチ全景(南から)



第7図 3Tトレンチ断面(北から)



第8図 5Tトレンチ断面(東から)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第9図 6Tトレンチ全景（南から）



第10図 7Tトレンチ断面（南から）



第11図 調査対象地(河川低地)近景（東から）



第12図 8Tトレンチ全景（南西から）

## 10 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地10」(村上市大每地区)試掘調査 おおごと

#### (1) 立 地

大毎川左岸の段丘上に立地する。標高は約138~149mで、現況は荒蕪地である。周辺には南東400mに中世の大毎西遺跡、満願寺五輪塔群が存在する。

#### (2) 調査の概要

15か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は、段丘上(1・2・8~15T)と丘陵据(3~7T)からなる。段丘上は、大半が谷地と重複しており、谷地を埋積する土石流堆積物と湿地性堆積物を確認した。丘陵据では、ローム質のシルトの上に土壤化したシルトを確認した。

#### (3) 層 序

【段丘上】1・2・8~15T

- I a層：表土
- I b層：造成土
- I c層：旧表土
- II 層：褐灰色粘質シルト
- III 層：黒褐色泥炭
- IV 層：灰白色粘質シルト
- V 層：緑灰色砂礫
- VI 層：褐灰色砂礫
- VII 層：灰色シルト岩（基盤層）

【丘陵据】3~7T

- I 層：表土
- II 層：暗褐色シルト
- III 層：黒色シルト
- IV 層：褐色粘質シルト
- V 層：明黄褐色粘質シルト（ローム質）

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000 原図)



第4図 R2-2T トレンチ断面 (南北から)



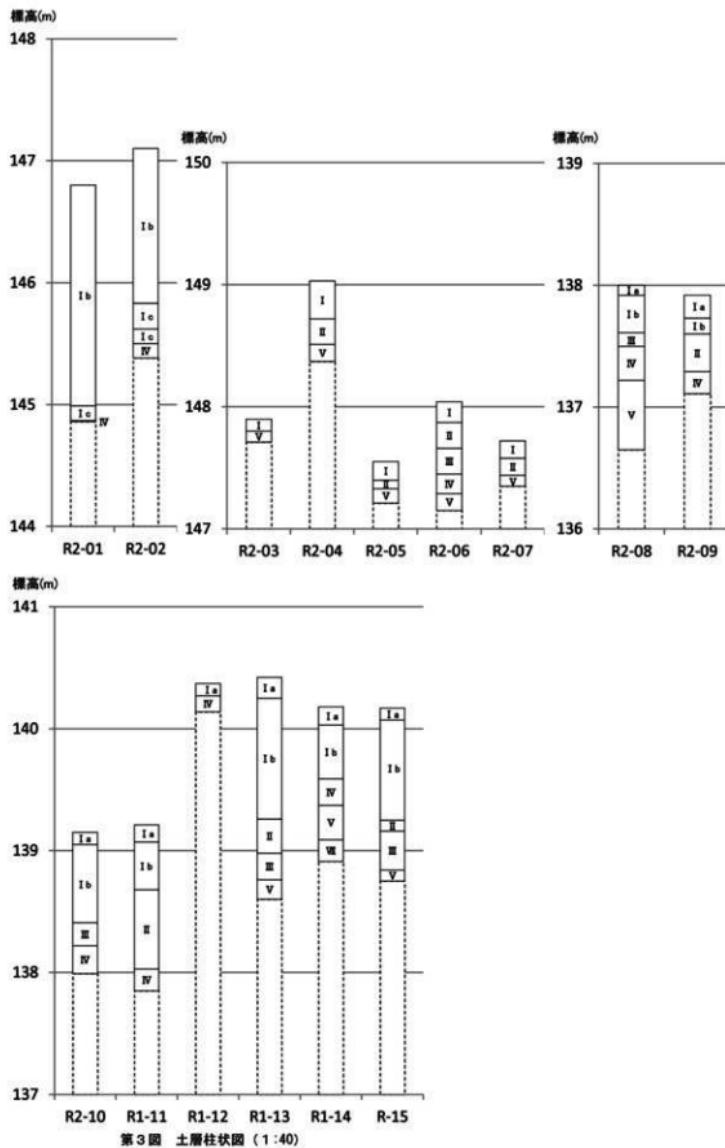
第2図 トレンチ位置図 (1:2000)



第5図 R2-5T トレンチ全景 (南西から)



第6図 R2-13T トレンチ全景 (南西から)



第3図 土壌柱状図 (1:40)

## 11 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地9\_①」(村上市大毎地区)試掘調査

#### (1) 立地

大毎川左岸の山地に立地する。標高は約200~220mで、現況は山林である。周辺には北600mに中世の大毎西遺跡、満願寺五輪塔群、東600mに绳文時代の上ノ代遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

24か所のトレーナーを設定して試掘調査を行った。伐採前に調査を行ったため、立木の合間を縫うようにトレーナーを設定することとなった。

#### (3) 層序

I a層：表土（腐植土）

I b層：造成土

I c層：旧表土

II 層：灰黄褐色シルト

（近世以降の陶器を含む。）

III 層：褐色灰色シルト

IV 層：にぶい黄褐色シルト

V 層：黒褐色シルト

VI a層：黄橙色粘質シルト

VI b層：灰白色粘質シルト

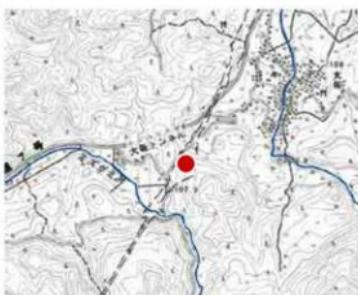
VII 層：灰白色シルト岩（基盤層）

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



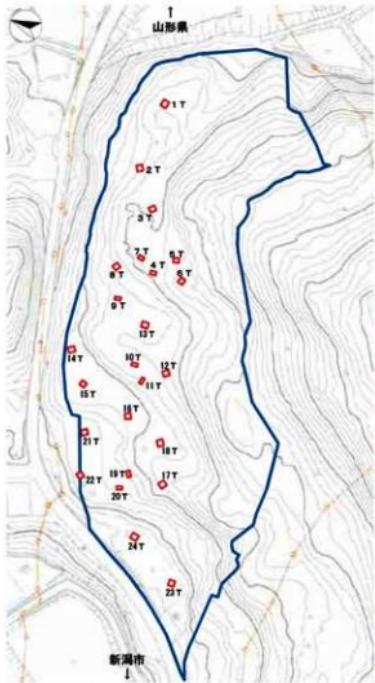
第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000 原図)

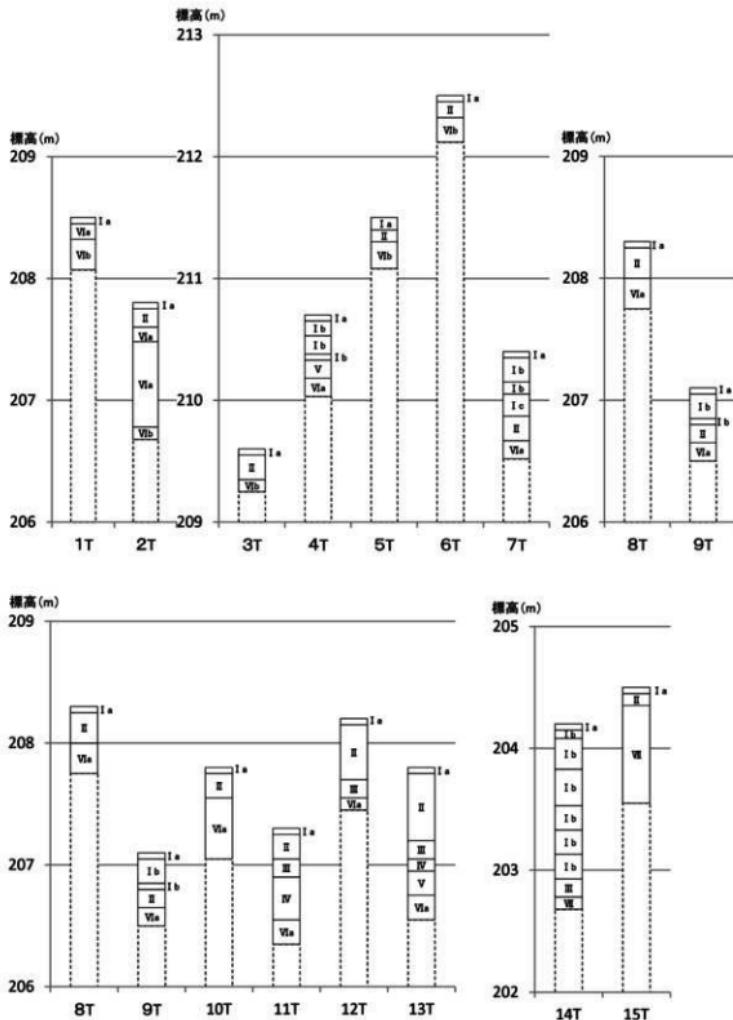


第4図 調査対象地(3T付近)近景(東から)

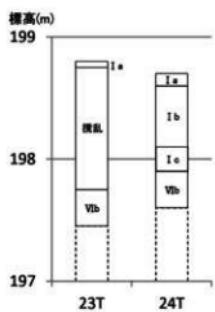
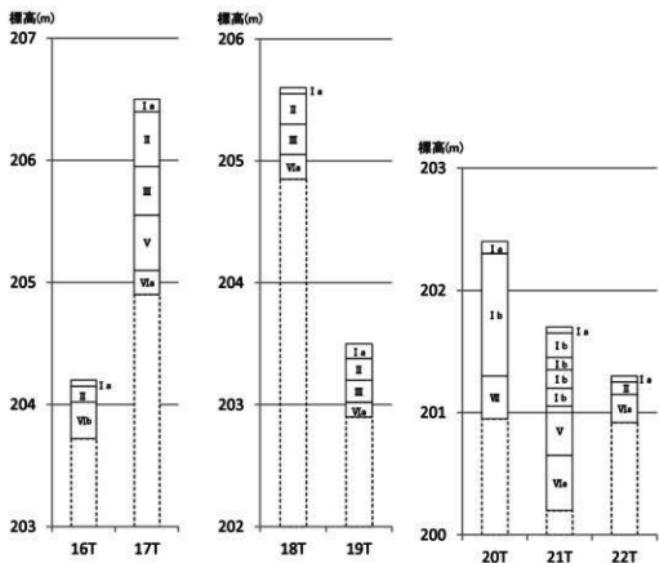


第5図 2Tトレーナー断面(北西から)





第3-1図 土層柱状図 (1:40)



第3-2図 土層柱状図 (1:40)



第11図 21T トレンチ断面（南東から）



第12図 24T トレンチ断面（北から）

## 12 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地9\_②」(村上市大每地区)試掘調査

#### (1) 立地

大每川左岸の山地に立地する。標高は約165～166mで、現況は山林である。周辺には北東400mに中世の大毎西遺跡、満願寺五輪塔群、南東700mに縄文時代の上ノ代遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

2か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。伐採前に調査を行ったため、立木の合間に縫うようにトレンチを設定することとなった。

#### (3) 層序

- I 層：表土（腐植土）
- II 層：にぶい黄褐色シルト
- III 層：明黄褐色シルト

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

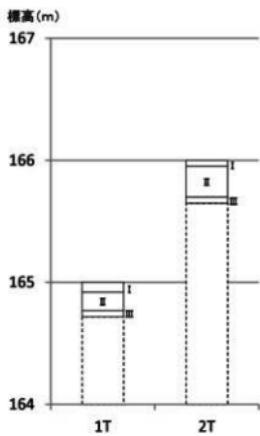
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 調査対象地近景 (南西から)



第5図 1Tトレンチ全景 (北西から)



第6図 2Tトレンチ全景 (南西から)

## 13 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地3」(村上市早稻田地区)試掘調査

#### (1) 立地

高根川右岸の丘陵頂部（標高約111～127m）に立地し、現況は山林である。一連の丘陵上には中世の山城（南西600mに板屋越城跡、南西1.6kmに猿沢城跡）が存在する。

#### (2) 調査の概要

21か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。丘陵頂部の調査であるため、平坦部を中心に浅く長いトレンチを設定した。北側頂部の6T付近で縄文土器1点を採取したことから、その周辺は重点的に調査した。

#### (3) 層序

I層：表土

II層：にぶい褐色シルト

III層：橙色粘質シルト

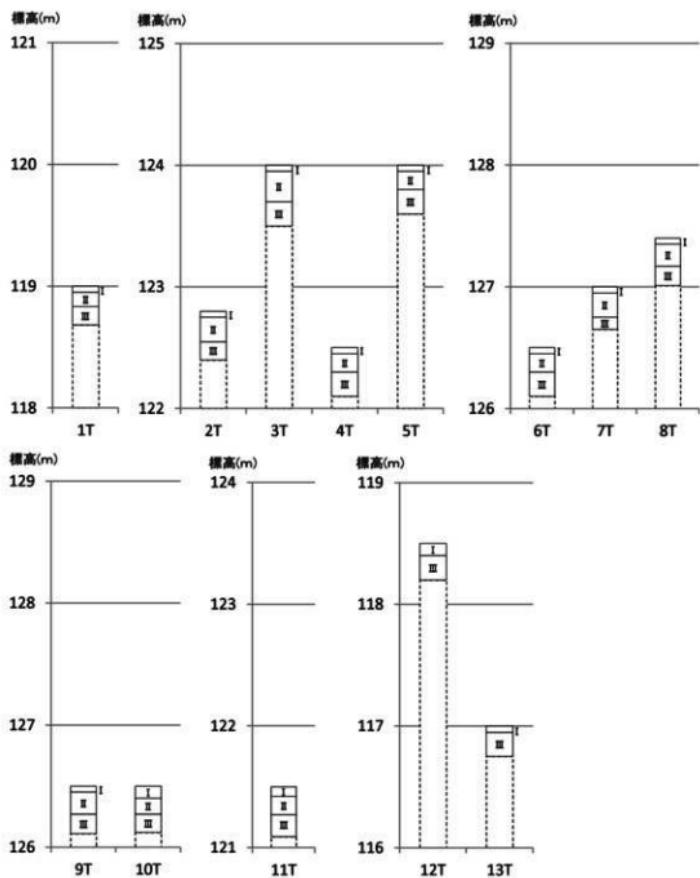
#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

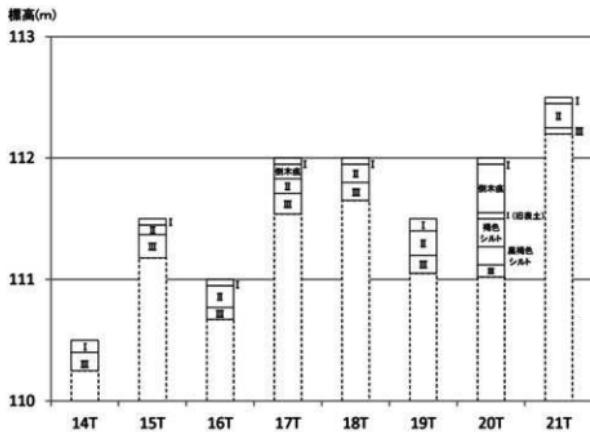
#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかつたことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。





第3-1図 柱状図 (1:40)



第3-2図 柱状図 (1:40)



第4図 調査対象地近景（北側頂部 南から）



第5図 5Tトレンチ断面（南東から）



第6図 20Tトレンチ断面（北から）



第7図 6T付近探集遺物

## 14 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「上野遺跡」(村上市檜原地区)確認調査

#### (1) 立地

高根川右岸の扇状地に立地する。標高は約41mで、現況は荒蕪地である。周知の上野遺跡の隣接地に当たる。

#### (2) 調査の概要

3か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地の堆積物は、扇状地を形成する土石流堆積物を基本とする。事業用地西側の山地を形成する岩船花崗岩類の再堆積物からなり、風化した花崗岩の砂礫で構成される。その間に、土壤化した層位(Ⅲa層・Ⅲb層・Ⅵa層・Ⅶb層)が確認され、遺跡は主にここに含まれる。なお、過去の試掘確認調査及び本発掘調査の基本層序との対応は困難であるため、層名は独自に付したが、遺物包含層の対応関係を示すことに留意した。

#### (3) 層序

I a層：表土

I b層：造成土

I c層：旧表土

II 層：明黄褐色砂礫

III a層：黒色シルト

(縄文時代後期の遺物包含層)

III b層：黒褐色シルト

IV a層：明黄褐色砂礫

IV b層：にぶい褐色細砂

V a層：褐色砂礫

V b層：明黄褐色砂礫

V c層：にぶい褐色細砂

V d層：にぶい黄褐色砂礫

VI a層：黒色細砂(縄文時代前期の遺物包含層相当層か)

VI b層：黒褐色細砂(縄文時代前期の遺物包含層相当層か)

VII 層：明黄褐色砂礫

#### (4) 遺構・遺物

遺構は検出されなかった。2TのⅢb層上面で柱穴状のプランを確認したため断ち割り調査を行ったが、明瞭な掘り込みを確認できず、遺構と判断しなかった。

遺物は、2TのⅢa層から縄文時代後期の土器3点が出土した。本発掘調査範囲で確認されている縄文時代後期の遺物包含層に対応すると考えられる。今回の調査対象範囲に、遺物包含層の広がりを確認したが出土量は少なく、上野遺跡の縁辺に相当すると判断した。

縄文時代前期の遺物包含層に相当すると考えられたⅥa層・Ⅶb層については、現地表下2.5mほどで検出した。地下深部であることからトレンチ内で調査できないため、掘削土全量を地表面に取上げて遺物の有無を確認した。その結果、遺物は出土せず、本発掘調査で確認された縄文時代前期の遺跡の広がり



第1図 位置図 (1:25,000)

(「村上市管内図」 1:50,000 原図)

りは認められなかった。

なお、3Tの砂礫層からも縄文土器が出土したが、土石流堆積物に含まれるものである。土器表面の摩滅が著しく、二次堆積物と判断した。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、縄文時代後期の遺物が出土したものの少數で、遺構は確認されなかった。このことから、今回の調査対象地は上野遺跡の縁辺に当たり、北側及び西側に遺跡は広がらないと判断した。これまでの試掘確認調査結果及び現在行われている本発掘調査の状況を踏まえ、第2図に示した範囲を本発掘調査の対象とする。



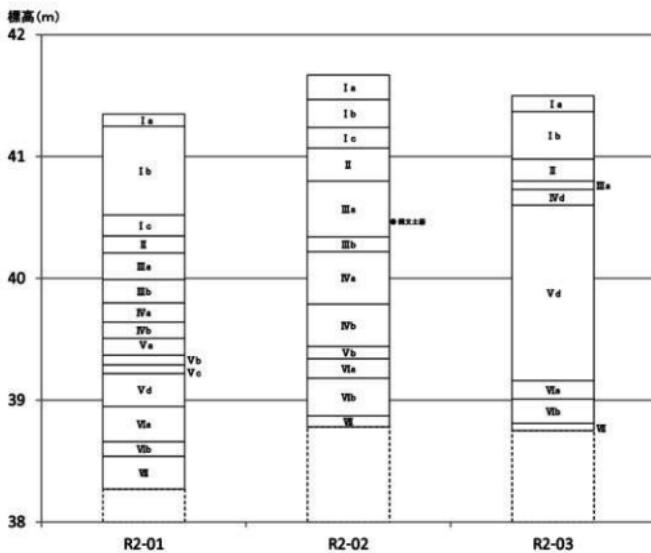
第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第4図 R2-1T トレンチ断面（北東から）



第5図 R2-2T トレンチ断面（南西から）



第3図 土層柱状図 (1:40)



第8図 R2-2 T・3 T出土遺物

## 15 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地1」(村上市猿沢地区)試掘調査

#### (1) 立地

高根川右岸の谷底平野に立地する。標高は約24.5mで、現況は荒蕪地である。周辺には北1kmに縄文時代の上野遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

2か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地が谷底平野に面することから、洪水性堆積物が堆積物の中心である(II・IV～VII層)。また、西側の山地から到達した風化花崗岩に由来する土石流堆積物が、山地側の1Tで認められた(III層)。

#### (3) 層序

- I 層：表土
- II 層：灰白色細砂
- III 層：明黄褐色砂礫
- IV 層：にぶい黄色細砂
- V 層：黒褐色砂質シルト
- VI 層：明黄褐色砂質シルト
- VII 層：明黄褐色細砂
- VIII 層：灰黃褐色細砂

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

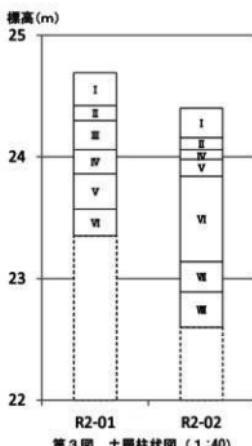
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。また、今回、調査できなかつた未買収地については、周囲の調査結果を踏まえ、試掘調査不要と判断する。



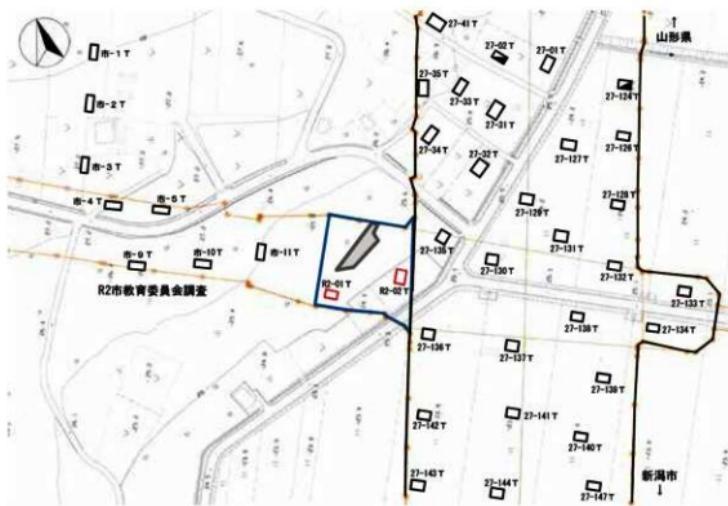
第4図 調査対象地近景(東から)



第1図 位置図(1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000原図)



第3図 土層柱状図(1:40)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第5図 R2-1 T トレンチ断面（北東から）



第6図 R2-2 T トレンチ断面（西から）

## 16 一般国道7号朝日温海道路事業関係

### 「推定地1」(村上市川端地区)試掘調査

#### (1) 立地

高根川右岸の谷底平野に立地する。標高は約23mで、現況は荒蕪地である。周辺には、南西200mに中世の上野太田遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

2か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。現在の川端集落の延長線上に、自然堤防を構成するVII層を検出し、それを覆う洪水性の堆積物を確認した。

#### (3) 層序

- I 層：造成土
- II 層：黄灰色砂質シルト（旧表土）
- III 層：灰黄色細砂
- IV 層：黒褐色砂質シルト
- V 層：灰黄色シルト～砂礫
- VI 層：灰黄色細砂
- VII 層：浅黄色砂礫（自然堤防）

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

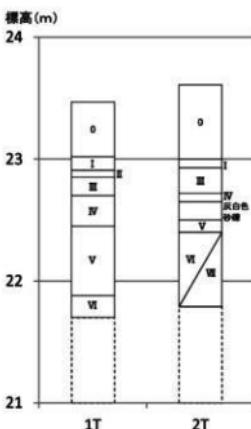
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第1図 位置図 (1:25,000)  
(「村上市管内図」 1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層断面図 (1:40)

## 17 一般国道49号野村待避所事業関係

### 「野田原館跡」(阿賀町野村地区) 確認調査

#### (1) 立地

阿賀野川の支流・音無川左岸の河岸段丘上に立地する。標高は約93~98mで、現況は休耕田である。調査対象地は、周知の野田原館跡と重複する。

#### (2) 調査の概要

21か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。  
調査対象地は、大幅な切土・盛土により平坦面が造成されており、段丘を形成する砂疊層(V層)の上位に、泥炭質シルトと洪水性の堆積物が互層をなしていた。

#### (3) 層序

I a層：表土

I b層：造成土

I c層：旧表土

II 層：灰白色礫混じり粗砂

III 層：黒色シルト（しまり強い）

IV 層：灰黄褐色シルト

V 層：褐灰色砂質シルト

VI 層：灰黄色砂質シルト

VII 層：灰褐色砂質シルト

VIII 層：灰色～橙色砂疊（段丘疊層）

#### (4) 遺構・遺物

調査対象地は、天正年間に築かれたとされる野田原館跡に当たる。『新編会津風土記』の記載にある字名から範囲が推定されているが、昭和40年代の農業整備基盤事業で土地が大きく改変されており、詳細は明らかでない。

今回の調査では、旧地表が部分的に残存することを確認したものの、遺構・遺物は検出されなかった。また、もともとは起伏のある土地であったことが推定された。周辺には関連する遺構や地名があることから、館跡の存在がうかがわれるが、具体的な位置を特定することはできなかった。

#### (5) 調査の結果と取扱い

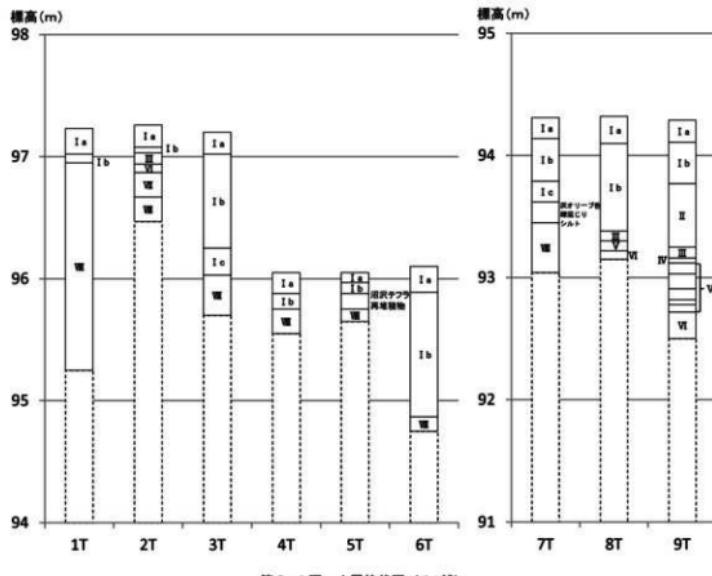
調査の結果、遺構・遺物が確認されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



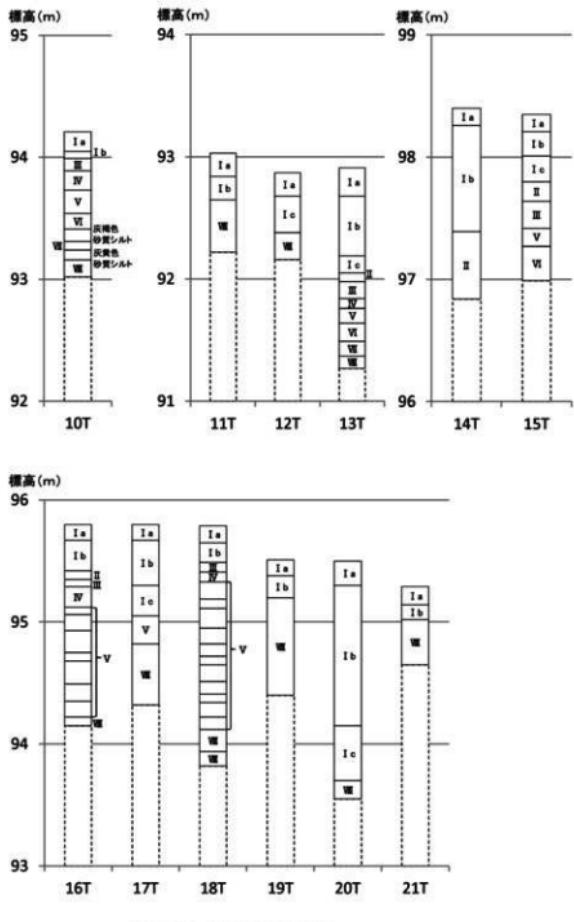
第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成9年「御神楽岳」・  
平成11年「野沢」 1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:2000)



第3-1図 土層柱状図 (1:40)



第3-2図 土層柱状図 (1:40)



第4図 調査対象地近景（南西から）



第5図 1T トレンチ断面（西から）



第6図 9T トレンチ断面（北西から）



第7図 13T トレンチ断面（西から）



第8図 15T トレンチ断面（東から）



第9図 16T トレンチ断面（東から）



第10図 18T トレンチ断面（東から）



第11図 20T トレンチ断面（西から）

## 18 一般国道8号曽地チェーン着脱場事業関係

### 柏崎市曽地地区試掘調査

#### (1) 立 地

別山川左岸の沖積地に立地する。標高は約7mで、現況は水田である。周辺には、南西600mに弥生時代の下谷地遺跡（国指定史跡）、南東300mに弥生時代から古代の行塚遺跡、北東400mに古代・中世の五百刈遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

6か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地の土層は、洪水性堆積物を主体とし、泥炭質シルト（V層）が介在することから、洪水の影響を受けやすい湿地のような環境にあったと考えられた。

#### (3) 層 序

I a層：表土

I b層：造成土

II 層：灰黄色シルト（旧表土）

III a層：明緑灰色砂質シルト

III b層：オリーブ灰色砂質シルト

IV 層：灰色シルト

V a層：灰黄褐色泥炭質シルト

V b層：褐色泥炭質シルト

VI 層：灰黄色粘質シルト

VII 層：緑灰色細砂

VIII 層：褐色粘質シルト

#### (4) 遺構・遺物

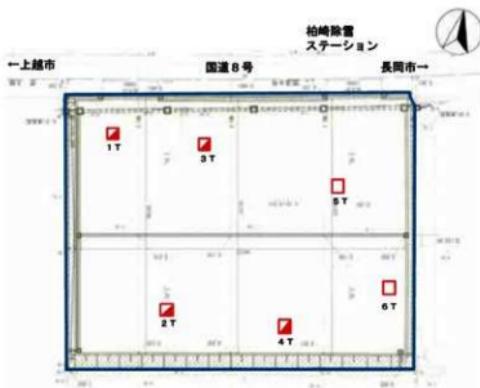
遺物は、II層・IV層・V b層から出土した。いずれも古代の遺物であるが小片である。このうちII層から最も多くの遺物が出土したが、6Tで現代の白磁の混入を確認しており、ほ場整備以前の表土に含まれるものと判断した。IV層・V b層は、古代の遺物包含層と考えられるが遺物の出土数量は極めて少なく、これに伴う遺構は検出されなかった。また、V b層の下位では土層の乱れが確認されたため、水田の存在を想定して調査したが、積極的に判断するための根拠を得ることができなかった。なお、遺物の出土点数は、西から南西側でより多く、その隣接地に遺跡が存在する可能性がある。

#### (5) 調査の結果と取扱い

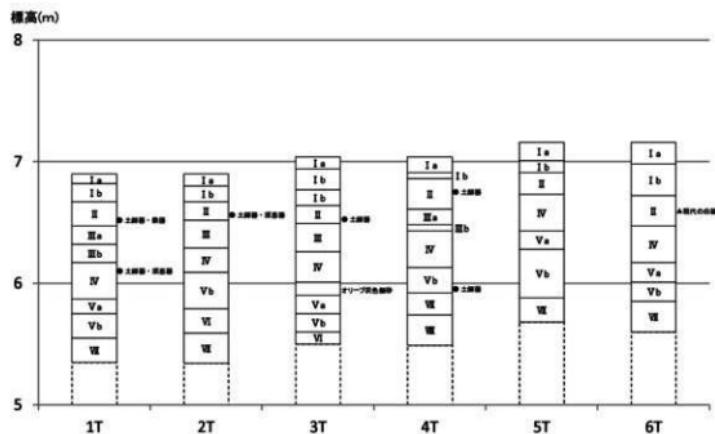
調査の結果、古代の遺物が出土したが小片が少数含まれるのみであり、遺構は検出されなかった。このことから、今回の調査対象範囲については、本発掘調査不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成7年「柏崎」 1:50,000原図)



第2図 トレンチ位置図 (1:1000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第4図 調査対象地近景 (北東から)



第5図 1T トレンチ断面 (南から)



第6図 2Tトレンチ断面（西から）



第7図 3Tトレンチ断面（東から）



第8図 4Tトレンチ断面（北から）



第9図 5Tトレンチ断面（東から）



第10図 6Tトレンチ断面（西から）



第11図 6TⅡ層から出土した現代の白磁（西から）



第12図 出土遺物（1T・2T・3T）



第13図 出土遺物（4T）

## 19 一般国道 17 号川口待避所事業関係

### かわぐち 長岡市川口地区試掘調査

#### (1) 立地

魚野川右岸の台地上に立地する。標高は約 80.5~82m で、現況は水田・荒蕪地である。周辺には、中山平山遺跡・川口中山 II 遺跡・ササラ遺跡など、縄文時代の遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

8か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地の西側を魚野川が北流し、東側には丘陵地が広がる。周辺の地形は、この傾斜に沿うように勾配が認められ、田面の標高は、東側から南側がより高い。特に、3・5・6・7T 周辺では大規模な削平が観察され、かつては小高い地形が存在したことがうかがわれる。

#### (3) 層序

I 層は、表土と造成土である。II 層は、植物遺体を多く含む泥炭質シルトである。中世の遺物が出土したが、近世以降の白磁も含まれることから、近世以降の堆積物と判断した。III 層は、縄文時代晚期後半の遺物包含層である。上下に細分でき、いずれにも多数の遺物を含む。遺物包含層下位の IV ~ VI 層はシルトと砂の互層であり、VII 層は基盤となる段丘礫層である。

I a 層：表土

I b 層：造成土

I c 層：造成土（客土）

II a 層：黒褐色泥炭質シルト（植物遺体多い。）

II b 層：暗褐色泥炭質シルト（偽縄混じり。近世以降の遺物を含む。）

II c 層：黒褐色泥炭質シルト（植物遺体多い。近世以降の遺物を含む。）

III a 層：褐灰色細砂（縄文時代晚期後半の遺物包含層）

III b 層：褐灰色砂質シルト（縄文時代晚期後半の遺物包含層）

IV 層：黄灰色泥炭質シルト（粗砂混じり。縄文土器 1 点出土。）

V 層：灰色細砂

VI a 層：明緑灰色砂質シルト（地山と捉えた。しまり強い。）

VI b 層：浅黄色シルト

VI c 層：浅黄色砂質シルト

VII 層：にぶい黄橙色砂礫（段丘礫層）

#### (4) 遺構・遺物

遺物は、縄文時代の土器 96 点・石器 11 点、中世の銭貨 1 点が出土した。

1T・8T の IIIa 層・IIIb 層から、多数の遺物が出土した。また、IV 層上部から土器 1 点が出土したが、



第 1 図 位置図 (1 : 50,000)  
(国土地理院発行 平成 6 年「小千谷」 1 : 50,000 原図)

IIIb 層に由来する可能性がある。出土遺物は、縄文時代晩期後半の土器・石器である。土器は、粗製土器の胴部破片がほとんどであり、精製土器は見られない。石器は、鉄石英（黄玉石）の石核・剥片が特徴的に見られるほか、チャート製の石鏃もある。地下深部にあるため、トレンチ内での作業が限定されたことから遺構を検出できなかったが、遺物の数量を鑑みれば、遺構を伴うと考えられる。また、木片などの自然遺物が含まれることから、木製品等の有機質遺物の存在が想定される。

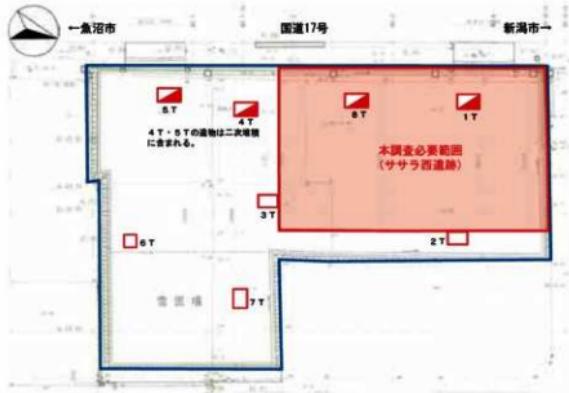
縄文時代の遺物を含むIIIa 層・IIIb 層は、1 T・8 T以外では確認されず、周辺に広がりを認められない。1 T・8 T付近は、北側に向かって傾斜する谷地形に相当すると見られ、この部分にIIIa 層・IIIb 層が存在する。一方、もともとの小高い地形に当たる3・5・6・7 Tでは、VIA 層上面で明瞭な削平面が確認され、調査対象地の東側から南側では、IIIa 層・IIIb 層が失われていると判断した。

4 TではIIb 層から縄文時代の石器と中世の錢貨（渡来銭／元豊通寶か）、5 TではIIc 層から縄文時代の石器と近世以降の白磁が出土した。縄文時代の石器は、中世及び近世以降の遺物と同一層位から出土しており、二次堆積中に含まれると判断した。

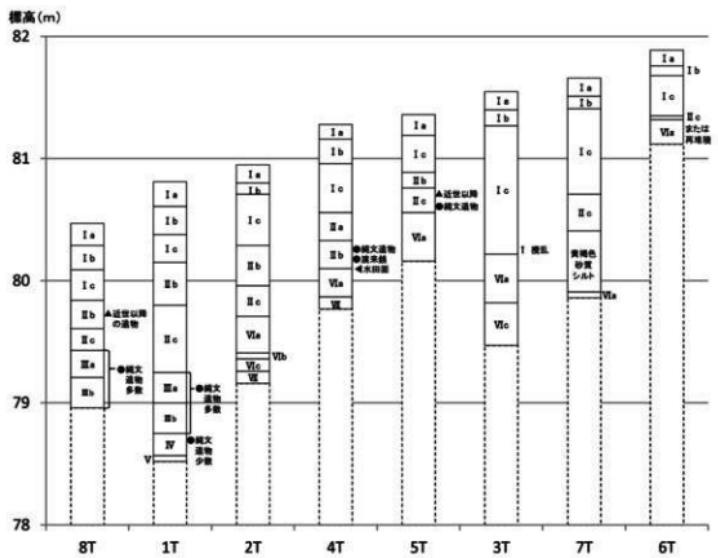
4 TのIIb 層とVIA 層の境では、上下の層位が搅拌されていることを確認した。IIb 層で渡来銭が出土したことから、中世の水田遺構を想定して調査したが、畦畔や水路等を検出できなかった。一方、5 TではIIc 層とVIA 層の境が不整合となっており、II 層堆積前に大規模な造成（削平）が行われたことがわかった。本来、存在したであろうIIIa 層・IIIb 層は、この造成時に失われたと考えられる。また、5 TのIIc 層、8 TのIIb 層からは、近世以降の白磁が出土した。これらの状況から、II 層は近世以降の堆積層であり、4 Tで確認された水田の可能性がある層位の搅拌は、近世以降に形成されたものと判断した。

#### （5）調査の結果と取扱い

1 T・8 T周辺に広がる谷地形の中で縄文時代晩期後半の新遺跡を発見した。2 Tの西側から3 Tの北側にかけての範囲を「ササラ西遺跡」とし、1,900 m<sup>2</sup>について本発掘調査必要範囲と判断した。遺跡の東側から西側に遺跡の広がりを確認できなかったが、かつてそこに存在したと想定される小高い地形上に遺跡の中心が存在した可能性がある。



第2図 トレンチ位置図 (1:2000)



第3図 土層柱状図(1:40)



第4図 調査対象地近景(西から)



第5図 1T トレンチ断面(東から)



第6図 1T IIIa層遺物出土状況(東から)



第7図 4T トレンチ断面(東から)



第8図 4Tトレンチ断面（東から）



第9図 5Tトレンチ断面（東から）



第10図 5Tトレンチ断面（東から）



第11図 8Tトレンチ断面（東から）



第12図 1T出土遺物（IIa層・IIb層）



第13図 1T・4T・5T出土遺物



第14図 8T出土遺物（IIc層・IIIa層・IIIb層）



第15図 8T出土遺物（IIIa層・IIIb層）

## 20 一般国道 253 号八箇峠道路事業関係

### よかわ 南魚沼市余川地区試掘調査

#### (1) 立地

魚沼丘陵に源を発する庄之又川によって形成された扇状地の扇端部に立地する。標高は約 181~192m で、現況は水田である。金屋遺跡と六日町藤塚遺跡に挟まれた区間で、周辺には蟻子山古墳群、飯綱山古墳群、余川中道遺跡、坂之上遺跡など古墳時代から古代の遺跡が多く存在する。

#### (2) 調査の概要

33か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。今回の調査対象地は、南北の延長が 500m にも及ぶ広範囲である。扇状地に立地することから土層の堆積は複雑で、北側と南側で対応しない。そこで国道 253 号を境に、北側（1~15T）と南側（16T~33T）を分けて記載した。また、北側については、本発掘調査を行っている金屋遺跡と共通することから、層名を対応させることとした。

#### (3) 層序

各層の内容は、次のとおりである。なお、特に 遺跡の存在がうかがわれた土壤化した層位には「(B)」と表記した。

#### 【北側】金屋遺跡隣接地・六日町インター入口付近 (1~15T)

- I a 層：表土
- I b 層：造成土
- III 層：明黄褐色砂礫
- V a 層：浅黄色シルト
- V b 層：にぶい黄褐色砂礫
- V c 層：にぶい黄褐色細砂
- VI a 1 層：暗灰黄色砂質シルト（ブロック混じり）
- VI a 2 層：褐灰色砂質シルト(B)
- VI a 3 層：暗灰黄色砂質シルト
- VI a 4 層：黒褐色砂質シルト(B)（遺物包含層）
- VI a 5 層：暗黄灰色砂質シルト
- VI b 1 層：灰黄褐色シルト(B)（遺物包含層）
- VI b 2 層：暗灰黄色砂質シルト(B)
- VII a 層：明黄褐色砂質シルト
- VII b 層：暗灰黄色砂質シルト（VII a 層より明るい色調）
- VII c 層：明黄褐色シルト
- VII d 層：明黄褐色砂質シルト



第1図 位置図 (1:50,000)

（国土地理院発行 平成 10 年「十日町」 1:50,000 原図）

この範囲から遺物が出土したが、  
主な遺物包含層は VIa4 と VIb1 層  
と見られる。

- VII e 層 : 明黄褐色細砂
- VII 層 : 黄褐色砂礫
- IX 層 : 黄褐色砂質シルト
- X 層 : にぶい黄褐色砂質シルト(B)
- XI a 層 : にぶい黄褐色砂質シルト
- XI b 層 : にぶい黄褐色シルト

**【南側】藤塚遺跡隣接地 (16~33T)**

- I a 層 : 表土
- I b 層 : 造成土
- II 層 : にぶい黄褐色砂質シルト(B) (遺物わずかに含む)
- III 層 : 暗褐色シルト(B) (上層遺物包含層)
- IV 層 : 明黄褐色砂質シルト
- V 層 : 褐灰色砂質シルト(B)
- VI 層 : にぶい黄褐色砂質シルト
- VII a 層 : にぶい黄褐色砂質シルト(B)
- VII b 層 : 褐灰色砂質シルト(B) (下層遺物包含層)
- VIII 層 : 黄褐色砂礫 (土石流堆積物)
- IX 層 : 黄灰色砂礫 (河川堆積物)

**(4) 遺構・遺物**

調査対象範囲は、3か所（金屋遺跡隣接地・六日町 IC 入口付近・六日町藤塚遺跡隣接地）に区分されている。それぞれで状況が異なることから、個別に記載することとする。

**【金屋遺跡隣接地】(1 ~ 6 T)**

1 Tでは、遺物包含層 (Vla 層・VI b 層) を良好な状態で検出した。Vla 層は、間層 (Vla3 層) を挟んで上下に細分できるが掘削時に分けることはできず、遺物は一括して取り上げた。特に下位のVla4 層から、より多くの遺物が出土しており、上位ほど遺物量は少なかった。Vlb 層からは、多数の遺物が出土した。須恵器（横瓶）など大破片が多く、この層位が遺跡の一次堆積と考えられる。遺物の年代は、いずれも9世紀である。

2 Tでは、Vla4 層・Vlb1 層から多数の遺物が出土した。1 Tと同様にVlb1 層でより多くの遺物が出土しており、この層位が遺跡の一次堆積と考えられる。遺物の年代は、いずれも9世紀である。VII層上面では、ピット（柱穴）とL字状の溝を検出した。溝は堅穴建物の壁溝である可能性がある。断面観察では、遺構の掘り込み面をVlb2 層上面と判断できるが、VII層上面まで掘削しないとプランを明瞭に確認できない。遺構埋土はVlb1 層に由来すると考えられ、遺物包含層に対応する古代の遺構と判断した。Vlb2 層に対応するレベルから少數の遺物が出土したが、遺構埋土に含むものである可能性が高い。なお、トレンチ東側の表土直下で溝状のプランを検出したが、斜面地に堆積するVII 層の端部であることを確認した。

3 Tより南側では状況が一変する。3 TではVla4 層を確認したが、遺物は出土しなかった。それより下位のVlc 層から須恵器の大破片が出土したが、これ以外の出土遺物はない。その下位のVld層からも遺物が出土したが、土石流堆積物に含まれ、二次堆積物と判断した。なお、より標高の低い4~5 Tでは、遺物包含層に相当する層位 (Vla 層・VI b 層) そのものを確認できなかった。

1・2Tにおける土層の堆積状況・出土遺物の内容は、本発掘調査を実施している金屋遺跡と共通する。このことから、金屋遺跡は今回の調査対象地まで広がるものと考えられる。一方、標高が一段低くなる5Tより南側には遺跡の広がりを確認することができなかつたことから、金屋遺跡の広がりは5Tより北側と判断した。

なお、調査対象地東側の区画については、入口付近の水路が脆弱であるため、重機が進入できず調査できなかつた。調査トレンチの状況・周辺地形の観察から、遺跡の広がりが想定されるが、詳細は不明である。

#### 【六日町IC入口付近】(7~15T)

六日町IC入口付近では、10T・14TのVla4層から古代（9世紀）の遺物が出土した。大破片も含まれることから遺跡の存在がうかがえる状況にあり、特に10Tでより多くの遺物が出土した。また、遺跡の広がりを把握するため、14Tでは南北に長いトレンチ（長さ10.4m）を設定したが、遺物の出土は北側4mほどの範囲に限られ少數であった。これらの状況から、遺物包含層は10Tの北側により濃密に広がるものと推察された。一方、7~10・13~15Tでは、Vla4層から遺物は出土しておらず、13・15Tにおける出土遺物は現代の造成土中に含まれる二次堆積物である。このことから遺物包含層の広がりは、調査対象地の西側には広がらないと判断した。

14Tではピット1基を検出した。遺物包含層（Vla4層）下位のVla層上面で検出したことから、周辺にトレンチを密に設定して遺構の把握に努めたが、これ以外は検出できなかつた。ピットは、半裁査調査して埋土を確認したが、直径5mmほどの細縫を特徴的に含んでいた。細縫は、遺物包含層より上位のVla3層に含まれるが、遺物包含層（Vla4層）及び遺構検出面（Vlb層）にはほとんど含まない。のことから、遺構の本来の掘り込み面はVla3層より上位に当たる可能性があり、ピットは古代の遺物包含層に伴わないことも想定できる。なお、ピットは図面・写真記録を残して完掘した。

以上の結果から、12Tより東側に新たな遺跡の存在がうかがえたが、遺跡の広がりや内容を十分に把握できなかつた。この範囲を判断保留とし、追加調査及び北側隣接地の試掘調査結果を踏まえて、取扱いを決定することとする。

#### 【六日町藤塚遺跡隣接地】(16~33T)

この対象地は、周知の六日町藤塚遺跡の隣接地に当たり、多くのトレンチで遺構・遺物が検出された。遺物包含層（III層）は、ほぼ整備で大部分が削平されており、17・19・20・22・24Tで確認され、厚さはおおむね10cm以下である。ここからは古代（9世紀）の遺物が出土しており、ほかの時代の混在は見られなかつた。なお、遺物包含層が確認された範囲の北端17Tでは、遺物をわずかに含むII層で被覆されていたため地層の残りは良好であったが、遺物の出土数量は少なかつた。また、北西側ではIII層が認められるものの、出土遺物の数量は少なかつた。調査対象地の南側ほど、遺物を多く包含するものと考えられる。

遺構は、いずれもIV層上面で確認された。17Tでは構2条、24・25・26・27Tではピット・土坑、28Tでは堅穴建物を検出した。特に26Tにおいては遺構密度が高く、重複関係が複雑である。28Tで検出した堅穴建物は方形プラン見られ、南西隅で認められた焼土の集中範囲はカマドの可能性がある。遺構や出土遺物の数量を勘案すると、調査対象地の東側に遺跡の中心が存在することが想定される。

また、六日町藤塚遺跡の本発掘調査では、古代の遺構面の下位に、古墳時代中期・後期の遺構面が確認されていることから、27Tで部分的に下層の確認調査を行つた。その結果、下位に古墳時代後期の遺物包含層・Vlb層を検出した。また、IV層下位かつVlb層を切る遺構が断面で観察された。IV層上面で検出した

古代の遺構面を上層、IV層下位かつVIIb層を切るよう検出された古代の遺構面を中層、古墳時代後期の遺物包含層であるVIIb層を下層とする。ただし、上層の遺構が濃密であったため、中層・下層の状況を十分に把握できていない。

18Tより北側では、遺構・遺物は検出されなかつた。18Tでは、表土直下で縦横に切り合う溝を検出したが、埋土は表土に近似するものであり、17Tより南側で検出した遺構埋土とは異質であつた。このことから、現代の耕作溝と判断した。なお、部分的に埋土を掘削したが、遺物は出土しなかつた。

農道を挟んだ西側(29~33T)では、表土以外から遺物は出土せず、遺構は検出されなかった。この範囲は、遺構が検出された田面より1m以上の低いことから異なる地形面に当たると考えられ、遺跡の広がりは認められない。六日町藤塚遺跡と余川中道遺跡の間には、流跡が存在するが、これに相当する地形の落ち際と判断した。

以上の結果から、18Tより南側かつ農道より東側に、古代及び古墳時代後期の遺跡の存在を確認した。六日町藤塚遺跡から連続的に広がり、年代も一致することから、同遺跡の広がりと判断した。

## (5) 調査の結果と取扱い

今回の調査対象地のうち、金屋遺跡の広がりが確認された1,310 m<sup>2</sup>、六日町藤塚遺跡の広がりが確認された4,820 m<sup>2</sup>について本発掘調査が必要である。なお、六日町藤塚遺跡においては、部分的に3面の遺跡が重複することが確認されている。また、六日町インターチェンジ入口付近では、多数の遺物が出土した810 m<sup>2</sup>について判断保留とし、今後の追加調査及び北側隣接地の調査結果をもって最終判断する。



第5図 2丁トレンチ断面（北から）



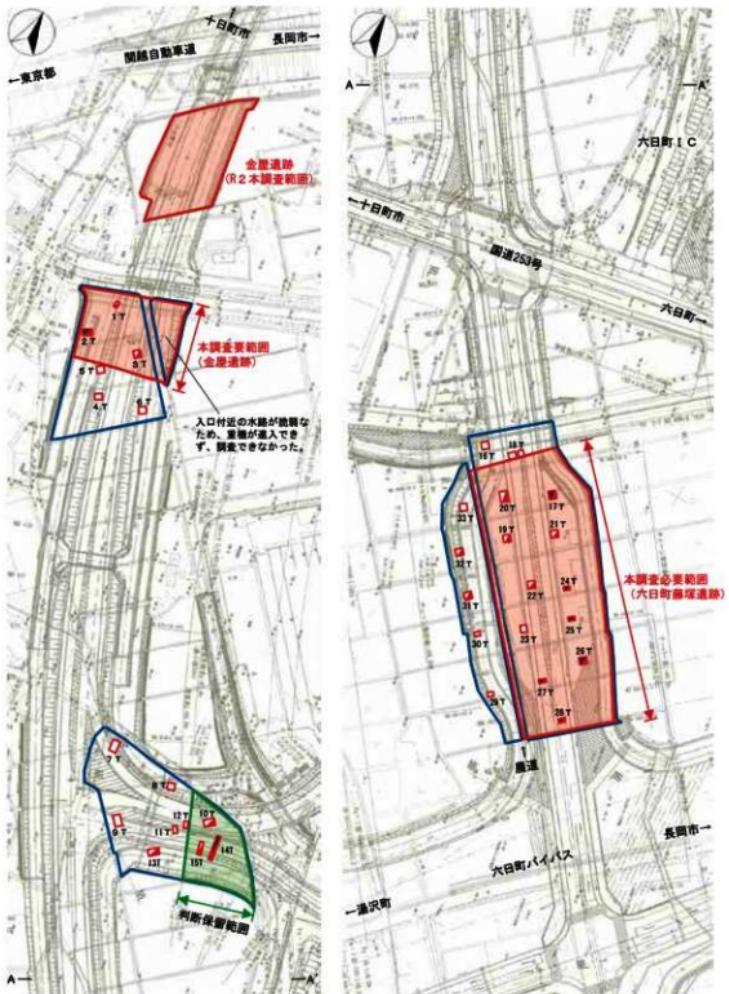
第6図 14Tトレンチ断面(東から)



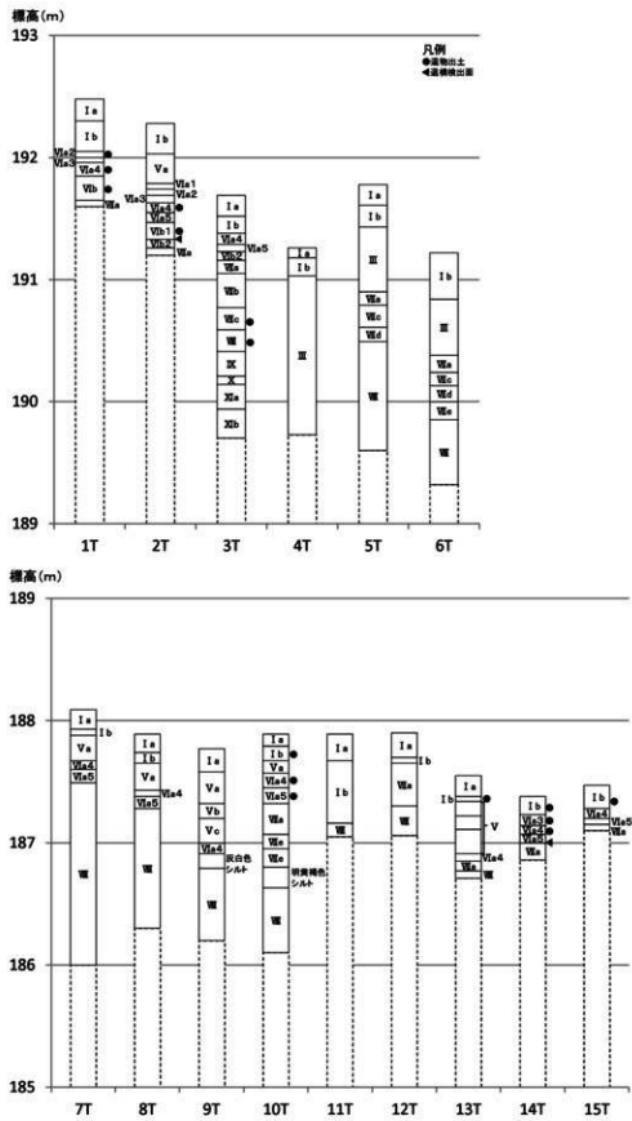
第7図 17Tトレンチ全量(高から)



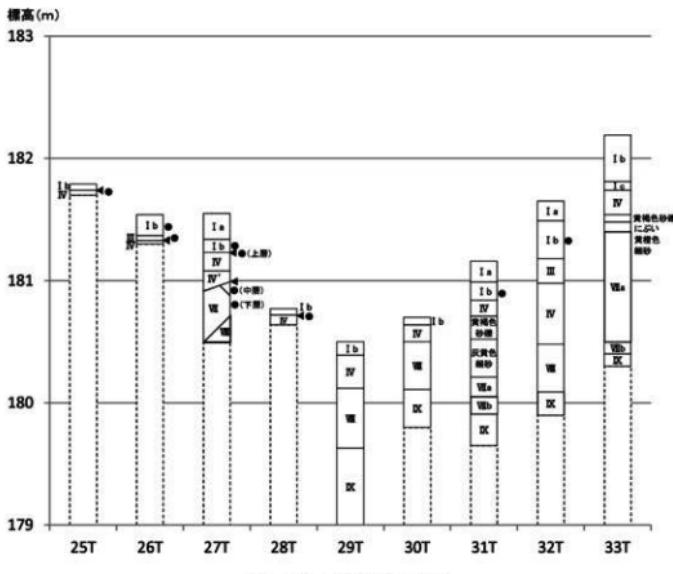
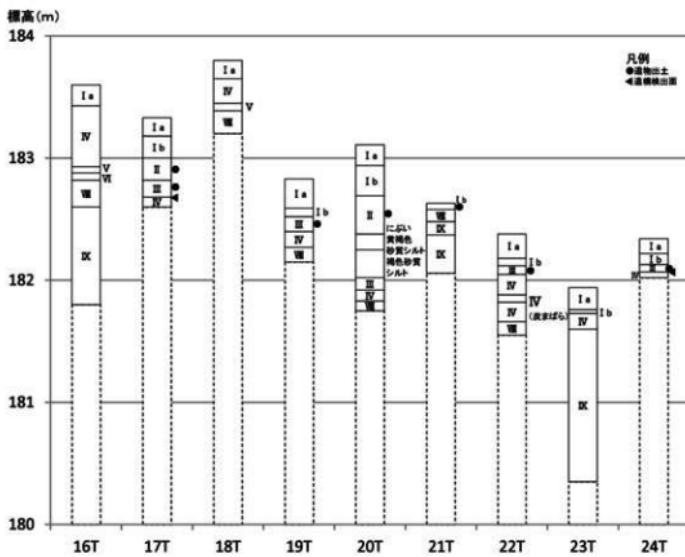
第8圖 24Tトレンチ全量(南北から)



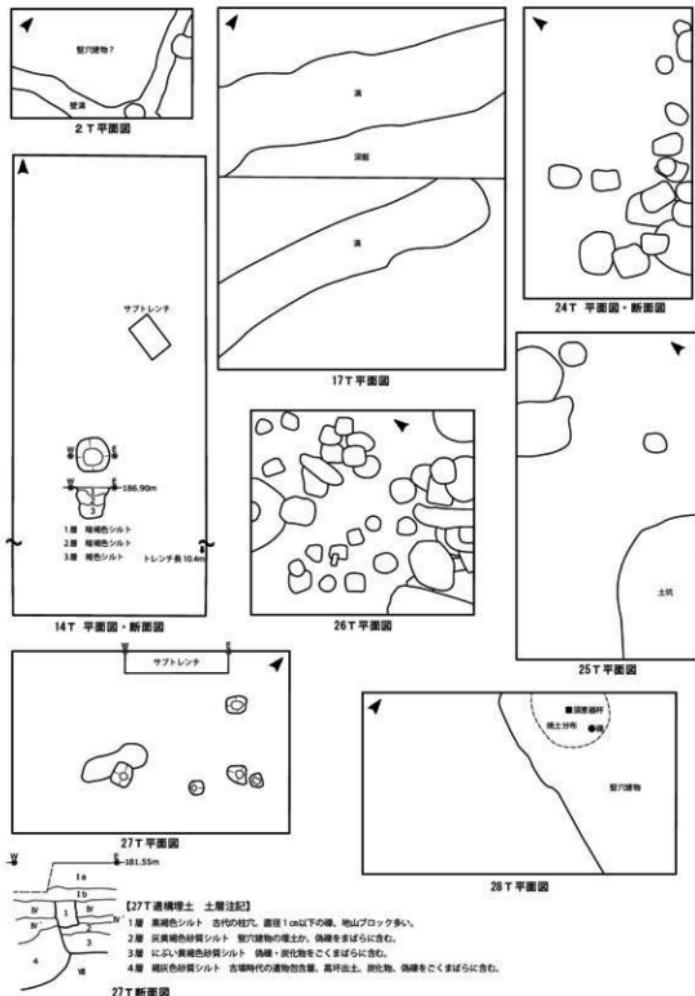
第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3-1図 土層柱状図 (1:40)



第3-2図 土層柱状図 (1:40)



第4図 桿出遺構平面図・断面図



第9図 26T トレンチ全景（南西から）



第10図 27T トレンチ全景（東から）



第11図 27T トレンチ断面（南東から）



第12図 28T トレンチ全景（東から）



第13図 1T 出土遺物



第14図 2T 出土遺物



第15図 14T 出土遺物



第16図 27T 出土遺物

## 21 一般国道 17 号神立待避所事業関係

### 湯沢町神立地区試掘調査 かんだつ

#### (1) 立地

魚野川と戸沢川に挟まれた沖積段丘上に立地する。標高は約 367~368mで、現況は水田・畑地である。調査対象地は、縄文時代早期・前期・後期及び中世の宮林B遺跡、式内社である魚沼神社と隣接する。

#### (2) 調査の概要

10か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は、ほ場整備による土地改変を経ているが、2・3・6T付近を中心に、戸沢川と平行する埋没谷を検出した。現在も、これと平行する水路があり、東から西へ下る流路が存在したと考えられる。埋没谷の両側には、自然堤防状の帯状の高まりが認められ、基盤としたVII層上面の標高が70~80cmほど高い。

#### (3) 層序

基本堆積は、表土下に黒色砂質シルト(IVa~IVc・V層)があり、その下位に砂礫層(VII層)が堆積する。黒色砂質シルトのうち最上位のIVa層では、縄文時代後期前葉の土器が2点出土した。VII層は、直径30cmを超える礫を主体とする段丘礫層で、かつての流路の痕跡と見られる。

II・III層は、自然堤防上に当たる7Tのみで存在し、その下位からIVb層を検出した。II層上面は、縄文時代前期後葉の遺構検出面となる。II・III層とIVa層の上下関係は、同一断面で確認することができず不明であるが、IVa層からより新しい縄文時代後期前葉の遺物が出土している。このことからIVa層は、本来はII層の上位に存在する遺物包含層であり、7Tではほ場整備により削平されたものと考えられた。

Ia層：表土

Ib層：造成土

Ic層：旧表土（ビニール等を含む。）

II層：明黄褐色シルト（縄文時代前期後葉の遺構検出面）

III層：褐灰色シルト

IVa層：黒色砂質シルト（より明るい色調。縄文時代後期前葉の土器を含む。）

IVb層：黒色砂質シルト（より暗い色調）

IVc層：黒色砂質シルト（より明るい色調）

V層：黒色礫混じり砂質シルト

VI層：にぶい黄色砂礫

#### (4) 遺構・遺物

周囲より小高い自然堤防上の7Tにおいて、表土直下で遺構（堅穴建物・土坑）を検出した。ほ場整備で削平されていたが、遺構の遺存状況は比較的良好であった。



第1図 位置図 (1:50,000)

(国土地理院発行 平成7年「越後湯沢」 1:50,000原図)

堅穴建物は、少なくとも1辺3m以上の広がりをもつ。調査範囲が限られているため平面プランは明らかでないが、方形基調と見られる。検出面からの深さは18cmほどであり、底面は平坦である。底面で検出した柱穴3基は、建物構造の一部と考えられる。遺構埋土は、地山ブロックを多量に含むことが特徴的で、人為的に埋め戻された可能性が高い。なお、堅穴建物の底面は黒色のIVb層であり、今後、調査を行う場合は注意が必要である。

堅穴建物の年代を確認するために東側を掘削したところ、底面付近で縄文土器が多数出土したが、いずれも小片であった。文様をもつ土器が出土しておらず、時期の詳細は不明であるが、胎土・縄文原体・整形・器壁等の観察から、前期後葉に位置付けられる可能性がある。石器も1点出土した。頁岩製の石核であり、剥片石器の素材である。

堅穴建物の西側には、土坑と見られる直径1.5mほどの円形プランを検出した。検出面で確認した埋土は、堅穴建物の1層に共通しており、両者は同時期の遺構と考えられる。

これらの広がりを把握するために8~10Tを設定したが、遺構検出面となるII層が存在せず、遺構の広がりは認められなかった。埋没谷に相当する1~6Tと共通する堆積状況であり、遺構は調査対象地外の南側~南東側に広がると見られる。この結果から、事業用地の南西隅に遺跡が存在することが確認されたが、周知の宮林B遺跡と一連の自然堤防上に立地するものと考えられる。

7Tのほかでは、2T・9TのIVa層から縄文土器片が単独で出土した。いずれも縄文時代後期前葉のものであり、7Tで検出した遺構よりも新しい時期に位置付けられる。遺物を包含するものの出土点数は少なく、遺跡の縁辺部に当たると判断した。

宮林B遺跡は、戸沢川改修事業に伴い発掘調査されており、縄文時代早期・前期後葉・後期前葉の遺物包含層が層位的に検出されている。今回の調査成果と対比すると、IVa層が後期前葉の遺物包含層、II層上面で検出した遺構が前期後葉の遺物包含層と対応することができる。

## (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、7Tで縄文時代前期の遺構・遺物を検出し、周知の宮林B遺跡の広がりを確認した。事業用地南西隅の200m<sup>2</sup>について保護措置が必要であり、今後、取扱い協議が必要である。



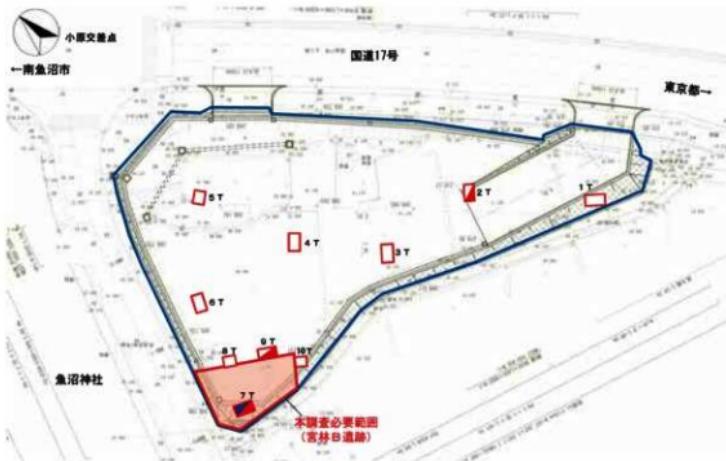
第5図 調査対象地近景（南東から）



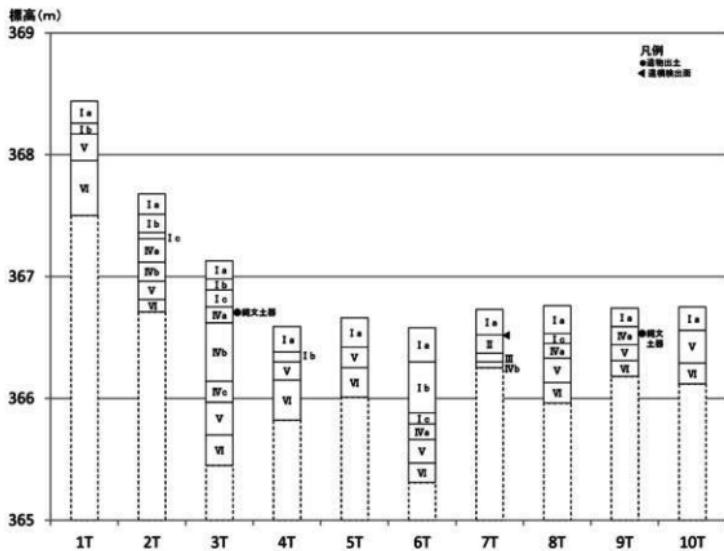
第6図 3Tトレンチ断面（南東から）



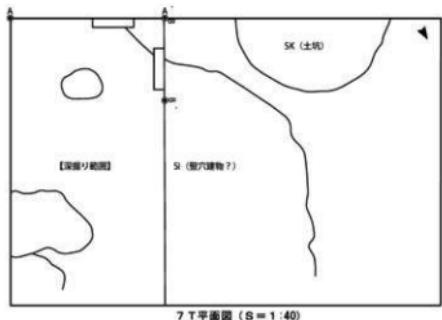
第7図 4Tトレンチ断面（北西から）



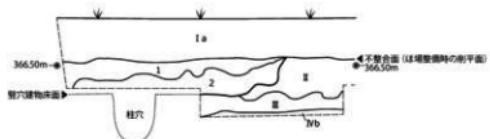
第2図 トレンチ位置図 (1:1000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



367.00m ← → 367.00m



第4図 検出遺構 断面図・平面図



第8図 6 T トレンチ断面 (南東から)



第9図 7 T 付近近景 (南東から)



第10図 7T 遺構検出状況（北東から）



第11図 7T 遺構検出状況（西から）



第12図 7T トレンチ断面 A-A'（北東から）



第13図 7T トレンチ断面 B-B'（東から）



第14図 7T 遺構内遺物出土状況（北東から）



第15図 9T トレンチ断面（南から）



第16図 7T 出土遺物



第17図 2T・9T 出土遺物

## 22 一般国道8号大潟除雪基地事業関係

### 上越市大潟区渋柿浜地区試掘調査 しぶかきはま

#### (1) 立地

日本海から約600m内陸の、砂丘上に立地する。標高は約6~6.5mで、現況は山林である。周辺には北400mに古代の渋柿浜遺跡、北東500mに中世の中ノ山遺跡が存在する。

#### (2) 調査の概要

11か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地の大半が削平されており、表土直下に新砂丘が露出した。旧地表と見られるII層を重点的に調査し、あわせて地下深部に存在する古砂丘を探査した。

#### (3) 層序

- I 層：表土
- II 層：にぶい黄褐色細砂
- III 層：灰黄褐色細砂

#### (4) 遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。



第1図 位置図 (1:50,000)  
(国土地理院発行 平成10年「柿崎」 1:50,000原図)

#### (5) 調査の結果と取扱い

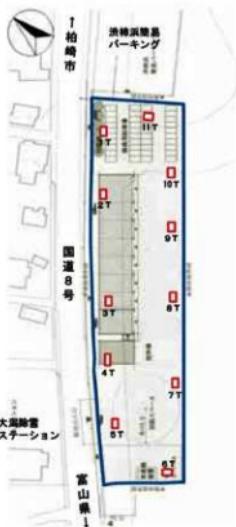
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



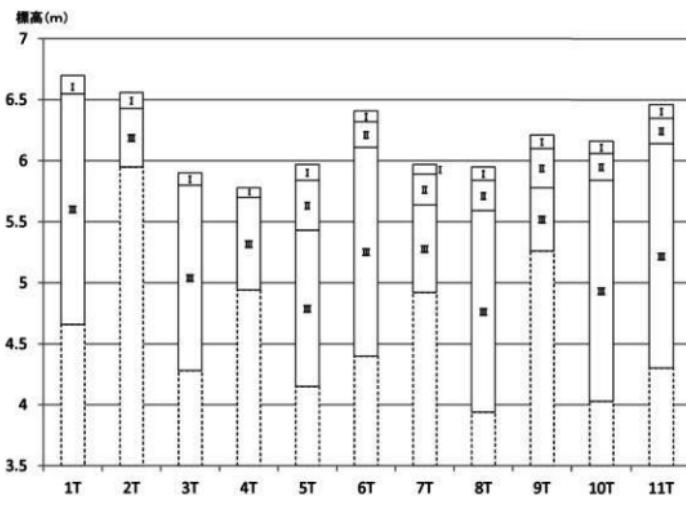
第4図 調査対象地近景(東から)



第5図 1Tトレンチ断面(南東から)



第2図 トレンチ位置図 (1:2,000)



第3図 土層柱状図(1:40)



第6図 5Tトレンチ断面(北西から)



第7図 8Tトレンチ断面(北西から)



第8図 9Tトレンチ全景(北西から)



第9図 11Tトレンチ断面(南西から)

## 23 一般国道49号阿賀野バイパス事業関係

### 「<sup>かぶらぎ</sup> <sup>ほりこし</sup> 蕪木遺跡」(阿賀野市堀越地先) 確認調査

#### (1) 立地

阿賀野川の旧河道右岸の自然堤防上に立地する。標高は約10mで、現況は道路敷である。調査対象地は、周知の蕪木遺跡の範囲内に当たる。

#### (2) 調査の概要

1か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

#### (3) 層序

道路建設時に表土が除去されており、遺物包含層に相当する層位は、この工事で削平されたと見られる。

- O 層：道路造成時の盛土
- I 層：造成時の搅乱（旧表土をブロック状に含む。）

II 層：明青灰色～灰白色シルト（遺構検出面）

III 層：灰色粘質シルト

IV 層：灰色粘質シルト（やや泥炭質）

V 層：灰色砂質シルト（下部は細砂）

#### (4) 遺構・遺物

遺構は検出されなかった。第5図では、黒色のプランを確認できるが、いずれにもビニール等を含んでおり、道路建設前の水路跡と判断した。

遺物は、古代の須恵器1点と中世陶器1点が出土した。いずれも搅乱部分からの出土であり、二次堆積物と判断した。なお、中世陶器は被熱が著しく、変色・変質している。

#### (5) 調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構は確認されなかった。遺物は2点出土したが、いずれも二次堆積物であり、今回の対象範囲については、本発掘調査不要と判断する。



第1図 位置図 (1:50,000)

(国土地理院発行 平成9年「新津」 1:50,000原図)



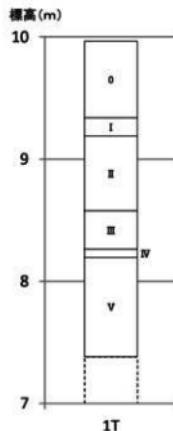
第4図 トレンチ全景（東から）



第5図 トレンチ完掘状況（南西から）



第2図 トレンチ位置図 (1:1,000)



第3図 土層柱状図 (1:40)



第6図 トレンチ全景 (西から)



第7図 トレンチ断面 (西から)



第8図 出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	れいわがん・ねんどけんないせきしきつ・かくにんちょうさほうこくしょ
書名	令和元・2年度県内遺跡試掘・確認調査報告書
副書名	県内遺跡発掘調査報告書
巻次	IX
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第290集
編著者名	加藤学・高橋保雄・塩野寛人・工藤祐大
編集機関	新潟県教育委員会
所在地	新潟県中央区新光町4番地1
発行年月日	2021(令和3)年3月17日

ふりがな 所収跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むらかみよしこう 法妙遺跡	むらかみよしこうまちあづまゆう 村上市中浜字法妙	15212	646	38° 32' 30"	139° 33' 09"	20200601～ 20200604	166	国道7号 朝日温泉道路建設
たけのしきせき 竹ノ下遺跡	たけのしきせきまちあづまけいじた 村上市越ノ内字竹ノ下	15212	682	38° 51' 67"	139° 54' 50"	20190607～ 20190610～ 20191008～ 20191017～ 20200123～ 20200127～ 20200422～ 20200605～ 20200608～ 20200624～ 20200706	749	国道7号 朝日温泉道路建設
おおかみじゆせき 大川城跡	おおかみじゆせきまちふるや 村上市府屋	15212	638	38° 51' 38"	139° 54' 19"	20200529～ 20200601～ 20200917～ 20200918	51	国道7号 朝日温泉道路建設
むらかみよしこう 上野遺跡	むらかみよしこうまちひら原 村上市樋原	15212	608	38° 29' 31"	139° 52' 95"	20190529～ 20190530～ 20191118～ 20191122～ 20200716	198	国道7号 朝日温泉道路建設
かぶらじゆせき 無木遺跡	かぶらじゆせきまちそらじ 阿賀野市福越字無木	15223	405	37° 80' 99"	139° 22' 12"	20201204	40	国道49号 阿賀野バイパス建設
さとうじゆせき ササラ西遺跡	さとうじゆせきまちながやま 長岡市川口中山	15202	1498	37° 26' 27"	138° 86' 76"	20201029～ 20201130	96	国道17号 川口待避所建設
かながわいせき 金屋遺跡	かながわいせきまちよなか 南魚沼市余川	15226	24	37° 08' 12"	138° 87' 36"	20191125～ 20191126～ 20201116～ 20201119	115	国道253号 八箇峰道路建設
むいかまちよじゆせき 六日町藤塚遺跡	むいかまちよじゆせきまちよかけ 南魚沼市余川	15226	301	37° 07' 74"	138° 87' 68"	20201119～ 20201125	42	国道253号 八箇峰道路建設
みやめじゆせき 宮林B遺跡	みやめじゆせきまちよなか 湯沢町神立	15461	56	36° 93' 15"	138° 82' 13"	20200803～ 20200804	109	国道17号 神立待避所建設
かくていせき 館遺跡	かくていせきまちよなか 上越市飼林	15222	1576	37° 14' 03"	138° 32' 85"	20190919	92	国道253号 上越三和道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
法妙遺跡	遺物包含地	縄文	なし	なし	
竹ノ下遺跡	遺物包含地	平安・中世	土坑・溝・ピット	土師器・製塙土器・乳頭器・珠洲焼・青磁・鉄滓	
大川城跡	城館跡	中世	テラス	なし	
上野遺跡	遺物包含地・集落跡	縄文	焼土範囲	縄文土器	
蘿木遺跡	遺物包含地	平安・中世	なし	須恵器・中世陶器	
ササラ西遺跡	遺物包含地	縄文・中世	なし	縄文土器・石器・鐵貨	
金屋遺跡	遺物包含地	平安	溝・ピット	土師器・須恵器	
六日町藤塚遺跡	遺物包含地	古墳・平安	堅穴建物・土坑・溝・ピット	土師器・須恵器	
宮林B遺跡	遺物包含地	縄文	堅穴建物・土坑	縄文土器・石器	
窓遺跡	遺物包含地	平安	楕立柱建物・土坑・溝・ピット	土師器・須恵器	
要 約				・道路事業に伴う試掘・確認調査を令和元年度に19か所、令和2年度に23か所で実施した。 ・竹ノ下遺跡、ササラ西遺跡を新発見し、周知の金屋遺跡、六日町藤塚遺跡、宮林B遺跡の範囲を拡大した。竹ノ下遺跡では古代・中世の製塙・製鉄関連資料、ササラ西遺跡では縄文時代後半の遺物包含層、金屋遺跡、六日町藤塚遺跡では平安時代の堅穴建物等、宮林B遺跡では縄文時代前期の堅穴建物、窓遺跡では平安時代の楕立柱建物を検出した。	

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第290集

県内遺跡発掘調査報告書IX

令和元・2年度県内遺跡試掘・確認調査

令和3年(2021)年3月15日印刷

令和3年(2021)年3月17日発行

編集・発行 新潟県教育委員会

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

電話 025(285)5511

印刷・製本 株式会社ハイングラフ

〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号

電話 025(233)0321

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第290集『令和元・2年度県内遺跡試掘・確認調査』 正誤表  
2021年4月追加

頁	位置	誤	正
抄録	竹ノ下遺跡 北緯／東経	38°	38°
		51'	54'
		67"	50"
抄録	大川城跡 北緯／東経	38°	38°
		51'	54'
		38"	19"
抄録	上野遺跡 北緯／東経	38°	38°
		29'	52'
		31"	95"
抄録	蕉木遺跡 北緯／東経	37°	37°
		80'	22'
		99"	12"
抄録	ササラ西遺跡 北緯／東経	37°	37°
		26'	86'
		27"	76"
抄録	金屋遺跡 北緯／東経	37°	37°
		08'	87'
		12"	36"
抄録	六日町藤塚遺跡 北緯／東経	37°	37°
		07'	87'
		74"	68"
抄録	宮林B遺跡 北緯／東経	36°	36°
		93'	82'
		15"	13"
抄録	館遺跡 北緯／東経	37°	37°
		14'	32'
		03"	85"
			25"
			43"